

博士論文

ICT化されたルーブリック評価法を活用した保育実習プログラムの開発

— 評価過程と省察におけるエピソード紐付け法による改善を目指して —

Development of the Childcare Internship Program making use of an Internship Assessment Rubric integrated the ICT

: Toward the amelioration of the evaluation process and the reflection by the Episodic Matching Method

国立大学法人 横浜国立大学大学院
環境情報学府

尾崎 司

Tsukasa Ozaki

2021年3月

目 次

序章

1. 研究目的	1
2. 本研究における課題設定の背景	1
3. 研究方法	3
3-1. プログラム開発のためのアクションリサーチ	3
3-2. 研究の手続き	3
3-3. 対象となる実習と授業の概要	4
4. 本研究の意義	5

第1章. 実習教育における評価と指導の課題

1. 保育実習における実習プロセス	7
1-1. 保育実習指導のミニマムスタンダード	7
1-2. 保育実習プログラム	7
1-3. 実習プロセス	8
2. 実習教育における省察	10
2-1. 本研究における省察の定義	10
2-2. 実践知と省察モデル	10
3. 実習の省察を妨げる評価構造上の問題	12
3-1. 省察を妨げるフィードバックの問題	12
3-2. 省察を妨げる実習評価票の問題	13
3-3. 実習プログラム開発に向けての本研究の枠組み	14

第2章. ルーブリック評価法を活用した省察支援

1. ルーブリック評価法の検討	16
1-1. パフォーマンス評価としてのルーブリック	16
1-2. 成長を促す形成的評価と学習促進機能	16
1-3. 学外実習へのルーブリック適用可能性	17
2. 保育実習領域への適用	18
2-1. 保育実習領域におけるルーブリックの先行研究	18
2-2. 保育実習領域への適用の課題	19
3. エピソード記述方法論の検討	20
3-1. エピソード記述方法論	20
3-2. エピソード記述法による省察	20
4. エピソード紐付け法の考案	22
4-1. エピソードを評価観点に紐付けした省察方法	22
4-2. 実習用ルーブリックが提案する新しい使い方	22

第3章. 実習用ルーブリックの開発（研究Ⅰ）

1. 開発の背景と研究デザイン	25
1-1. 開発の背景	25
1-2. 研究デザイン	25
2. ルーブリック開発過程と研究成果	26
2-1. ワーキング・グループからのフィードバック	26
2-2. シンポジウムからのフィードバック	27
2-3. 試行による修正	28
2-4. 現時点での成果	30
3. ルーブリック開発過程の考察	30
3-1. 学生参加と保育現場の連携による評価基準共有の意義	30
3-2. ルーブリック導入による評価観の転換と新たな評価ツールの提示	31

第4章. 実習用ルーブリックの試用と改善（研究Ⅱ）

1. 開発の背景と研究デザイン	33
1-1. 開発の背景	33
1-2. 研究デザイン	33
2. 中間評価の試用における結果と考察	34
2-1. ルーブリック使用に関する検討	34
2-2. 中間評価における三者モデルの検討	35
2-3. 複数の評価者への対応	36
2-4. 使用を重ねる中での到達点	36
3. 事後学習の試用における結果と考察	37
3-1. 省察ツールとしての事後学習シート	37
3-2. 承認欲求を満たす学習環境	38

第5章. 実習のためのアセスメント・システムの構築（研究Ⅲ）

1. 開発の背景と研究デザイン	40
1-1. 開発の背景	40
1-2. 研究デザイン	40
2. ICT を活用したアセスメント・システム	41
3. 学びの可視化による実習経験の考察	42
3-1. 実習経験を通じた学びの可視化	42
3-2. メタ省察過程の分析	43

第6章. 総合考察

1. ルーブリック活用による実習プロセス	47
1-1. ルーブリックによる実習中の学習促進	47
1-2. OODA ループからみた実習プロセス	47

2. ルーブリック活用による省察支援の促進	49
2-1. 実習中から実習後まで連動した省察支援	49
2-2. 実習における省察支援の2形態	50
終章. 結論	51
参考・引用文献	54
巻末資料	58
謝辞	73

ICT化されたルーブリック評価法を活用した保育実習プログラムの開発 － 評価過程と省察におけるエピソード紐付け法による改善を目指して －

序 章

1. 研究目的

本研究の目的は、パフォーマンス評価の一つであるルーブリック評価法に着目し、それを活用した保育実習プログラムを開発することにある。ルーブリックの活用に関しては、実習中のエピソードをルーブリックの評価指標に紐づける方法を考案し、通常とは異なる独自の使用方法であることを定義した上で、保育実習領域へのルーブリック評価法の導入とそれを活用した仕組みの構築を検討する。

2. 本研究における課題設定の背景

本研究は、保育実習プログラムの開発にルーブリックを活用するという、これまでにない新しい試みと教育実践を対象としている。保育実習にルーブリックを活用することによって実習生の主体的で深い学びが可能となり、日本の「保育の質向上」に寄与すると考えたからである。

この新たな保育実習プログラムの開発に至る背景には、2つの社会的要請がある。1つは、国際的な潮流である「保育の質向上」に対する国家的な取り組みである。もう1つは、高等教育における学習観の転換への要請である。この2つの要請は、高等教育機関における保育士養成課程、とりわけ保育現場での実践力を培う実習教育の改善・充実を求めている。

第1の要請では、近年、国際的な流れとして、生涯学習社会における保育（幼児教育と養護）の重要性や乳幼児期における教育的投資への認識が高まり、「保育の質向上」へ向けた仕組みづくりが喫緊の課題となっている。しかし、初等教育以降の教育の質に比べ、保育の質をとらえることは難しく、これまでその重要性が十分に理解されてこなかった。秋田・佐川（2011）は、Bernstein（1985）の「見えない教育方法」という言葉を用い、幼児教育における学習内容の質評価が難しいことを指摘している。すなわち、就学前における保育の営みは小学校以降の義務教育に比べ、「①民間による運営が多い、②学習内容・評価が可視化されにくい、③発達の個人差が大きい、④子どもの発達だけでなく保護者の就労や親としての育ちなどの対応ニーズに教育と福祉を同時に考えることが求められる」という乳幼児期の保育・教育独自の特徴に言及している。

秋田ら（2007）は、日本における保育の質研究をレビューした上で、日本における保育の質とは「その指標や方法は多様でありつつも、研究と保育実践の両面において、『子どもの活動に対し、保育者がどのように携わるか』といった『保育者のあり方』や、そのための『保育者の意識変容』という『保育者の専門性』を問うてきたことが明らかになった」と述べている。そして、「保育の質とは、一元的に収斂できるものではなく、人間性や専門知識・技術とが複合的に絡まり合う『保育者の専門性』と、物的環境・労働条件・人間関係といった様々な要因とが相互に関連し合った結果として、保育実践の中に立ち現れるものと言える」と述べている。また、鯨岡（2000）は、保育者の専門性とは、①保育者の理論的・理念的専門性または保育者の計画・立案の専門性、②受け入れ・認める／教え・導くという両義的な保育を実践する専門性、③保育者の反省的専門性またはふりかえりの専門性であるとしている。こうした専門性を高め、意識変容を促す取り組みとして、園内外で様々な教育・研修が取り組まれている。園外研修では、各自治体・全国単位で様々な講座がラインナップされ、それを受講することで保育者の待遇改善・地位向上とも結びついている。

日常業務における経験を通じた園内研修としては、主に「保育カンファレンス」が取り組まれてきた。若林・杉村（2005）によれば、「保育カンファレンス」とは、もともと医療、看護、臨床心理などの現場において、ある臨床事例に対する適切な判断、対処を決定するためにおこない「話し合いを通じて専門性を高める」というカンファレンスの考え方を保育現場に導入したものである。若林・杉村（2005）は、森

上(1996)が示した5つの保育カンファレンスの特徴から、保育カンファレンスを「論争を繰り返し1つの適切な正答を求めていくものではなく、むしろそれぞれの保育士がある事例の問題を自分ごととしてとらえ、保育観ないしは保育士としての姿勢を再構築する場」であるとしている。吉田ら(2018)は、先行研究をレビューした上で、保育カンファレンスが、保育者自らの行為を振り返り、保育実践を改善修正できるような「揺さぶり」や「開かれた場」をもたらし、「瞬間的」「直観的」「無意識」に捉えていた気付きを再度意識し、実践の中の気付きを「意味付け」「確認」「意識化」する場と捉えている。また、保育者の思い込みを是正し、別の面から考え直す視点の多角化を提供する場としても位置付けている。保育カンファレンスでは、「保育記録(エピソード記述)」は意見交換や省察の際の根拠となっており、保育者が自身の体験を記述し語ることが保育の振り返りや子どもの捉え直しとなるとして、「保育記録(エピソード記述)」での振り返りに着目している。秋田・佐川(2011)は、こうしたカンファレンスや研修による保育の質向上は、保育者や子どもの様子、保育内容等の実態に即した方法であると認めつつも、その反面、質尺度を使用したものに比べ、その質が高まったか否かの判断が見えにくいという問題も指摘している。

このように、保育の質向上を目指す国際的な動向の中であって、質に関する評価尺度・ツールの開発よりも、「保育者のあり方」や「意識変容」という保育者の専門性に焦点が当てられていることが日本独自の特徴としてあげられる。そして、対話による保育カンファレンスや保育記録(エピソード記述)による保育の省察は、日本の保育業界における文化的な側面を形成しているのである。

保育の質向上に向けての、保育者の専門性開発及び省察は、保育現場で働く保育者のみを対象とするのではなく、養成段階から継続して図られることが重要であり、保育者のキャリア・パスを含めた包括的な取り組みが求められている。国家資格である保育士資格は、保育士養成課程が認定された指定保育士養成施設(専門学校・短期大学・大学など:以下、養成校と示す)における所定の単位取得か、もしくは保育士試験に合格するかという、いずれかの方法によって取得される。保育士養成課程においては、所定の単位を取得すれば卒業と同時に保育士資格が付与される。その中でも保育実習に関する科目は、保育実践に直結し実践力を高める重要な科目であり、保育士試験では得られない実践知を獲得する機会となっている。

これまで、日本における保育のガイドラインである「保育所保育指針」は、その内容や運用について幼稚園教育要領や学校教育法、児童福祉法などと連動し、社会に即した改定を重ねてきた。そして、その改訂は、当然、その養成校における保育士養成課程とも連動している。近年の改訂を見てみると、2008年に保育所保育指針が改定され、それに伴い2010年の保育士養成課程の改正がおこなわれた。2010年の保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)では、「保育実習の重要性が再認識され、実践力のある保育士養成を目指し、2年制養成を基盤とすることから保育士養成課程の総単位数は増やさないという方針の中で、実習指導が2単位増えた」(全国保育士養成協議会、2018)ことから分かる通り、実習指導を核として実践力の強化を図っている。次の2017年に告示された保育所保育指針の改定に伴い、「保育士養成課程の見直しについて(検討の整理)」(2017年12月)が公表されたが、これに加えて全国保育士養成協議会が実施した「保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究」の成果等を踏まえ、2018年には保育士養成課程の見直しが行われている。とりわけ、キャリア・パスを見据えながら専門性の向上を図ることや、連携・協働の必要性を強化した点は、今後の保育士養成の主流の考え方になりつつある。このように、保育所保育指針の改定や養成校における保育士養成課程の改正を受けて、養成段階から保育者の専門性を高める取り組みが一層強化されている。

本研究の実習用ルーブリックを開発する過程において、保育現場と連携・協働し、キャリア・パスを見据えながら専門性の向上を図る理由は、これまで述べてきた社会的要請に呼応している。そして、このような社会的要請の中で、対話を通じた保育カンファレンスや保育記録(エピソード記述)によって保育を省察する保育業界の文化を活かしつつ、実習生の専門性開発及び省察を現場実習を通じ、どのように行っていくべきかを検討する視点を重視している。

第2の要請として、近年、高等教育では中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて」(2012)にも示されるように、「教員が何を教えるか」から「学生が何を学び、何ができるようになったか」という学習観の転換が叫ばれている。それに伴って、アクティブ・ラーニング(能動的学修)が注目され、そうした学修活動の評価に関しても検討されている。そうしたなか、学習の「質」とその評価のあり方を考えるうえで、パフォーマンス評価やルーブリックに関する議論と実践が数多くなされるようになってきた。

パフォーマンス評価(performance assessment)とは、教育評価事典によれば「評価しようとする能力や

技能を実際に用いる活動の中で評価しようとする方法」のことで、ルーブリック(rubric、評価指標)はその達成状況レベルを質的に評価する基準の一つである。ルーブリックとは、「課題、評価尺度(達成レベル・成績評価点)、評価観点(課題が求める具体的なスキルや知識)、評価基準(具体的なフィードバック内容)のすべてを表形式で配置」し、「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」のことである(Stevens and Levi, 2014, p. 2, p. 4)。一般的にルーブリックとは、「評価観点」を縦軸に、「学修状況の度合いを示す尺度」を横軸にしたマトリックスで、それぞれの尺度には観察可能な特徴を示した記述語が記されている。ルーブリックは測定が難しいパフォーマンスの評価に向いているとされ、指導と評価の一連の過程にルーブリックの改善・修正を位置づけることによって、学習者の実態をルーブリックに反映させながら、「指導と評価の一体化」を図るものとして用いることができる。また、「実際の活動を通して評価する」というパフォーマンス評価の特徴は、実習行為にアプローチする上でも適していると考えられる。Stevens and Levi (2014)には、サービス・ラーニング、フィールドワーク、インターンシップなどの体験学習のためのルーブリックが検討され、学内学習でもその有効性が示されている。

本研究でルーブリックの導入を検討している保育実習(学外授業)は、学外でのアクティブ・ラーニングととらえることができ、「実際の活動を通して評価する」というパフォーマンス評価は、これまでの保育実習の評価をめぐる問題に解決への道筋を与えることができると考えられる。保育実習の中で生じる様々な学びには、例えば子どもたちの実態に即して保育や発達に関する知識を習得することや、現場の状況に応じて自分なりに保育実技などの技能を運用すること、日々の保育や保育行為を記録し省察しながら日々の保育に活かすことなどが求められる。さらに、実習生が保育という仕事へ実際に参加し、自らの保育行為を自己評価や他者評価を通じて省察し行動変容をすることによって、状況に即した経験学習や職業学習が生起している。すなわち、実習生は養成校の授業で学習した知識・技能にとどまらず、それを仕事の現場で習熟させつつ経験的な知を獲得することが求められ、評価および省察の方法とそこで得られる学びは卒業後の仕事の枠組みに大きく影響し連続性を持つのである。それゆえに、実習の学びは医療・看護・福祉等の分野同様に、職業人としての保育者養成に直結した学習活動であるため、学外活動であるサービス・ラーニングやプロジェクト学習、フィールドワークとも一線を画している。

これまで見てきたように、2つの社会的要請は、実習生の主体的な専門性開発及び省察に向けた学習支援という新たな視点を必要とする。これまでの保育実習では、全国保育士養成協議会が「保育実習指導のミニマムスタンダード(2007, 2018)」で提示する保育実習モデルが普及しているが、こうした新たな視点から実習プログラムを開発する必要がある。例えば教師教育の分野ではKorthagenら(2010)によるリアリスティック・アプローチの理論とそれに基づく実習プログラムが提案され、日本の幼児教育・教員養成課程の分野(例えば小野寺ら:2016、山本ら:2016、村井:2019)にも導入が試みられている。

本研究では、養成校と保育現場との連続した学びを可能にし、保育現場で得た学びを省察する理論的なモデルとその具体的な方法を学問的に提案できるのではないかと考えている。また、本研究で示す実習モデルは、学問的なモデル提示のみならず、筆者が保育実習担当教員として実際に従事する保育実習指導の教育実践を反映しており、教育実践での有用性も期待される。

3. 研究方法

3-1. プログラム開発のためのアクションリサーチ

ルーブリックとそれを活用した仕組みを構築するために、アクションリサーチをおこなう。アクションリサーチとは、質的研究用語事典によると、「クルト・レヴィンが1940年代に創案した用語であり、社会科学の実験的アプローチと、社会問題に取り組む社会的行動計画とを結びつけた研究」であり、「その目的はCarr&Kemmis(1986)が指摘するように『関与と改善』である」としている(Schwandt, 2007)。研究者が現場に介入し、当事者の人々と協働して実践の改善に取り組むことによって、実践を通じた知見を得ることができるため、アクションリサーチは現場に密着したプログラムの開発に適している。アクションリサーチを本研究に用いるメリットは、①保育現場との連携や学生の参加によって、立場の異なる人々が現場に適合したモデルを生成できるという点、次に②作成したルーブリックを実際に現場で使用しながら、その使用感を当事者にインタビューし現場の人々と共に感じ取り改善することができるという有用性にある。

3-2. 研究の手続き

研究Ⅰでは、ルーブリック作成の研究をおこなう。フォーカスグループ・インタビューにより予備調査をおこない、現場園長・教員・学生と協働してルーブリック作成のためのワークショップを実施し、作成する。研究Ⅱでは、作成したルーブリックの試用と改善に関する研究をおこなう。実習中には実際にルーブリックを使用し、半構造的インタビューを用いてその使用感を明らかにする。実習の事後に振り返る授業では、ルーブリックの自己評価とその根拠となるエピソードを記述し、そのエピソードにコメントし相互評価をおこない、この事後学習に関する事例研究をおこなう。研究Ⅲでは、ルーブリックで得られた実習情報や、巡回訪問教員による実習報告情報を活用するために、さらに ICT を導入しシステム化を試み、それまでの知見を総合考察して、保育実習プログラムの開発を行う。また、テキストマイニングによって、実習情報のデータ分析をおこなう。全体の流れは、表1の通りである。

なお、研究協力園や実習生へのインタビューでは、研究概要及びその成果の公開に関して文書及び口頭で事前に説明し、同意を得た上でおこない、個人情報の保護に配慮している。インタビューに負担を感じる場合には、辞退できることも伝えている。Web アンケートでは、文末に研究承諾の同意を選択するボタンを設定し、承諾のデータのみを使用したうえで、個人情報の保護に配慮している。事例研究では、協力者に研究同意書の署名を取っている。

表1. 研究の手続き

フェイズ	年	内 容
研究Ⅰ	2016	研究Ⅰ ルーブリック作成の研究 予備調査（フォーカスグループ・インタビュー）
	2017	a) 現場園長・教員・学生によるルーブリック作成ワークショップ（5回） b) シンポジウムを活用したルーブリックの検討 c) 成果物としての実習用ルーブリックを作成
研究Ⅱ	2018	研究Ⅱ 作成したルーブリックの試用と改善に関する研究 a) ルーブリックを用いた中間評価に関するインタビュー b) ルーブリックを用いた事後学習に関する事例研究
研究Ⅲ	2019	研究Ⅲ ICT を導入したシステム化 a) ルーブリックを用いた事後学習に関するテキスト・マイニング研究 b) ICT を活用した「実習のためのアセスメント・システム」の開発

3-3. 対象となる実習と授業の概要

本研究では、東京家政大学短期大学部保育科1～2年次が履修する「保育実習Ⅰ（実習4単位）」と「保育実習指導Ⅰ（演習2単位）」を取り上げる。2018年の履修者は保育科2年次109名（3クラス）であり、2019年履修者は保育科2年次116名（3クラス）が対象となっている。日本の保育士養成課程では、国家資格である保育士資格は、国が定めた科目及び保育実習（実習6単位約270時間）の単位を取得すれば、卒業と同時に資格を取得できることになっている。

「保育実習Ⅰ」では、事前・事後の学修時間数を含む約2週間（おおむね90時間）の学外実習を2回実施することとなっている。「保育実習指導Ⅰ」は、初めての实習である「保育実習Ⅰ」に向けての事前・事後実習指導の授業であり、その授業に加え事前・事後の学修時間数はそれぞれ各回50分程度を設定している。ここで取り上げる「保育実習指導Ⅰ（事後学習）」は演習2単位であるが、すでに事前学習分と学外実習を終え、残りの時間数4回分を事後学習として設定している。「保育実習Ⅰ」の評価は、実習への取り組みに関する評価票に基づく実習先からの評価(70%)、提出物(30%)となっており、「保育実習指導Ⅰ」の評価は授業内でのワークへの取り組み(100%)である。学修到達目標と、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関係は、表2の通りである。

本研究における筆者の教育・研究上の立場は、授業と実習マネジメントを担う実習担当教員のチームリーダーである。

表2. 学修到達目標と、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関係

授業名	保育実習 I (実習 4 単位)	保育指導実習 I (演習 2 単位)
学修到達目標	<p>保育所・児童福祉施設等の保育を観察・体験することを通して、以下の目標を達成する。(DP1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明できる。(DP5) 2. 発達の違いによる子どもの姿を具体的に説明できる。(DP2・DP6) 3. 子どもの生活、健康、遊びを支える援助の仕方を具体的に説明できる。(DP3) 4. 保護者への支援について具体的に説明できる。(DP8) 5. 保育課程と指導計画の関係及び、指導計画を作成する際の留意点と配慮について説明できる。(DP5) 6. 保育士の業務内容と職業倫理について具体的に説明できる。(DP5) <p>*DP=ディプロマポリシー</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の目的、内容、意義を踏まえて、実習での課題を具体的に考えられる。(DP1・DP2・DP4) 2. 日誌の書き方を説明できる。(DP5) 3. 指導案の書き方を説明できる。(DP5) 4. 保育実技を実行できる。(DP3・DP5) 5. 実習までの準備を考え実行できる。(DP5) 6. 実習生としての責任を自覚し、適切な態度・行動が取れる。(DP6) <p>*DP=ディプロマポリシー</p>
ディプロマポリシー *一部抜粋	<p>[知識・技能] *DP=ディプロマポリシー</p> <p>DP1. 保育者に必要とされる学び(主に幼稚園教諭免許・保育士資格の関連科目)を充実させ、その学修内容を説明することができる。</p> <p>DP2. 保育者に必要とされる学び(主に幼稚園教諭免許・保育士資格の関連科目)を通して、子どもの特性を理解し、具体的に説明することができる。</p> <p>DP3. 子どもの健やかな育ちを保障し、促すための技法や技術のいくつかを発揮することができる。</p> <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <p>DP4. 子どもにとっての幸福について、多様な考えをもつことができる。</p> <p>DP5. 子どもの生活や遊びの充実に向けた保育を考えることができる。</p> <p>DP6. 子ども一人ひとりの特徴や必要性に応じた保育環境を設定することができる。</p>	
カリキュラムポリシー *一部抜粋	<p>[教育課程編成の全体方針]</p> <p>幼稚園教諭二種免許及び保育士資格を、2年間で取得することに特化した学修内容を提供します。もちろん、卒業後、保育実践の現場に出て、すぐに一人の責任ある保育者として活躍できるだけの学びが得られるカリキュラムを構成しています。</p> <p>[教育方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体的で能動的な学修を促すため、保育内容関連の科目を中心として、人やものに触れる体験的な授業内容を多く提供します。 ・学生が協同的な学修を行うために、研究発表や製作活動などを含んだ授業内容を提供します。議論することによって考える力を、発表することによって発信する力を高めます。 	

4. 本研究の意義

本研究の意義は、これまでPDCAサイクルを基盤とし螺旋上に展開するとされていた保育実習プログラムとその省察モデルの過程を検討し、ルーブリック評価法の活用による実習プログラムを提案することによって、実習教育に新たな学術的モデルを提示する点にある。

この研究は、新規性、有用性、汎用性という3つの観点から、ルーブリック研究や対人援助職養成の基盤となる実習教育、そして卒業後教育や地域と連携する教育などに貢献が期待されるものであると考える。

(1)ルーブリック研究に新しい適用領域と使用法を提示

第1に、ルーブリックを保育実習(学外実習)という新しい領域に適用し、ルーブリックの新しい使用法を考案することによって、ルーブリック研究に新しい適用領域と使用法を提示することである。

これまで保育実習の領域では、ルーブリック研究は散見されるが、使用するレベルではなかった。本研究では、ルーブリック評価法が「評価基準の標準化」と「適切なタイミングでのフィードバック」を促進するとして、実習評価票の運用に関する問題解決を試みている。

また、これまでルーブリックの評定では数字による段階の点数化はなされていたが、さらに評価の根拠としてエピソードを記述することにより、実習領域での使用が有効になるのではないかと仮説のもと、ルーブリックの適用を試みている。この背景には、保育領域においてエピソード記述法が使用され

ており、エピソードを活用することにより、保育業界の文化を阻害することなくスムーズにルーブリック活用へとつなげることができるのではないかと考えたからである。これまではこうした使用法は教育学の中では行われていなかったが、新領域への適用がこの新規性を生み出したと言えよう。

さらに、ルーブリックの評価基準にエピソードを紐付ける方法は、アクチュアルな実習情報を文字データに変換し ICT を活用した取り扱いを可能にする。これによって、実習中に生じる学習プロセスをある程度可視化することができ、教育・研究に活かす道筋を得ることができる。

(2)実習プロセスと省察を促進する仕組みやツールの提示

第2に実践研究としての有用性があげられる。保育現場や学生と連携・協働することにより、実習評価者である保育現場と被評価者である学生の声を反映したルーブリックを作成することができる。また、保育現場と連携した研究を行うことで、実習中に教員の把握が難しかった学びのプロセスを把握し、実習中の学習促進と指導を可能にすることができる。

こうした保育現場の実践研究は、実習プロセスと省察を促進する仕組みやツールの開発に支えられている。本研究では、実習用ルーブリック、ルーブリックを活用した実習日誌、ルーブリックを活用した事後学習シートなどの具体的なツールや方法が提示されている。また、こうしたツールで得られたアセスメントデータを ICT 活用により収集・蓄積し、教員組織内で情報共有しながら、学生のケアと学習促進を支援する仕組みを構築している。

これまで、実習日誌や振り返りシートによる振り返りは行われていたが、評価と指導を連動させることのできる具体的なツールや方法がなく、ICT を活用したシステムによる教員組織内での情報共有も行われていなかった。実習用ルーブリックをはじめとする新たなツールと、ICT を活用したシステムによって、これまで課題であった学外実習における「指導と評価の一体化」を促進できる仕組みを提示することができる。

(3)卒後教育や学外実習を含む学外授業への汎用性

第3は、本研究における実習プログラムや開発したルーブリックの汎用性である。本研究で示す実践研究の手続き、ルーブリック使用法、ルーブリックを活用したツールや仕組みは、1つのモデルとして他の各種実習や学外学習・地域と連携した学習などへ応用可能であると考えられる。

また、保育現場との連携を深めることによって、キャリア・パスに対応した保育者用ルーブリックに展開することが可能であり、養成段階から卒後教育まで連続性を持ったモデルとしても提示できることが期待される。

第1章. 実習教育における評価と指導の課題

1. 保育実習における実習プロセス

1-1. 保育実習指導のミニマムスタンダード

全国保育士養成協議会は、2005年に作成された報告書「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ～保育実習指導のミニマムスタンダード」をもとに、「保育実習指導のミニマムスタンダード」（以下、ミニマムスタンダードもしくはMS）を策定した。このミニマムスタンダードは、全国保育士養成協議会（2007, 2018）によると、「全国の保育士養成校が共有する保育実習指導に係る標準的事項を提案」し、「養成校と実習施設の実習指導者相互が共有できる保育実習指導に係るMSを構築すること」を目的としている。この策定に至るまでには、「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅰ～保育実習の実態調査から」（全国保育士養成協議会、2002）や「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ～保育実習のミニマムスタンダード確立に向けて」（全国保育士養成協議会、2004）などの実態調査や事例研究をおこない、そこから導き出された試案を会員養成校や関係する職能団体等へさらに質問紙調査や意見・提案などの情報収集を重ねて提起されたものである。

増田ら（2011）は、「保育実習指導のミニマムスタンダード」の作成とそれに至るまでの集積された実習研究に対して、保育実習に関する教育・研究にいわば共通の「柱」を立てることとなった画期的な試みであると評している。保育者養成を行なう高等教育機関では、保育現場での実践と深く結びつく実習およびその評価と指導のあり方に大きな関心が寄せられ、これにどう取り組むかが保育の質向上に大きな影響を与えると考えられている。2017年改正版ミニマムスタンダードでは、さらに内容がバージョンアップされ、「保育実習の効果は、養成校教員とりわけ実習指導者、実習施設と施設長、実習指導担当職員とりわけ保育士との緊密な連携・協働の如何によって左右される。座学と実学の往還性は、その連携・協働を前提として成り立っている」として、①養成校内での教員同士の協働、②養成校間の協働、③養成校と保育現場との協働という3つの連携・協働が強調されている。

ミニマムスタンダードの功績は、増田ら（2011）が「共通の柱」や「集積された実習研究」と指摘したように、標準的事項（ミニマムスタンダード）の確立と、先行研究のレビューや大規模アンケート調査、事例研究などによる裏付けにある。保育現場と養成校では、これまでその指導内容や指導方法が多様で偏りがあることを指摘されていたのに対し、ミニマムスタンダードは実習指導を「標準化」することによって、保育者養成の質が担保され卒業後には保育者としての質向上に大きな足がかりを提供することに成功し、一定の方向性を示したと言える。しかし、ミニマムスタンダード策定の経緯には様々な意見や考え方が紹介されており、これらの意見・考え方が全て網羅され十分応える形で標準的事項（ミニマムスタンダード）となっているわけではない。むしろ、保育実習指導の質向上に向けて、さらなる調査研究が進められている途上であると言える。

1-2. 保育実習プログラム

厚生労働省雇用均等・児童家庭局長による通知された「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」という文書（H30.4.27付）には、指定保育士養成施設、すなわち保育士養成校の運営基準が定められており、その中には保育実習実施基準が示されている。養成校はこの基準を遵守し、実習プログラムは各養成校の特色に基づいて実施されるが、ほとんどの養成校は現在、前述したミニマムスタンダードをもとに実習指導を行なっている。

保育実習は、表3のように実施される。保育実習は、保育実習Ⅰ（認可保育所と施設の2箇所）と保育実習Ⅱ（保育所1箇所）もしくは保育実習Ⅲ（施設1箇所）というように、全部で3回行く必要があり、保育所実習2回か施設実習2回かを選択することができる。実際に実習に行くことで単位取得できる必修科目である「保育実習」では、事前指導・事後学習の科目である「保育実習指導」を実習の事前・事後に実施する必要がある。本研究で対象とするのは、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱ（選択）及び保育実習指導Ⅰ・Ⅱを選択するケースである。本研究では、これらの保育実習に関連する教科カリキュラムを総称して保育実習プログラムと呼ぶことにする。

保育実習指導Ⅰ・Ⅱは、実習に向けて、学内での事前事後学習を行う演習科目として開講されている。事前指導では、保育実習の意義と目的に関する講義の他、発達の理解、保育者の関わり（援助）、職業人としての所作、安全への配慮、疾病予防などの講義、実習に向けた目的意識や心構え、観察や記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備などの指導・助言などを中心とする内容から構成されている。事後学習では、自らの実習体験を振り返り、自己評価しながら、自らの課題を認識し、さらに学内での学びへ結

表 3. 保育実習の教科目

教科目名	実習施設	主な内容	履修	単位
保育実習指導Ⅰ	(学内)	事前指導 事後学習	必修	1
保育実習指導Ⅱ			選択	1
保育実習指導Ⅲ				1
保育実習Ⅰ	認可保育所	観察実習 参加実習 部分実習	必修	2
	保育所以外の 居住型福祉施設			2
保育実習Ⅱ	認可保育所	部分実習 責任実習	選択	2
保育実習Ⅲ	保育所以外の 福祉施設			2

びつけるなど、実習経験を振り返り、学びを得る内容から構成されている。この時期に、同学年やこれから実習を初めて行う学生に向けて、実習体験とそこから得られた学びをポスター発表などの報告会という形で伝える機会を設ける養成校もある。

保育実習Ⅰは、認可保育所ならびに居住型福祉施設において、生活に参加しながら入所する児童や利用者の方々の姿を知り、理解を深めると共に、保育所を含む児童福祉施設の役割ならびに職員の職務の実際とその意義について学ぶことを目的としている。主として観察実習・参加実習という形での実習であるが、部分実習（手遊びや絵本の読み聞かせなど）もおこなう。保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰの内容を踏まえ、保育所の役割と意義に関するより深い理解を図ると共に、学内での学習内容をもとに保育士としての実践力を培うことを目的とし、指導計画の立案ならびにその実践（部分実習・責任実習）をおこなう。

実習プログラムとしては、保育実習指導Ⅰで事前学習をおこない、保育実習Ⅰで保育所・福祉施設での実習を約2週間ずつ経験する。保育実習Ⅰの終了後、保育実習指導Ⅰで事後学習（振り返りと課題の明確化）をおこない、保育実習Ⅰは終了する。続いて保育実習指導Ⅱで、事後学習における課題の明確化を元に事前学習をおこない、保育実習Ⅱで2回目の保育所実習を約2週間経験する。保育実習Ⅱの終了後、保育実習指導Ⅱで事後学習（振り返りと課題の明確化）をおこない、保育実習Ⅱと実習プログラムの全ての過程が終了する。

実習期間中には、教員は中間時期に実習施設へ巡回訪問指導をおこない、実習生の様子や子ども（利用者）と職員との関係性を把握し指導・助言している。巡回訪問の際には、巡回訪問した教員は、実習生の状況把握とそれに対する指導・助言内容を訪問指導記録（巡回報告書）に記すことが義務付けられている。中間時期の指導・助言は、残りの期間における実習課題を明確にすることができるため、「中間評価」を行うことが奨励されている。

1-3. 実習プロセス

(1) 保育実習Ⅰの経験

保育実習を行う実習生は、実習の初期段階すなわち保育実習Ⅰと呼ばれるステージでは、やるべきルーティーンに意識を向けることが難しく、要件定義できない不確定な状況に置かれている。実習の進行に伴って、実習生は現場の保育士・職員・保護者・子ども、そしてその職場のルールに馴染んでいき、人間関係の構築を試みながら、やるべきルーティーンを確かめながら実習を進めていく。福島（2001）の言う「即興の徒弟制」のように、実習生は、その場その場で先輩保育士に教えを請いながら、その保育現場独自の組織風土と偶発的に出会う関係性の中で経験的な学習が始まるのである。そのような場では、実習生は養成校で予め考え設定した実習目標や実習計画を各々持っていたとしても、用意したものがその場に合っていない、もしくはその前提が通用しない場合もある。実習生は日々、実習前に立てた実習目標や実習計画を実施できるわけではなく、それらは一旦、保留にし、自らが接した状況の中から、日々の実習目標を立て実習行為を実践することとなる。1日の実習体験は、実習記録にまとめられ、翌朝に保育実習指導者へ提出することとなっている。実習生が実習で最も苦勞することは、この実習記録と日々の目標設定である。実習記録は、記述に数時間を要し、多くの学生が睡眠時間を削り、取り組む課題である。こ

の記録が翌朝提出できずに、未提出を重ねるうちに実習中止となることもある。

通常、実習生は、養成校で事前に学習した発達過程を経験的に学ぶために、それを踏まえた年齢別クラスを全クラス経験する。約2週間の実習であれば、0歳児から5歳児（6歳児）までを各年齢2日ずつ経験するのである。その配属されたクラスの中で、子どもへ関与し「遊びを通した保育過程」を体験的に理解する。また、早朝・夕方保育に参加しながらシフト制による変則勤務を経験することや、送迎での保護者との会話やその様子を肌で感じながら保護者支援や子育て支援を経験することなどを通して、実習生は養成校で事前に学んだことを再確認しながら学び取っていくのである。

このように実習の初期段階では、「参加・観察実習」と呼ばれる実習形態がおこなわれ、実習生は日々の園生活に慣れていきながら、自分ができることを探し、時には保育者の職務の一旦を部分的に任せられ経験から学んでいくこととなる。部分的に保育を任せられ、実習生が短時間の指導計画を立案し試す課題は「部分実習」と呼ばれている。

(2)保育実習Ⅱの経験

1回目の保育所実習が終了し、期間を空けて2回目の保育実習が実施される段階、すなわち保育実習Ⅱと呼ばれるステージでは、すでに経験したことをベースに保育実習が展開される。しかし、2回目の実習が同一施設であれば1回目から継続して、1回目の振り返りが2回目の実習で活かされることになるが、そうではない場合には、1回目と同様に初めての環境での実習としてスタートすることとなる。2回目は、1回目の実習経験が活かせるため、実習生は1回目の経験と比較しながら状況を早く把握することができ、保育現場に比較的早く慣れることができる。

2回目の実習では、1週目は年齢別クラスを順次経験し、2週目は固定クラスで過ごすパターンもあれば、約2週間固定クラスに配属され実習が行われることもある。2回目の実習は、保育実習Ⅰの内容を踏まえ実践力を身につけることが求められるため、「部分実習」の課題だけでなく、保育者の1日もしくは半日程度を実習生に任せ、実習生が1日もしくは半日程度の指導計画を立案する課題が課されることとなる。これを養成校では「責任実習（1日実習）」と呼んでいる。この経験を通して、実習生は計画・実践・評価・改善というPDCAサイクルを体験的に理解することができる。また、この実習Ⅱのステージでは、日々の自己評価や保育者との対話から、次の実習もしくは就職に向けて自分自身の課題を明確化する姿勢を身につけることが課題となっている。

このように、実習生は保育現場に参加して、子どもを理解し保育者の関わりを学びながら、保育者の実践の一部を担い、自己評価や保育者との対話に基づく振り返りをおこなう。そして、次の実習もしくは就職に向けて自らの課題意識を明確にしていくのである。

(3)中間時期の巡回訪問指導

実習の中間時期には、教員による巡回訪問指導がおこなわれる。保育実習では、保育実習担当教員は実習現場に付き添うことはしないため、その保育現場での実習指導の大部分を保育現場の保育士である保育実習指導者が担うことになる。保育実習担当教員は、実習プロセスに関与することができないため、その実習プロセスで実習生がどのような状況で実習をおこない、どんな学びを得ているのかは確認することができない。

Schön (2017) が、「学生は当初、自分が何を学ぶ必要があるのか、理解することができない。それは教えられることはできず、自分自身を教育することによってのみ学ぶことができるのであり、自分がまだ理解していない何かに、実際取り組んでいくことによってのみ、自分を教育することができるのである」と述べているように、実習は基本的には自己教育であるが、この自己学習を支援することが実習指導では求められてくるのである。しかし、この実習期間中の自己学習の支援には十分に対応できていない。

現状では、保育実習担当教員ではなく、巡回訪問教員が実習生の実習状況を捉えることで対応することになっている。実習生は、中間時期までの実習状況や困難なこと、心理的不安、疑問に思ったこと、助言してほしいことなどを巡回訪問教員との面談の中で話す時間が確保されているが、自ら発言しない実習生や教員が質問しないと答えない実習生もいるため、養成校では巡回で把握すべき項目を設定し実習生に質問する用紙を準備し巡回訪問教員に配付している。この時間はおおむね実習生の不安軽減にはなっているが、巡回訪問教員と対話し実習が促進される実習生もいれば、対話がうまく進まず最低限のやりとりで終了する実習生もいる。この中間時期の学習促進は、巡回訪問教員の力量や実習生と構築された関係性に委ねられているのである。

2. 実習教育における省察

2-1. 本研究における省察の定義

実習教育における省察の問題を取り上げる前に、省察の定義をしておきたい。省察(せいさつ)とは、日本国語大辞典第二版(2001)には「みずからかえりみて、その善悪、是非を考えること。しょうさつ」とある。この辞典には中国・日本での参照文献が多く掲載されており、「しょうさつ」よりも「せいさつ」と読むのが一般的である。

教育学でよく使用される省察という言葉は、Reflectionの訳語である。このReflectionは、ロングマン Exams 英英辞典(2009)によると、第1に「an image that you can see in a mirror, glass, or water」、第2に「careful thought, or an idea or opinion based on this」という意味が示されている。「可視できる反射されたイメージ」や「注意深い思考やそれに基づく見解」という2つの意味には、省察(せいさつ)が当てられることは妥当であろう。Reflectionの訳語としては、省察の他に「振り返り」、「反省」、「内省」という言葉も多く使われており、英語のカタカナ表記で「リフレクション」と統一表記しているものもある。

よく似た言葉である内省(Introspection)は、ロングマン Exams 英英辞典(2009)では「the process of thinking deeply about your own thoughts, feelings, or behaviour」、つまり「自分自身の考え、感情、行為に関して深く思考するプロセス」となっており、自分自身の内面に関する思考をさすと考えられる。教育学者のJ・Mezirow(1991,p149)は、内省は学習以前の妥当性の検討をしないので、それゆえに「非省察的」とであると述べ、省察とは区別している。

Mezirowは、省察とは「経験の意味づけを解釈し、意味づけをおこなう努力の内容とプロセスを、また努力の想定を批判的に評価するプロセス」(Mezirow, 1991,p145)であるとしている。MezirowはDeweyの省察概念を検討し、省察の3つの形態を提起した。3つの形態とは、(1)内容の省察、(2)プロセスの省察、そして(3)想定(premise)の省察、である。省察には、最初の2つ、問題解決の内容およびプロセスに関する前提(assumption)を批判的に検討することが伴うと言う。また、人は経験から学ぶ時、その経験に意味づけ(making meaning)をしていくが、その経験の意味を解釈する前提や想定を省察することがある。こうした前提や想定を省察は、「意味スキーム(meaning schemes)」や「意味パースペクティブ(meaning perspective)」をもたらす。Mezirowは、この3番目の「想定を省察」を重視し、「変容的学習(transformative learning)」の理論を提起した。意味スキームは「ある特有の解釈に基づく知識、信念、価値判断、感情」(Mezirow, 1991, p. 84)であり、意味パースペクティブとは「これまでの経験を同化させて新しい経験へと変容させることのできる、認知的、文化的、心理的な前提の構造」(Mezirow, 1991, p. 84)である。私たちの判断と評価の基準は、この意味パースペクティブから生み出される。私たちは内容やプロセスの省察を通じて意味スキームを変化させ、想定を省察を通じて意味パースペクティブを変容させることができると、Mezirow(1991,p. 162)は述べている。

以上、Mezirowの省察概念を手がかりに、省察という言葉を検討してきたが、成人教育でMezirowが中核として位置付けた「省察的学習」や「変容的学習」は、保育の質向上を目指す実習教育の文脈でもきわめて重要な概念となる。実習教育や対人関係職の現場では、個々の子どもへの即応的・応答的な関わりや対応が求められるため、子ども観や保育観を固定して捉えることなく、自らの前提や想定を常に問い直す連続した学びが求められる。実習生は、保育者との対話や仲間のエピソードから触発されて、意味スキームの修正が行われる省察的学習だけでなく、前提・想定が覆され意味パースペクティブが変容する変容的学習も経験している。

本研究では、こうしたことを踏まえ、「省察」という言葉を、Mezirow(1991)が示した省察の概念に依拠して用いることにする。すなわち、省察とは、「経験の意味づけを解釈し、意味づけをおこなう努力の内容とプロセスを、また努力の想定を批判的に評価するプロセス」である。

2-2. 実践知と省察モデル

実習は、仕事の場に参加し、実践知を持つ保育者から指導や触発を受けながら、自らも将来、実践知を獲得するための経験学習を行う場である。

楠見(2012)は、熟達化の過程で実践知を獲得する「仕事の実践知の獲得モデル」を提示している。楠見によれば、実践知の獲得はまず経験からの学習であり、自分自身の経験だけでなく、先輩・同僚との相互作用や、先輩・同僚の経験からの類推によって学ぶことができるとしている。その学びはエピソードとして知識に蓄えられる。ヒューマンスキル(他者管理の暗黙知)、テクニカルスキル(タスク管理の暗黙知)、コンセプチュアルスキルなどは、理論や手続き的知識として蓄えられ、蓄えられた経験はメタ認知

の省察によって自分のものとして内面化される。また、アウトプットする際に、経験から得た暗黙知を形式知に変換し、運用することができる。エピソード的知識から手続きや理論・ルールが導き出されたり、その逆に理論・ルールがエピソードを意味付けたりする。こうしたことが可能となるのはメタ認知スキルが働くからであり、省察・批判的思考・帰納・類推などのメタ認知スキルによって新たな経験に展開されていくと楠見は述べている。さらに楠見は、実践知は個人の力だけでなく、先輩・同僚など周囲の人との相互関係を築く中で獲得されるものであると述べ、実践知の組織的な継承のメカニズムにも視野を広げている。

また、金井ら（2012）は、優れた実践家が実際に実践の場で使用している持論に着目し、持論形成のプロセス概念図を提示している。金井によると、実践家の持論の特徴には、①意識せず暗黙のうちに持論を活用している、②実践家の持論の背景には、豊富な実際のストーリーが埋め込まれていると述べている。持論を形成するうえで最も重要なインプットは経験であり、その経験を省察や対話を通じて言語化していくという大きな流れがある。

佐藤ら（2001）が Schön の著書を翻訳し日本に紹介して以来、「反省的実践家」という概念は、日本の教師教育のみならず、保育学、看護学、福祉学、建築学、経営学などの学問領域とその専門職教育の領域に大きな影響を与え続けている。Schön（2007、2017）の大きな功績は、専門職とその専門職教育への問い直しを提起した点であろう。Schön は、「技術的合理性」に基づく「技術的熟達者」という従来の専門家像に対し、新しい実践的認識論を提示した。それが、「行為内省察」に基づく「省察の実践家」である。Schön は Dewey の考え方を継承し、不確実性、不規則性、不確定性により特徴づけられる問題状況の中では、主に行為の後に立ち止まって振り返る思考をさす「行為に関する省察（reflection on action）」ではなく、それと区別して「行為内省察（reflection-in-action）」と状況との対話（conversation with situation）を通じて省察的実践が行われると主張した。そして、Schön はこれをさらに省察的実習へと発展させている。ここでの省察的実習とは、「実践の不確定領域において発揮される能力、その核心にある芸術的なわざの獲得をめざす実習」をさす。Schön は、実習を「実践を学ぶという課題のためにデザインされた状況設定」として、コーチと学生による相互的な省察的対話によって「実践の世界に近い状況の中で、学生は行為を通して学ぶ」としている。この行為内省察と省察的実践論および省察的実習の考え方は、今日、保育士養成における省察モデルとして広く受け入れられている。

金井ら（2012）の示す持論形成においては、Schön のいう行為内省察（reflection-in-action）、行為に関する省察（reflection on action）、そして省察プロセス自体を省察する、行為内省察に関する省察（reflection on reflection-in-action）という3層の省察と状況との対話（conversation with situation）が重要な位置を占めている。楠見（2012）や金井（2012）の示すモデルに共通しているのは、エピソード的知識や暗黙知が埋め込まれている物語に着目し、それを丹念に聞き出し、省察し、言語化することが欠かせない点である。エピソード・物語からの省察は、省察モデルの重要な核となっている。

Schön が行為内省察（reflection-in-action）を省察的実践の中心に置いたのに対して、Korthagen の ALACT モデル（リアリスティック・アプローチ）は、事後に行為を省察するモデルである。ALACT モデルは英語の頭文字を冠しているように、第1段階 行為（Action）、第2段階 振り返る（looking back on action）、第3段階 本質的な諸相への気づき（awareness of essential aspects）、第4段階 行為の選択肢への拡大（creating alternative methods of action）、第5段階 試行（trial）という5段階のプロセスを辿る。この段階の中で第3段階に至るように、具体化を促す問い、すなわち Korthagen の言う「8つの窓の質問」がコーチングのような形で施され、「本質的な諸相への気づき」がもたらされる。これらのプロセスは、最終的には内化され自律的におこなわれることが期待されている。

このリアリスティック・アプローチは、小野寺ら（2016）や山本ら（2016）の報告にあるように教員養成課程に導入し複数の教員が連携して包括的・組織的に取り組まれており、「事前構造化」、「経験」、「構造化」、「焦点化」、「小文字の理論」という5段階の手順（5 steps procedure）の手法を用いて各回の授業を構造化している。特に実習領域での取り組みにも、このアプローチは導入されている。村井（2019）は、幼稚園教育実習を終えた学生の授業で、この8つの窓の質問シートを実施し、学生が自分でも意識していなかったことに気づく事例を提示している。村井は「いわばルーブリックとして8つの窓を用いることで、学生同士でも省察の深まりが可能となっていることが明らかになった点に本稿の方法論の意義があると言えるだろう」と述べており、ここでのルーブリックという表現は省察ツールという意味でのものと推測するが、実際に導入されつつある省察モデルとして検討されている。

看護教育の領域では、Rolfe（2017）が Schön の「行為内省察」（reflection-in-action）と「即応的実験」（on the spot experimenting）の考えを発展させ、理論と実践の両方を含む循環的な過程において、

「実践が省察的 (reflective) であるのみならず、再帰的 (reflexive) でもある」という再帰的省察モデルを提唱している。この省察モデルは、第1段階 実践、第2段階 行為への省察、第3段階 個人的知識および判例レパトリー、公式理論、経験的研究、第4段階 行為への省察から仮説形成および仮説検証、というサイクルを経て再び実践の段階へと循環していくモデルである。しかし Rolfe は、「学生は行為への省察から形成した試行的理論を実践に適用することを学んでいても、その実践の結果として、その場で試行的理論を修正することになり、行為内省察の循環を完結させられない。だから理論構築は事が終わった後で、教室でしか行えないのである」と言い、学生は Schön のいう「即応の実験」を実習中には体験することができないと述べている。Rolfe はその省察モデルにおいて再帰的実践のためにはらせん型の段階を明示した上で、実習生の経験における時間的制限を位置付けたのである。

このように、これまで見てきた省察モデルにはそれぞれに特徴があり、基盤となる理論的な裏付けと方法が示されていた。前述した ALACT モデル (リアリスティック・アプローチ) は教員養成課程で試行されているが、保育実習における省察モデルや方法論を示した研究はそれ以外にほとんど見当たらず、これを確立することは学問上の課題であると言える。

3. 実習の省察を妨げる評価構造の問題

3-1. 省察を妨げるフィードバックの問題

(1) ミニマムスタンダードに示された保育実習プログラム

実習生の省察および意識変容は通常、実習行為の事後に、実習生の自己評価や実習施設からの実習評価 (評価票) によって引き起こされる。

ミニマムスタンダードでは、実習評価の考え方は、PDCA サイクルの計画・実践・評価のらせんモデルと入れ子構造モデル (以下、らせん=入れ子モデルと呼ぶ) における過程の一つとして示されている。ミニマムスタンダードによれば、保育現場では PDCA サイクルが浸透しており、PDCA サイクルは指導計画 (Plan) から保育実践 (Do)・評価 (Check) の流れが単純に繰り返されるのではなく、評価に基づく改善 (Action) が次の指導計画 (Plan) へとつながるらせん状のモデルになるとしている。また、この PDCA サイクルは、時間的なスパンで捉えた時、年間計画の中に、月や期の計画が、そしてその中にも週の計画があり、日々の振り返りが積み重なり、週ごと月ごと期ごとと振り返りが積み重なって、年間の総括となるような入れ子構造を成している。

この保育現場における、らせん=入れ子モデルは、実習評価の考え方にも適用され、PDCA サイクルに基づく学習モデルを実習の中で意識し実践することが提案されている。すなわち、実習のねらい (Plan)、実習活動 (Do)、実習の振り返り評価 (Check) が、評価に基づく改善 (Action) と次の実習のねらい (Plan) へとつながるサイクルとして確認される。また、実習全体をユニットとすると、実習事前指導における実習全体の自己課題 (Plan)、保育実習 (Do)、実習事後学習における振り返り評価 (Check) が、評価に基づく改善 (Action) と次の実習や実践の自己課題 (Plan) へとつながるサイクルとして意識化・内化し、実習後も保育現場で実践されることが期待されているのである。

(2) 適切なタイミングでのフィードバックの問題

通常、実習施設からの評価票は、実習終了後おおむね2ヶ月間の時間を経て養成校に返却される。そして、事務的な整理を終えてから、実習生に評価票が開示され、実習事後学習における振り返り評価 (Check) として、評価票による評価がおこなわれる。つまり、実習生はその評価を実習が終了した数ヶ月後でしか知ることができないのである。実習生の中には「もっと早く伝えてくれれば、実習期間内に改善できた」という思いを持つ者もいる。もし評価票の現時点での評価と自己評価とのズレを実習中に認識する場があれば、改善できる可能性があるということである。実習施設と養成校との間にあるタイムラグは、適切なタイミングでのフィードバックがおこなえず、実習の省察を行う上で大きな障壁となっている。ミニマムスタンダード策定の経緯で「実習課題が達成できたかどうか検証が行われないまま実習が終了してしまうことがある」という試案へ寄せられた意見 (全国保育士養成協議会、2007) にあるように、らせん=入れ子モデルではこのタイムラグの問題を解決できていないのである。

したがって、こうした問題の解決には、中間時期における効果的な指導が重要となる。ミニマムスタンダード Ver.2 では、巡回訪問指導を「学生がらせん状の学習モデルで保育士の専門性を身につけていく過程」の中で、「学生が実習を実施している時間に、実施している場で、養成校の教員が直接指導する機会」や「直接学生に向けてその連携と協働を実践する機会」と位置付けている。さらに、「学生が実習し

ているその場で、具体的に学生が得た手応えや課題を共有し、確認する機会である。さらに、課題の達成に困難を感じている場合にはその困難さを克服するための力が発揮できるように、具体的または直接的に学生を支える機会である」としている。

全国保育士養成協議会は、「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」(志濃原ら、2019)と題して課題研究を行なっている。この研究では、①実習生を対象にしたアンケート調査、②教員を対象にした実態調査、③保育実習施設を対象にしたインタビュー調査を実施した。その結果、①学生のニーズと実際の指導の違い、②教員の専門性や経験年数による指導方法へのニーズの違い、③学生、実習施設の実習指導者、養成校の実習指導者の三者に共通理解が不明確、④実習マニュアルの見直し、の4点が確認されたという。そして、カデューシンのスーパービジョン3つの機能(管理機能、教育的機能、支持的機能)をもとにカテゴリーに分けた項目の質問紙を手がかりに、学生と教員に共通の記録用紙を作成し、これを巡回訪問指導時に使用することを提案している。巡回訪問指導システムの開発には至っていないが、3つの機能によって学生状況を把握する「標準化された訪問指導記録(質問シート)」が作成されたことは、指導内容が基本的には巡回訪問教員の力量に委ねられていた現状に対し、教員の力量に依存しない統一された手続きを付与したという点において非常に有効であったと言える。しかし、ミニマムスタンダード Ver.2で言われているような「学生が実習しているその場で、具体的に学生が得た手応えや課題」、そして「課題の達成の困難さ」を巡回訪問によって確認できたとしても、実習における学びを把握することは、これまでの実習では極めて困難であった。

野上・山田(2011)は、保育実習の体験による実習生の変容に関して、例えば三木・桜井(1998)が作成した保育者効力感尺度では実習前後で自己効力の向上が分析できても、「その実習で何を学んだのか、実習中のどのような活動や気づきが学びへつなげたのか、それらの学びが自己効力の向上につながったのか否かは明らかにされていない。これでは、実習後の指導において、実習生の学びを発展させ、課題を見出したり、長所を認め伸ばしていくことが難しいといえる」と述べ、「そのため、実習によって学生が何を考えたのか、何が変化したのかを把握できずに、自己評価が曖昧なまま新たな実習や就職という形で保育場面に入っていくことになり、質の高い保育士の養成という点でこの現状は大きな問題を内包しているといえよう」として、実習中の学びを把握することの課題を提示している。

すなわち、実習生の実習中の学びを把握し、それに対して適切なタイミングでフィードバックを講じ省察を促すようにする実習中の仕組みづくりが必要となってくるのである。中間時期でのフィードバックと省察をもたらすことができれば、残りの実習期間の改善・充実につながり、タイムラグの問題が解消されるのである。

3-2. 省察を妨げる実習評価票の問題

(1)ミニマムスタンダードに示された実習評価票

ミニマムスタンダードでは、実習評価に関して、日々の実習記録(実習日誌)に基づく自己評価(振り返り)と評価票に基づく自己評価の2つが示されており、実習記録と評価票は省察に欠かせないツールとなっている。ミニマムスタンダードで示された評価票は、《態度》と《知識・技能》の評価観点からABCDの4段階評価が採用されている。ミニマムスタンダード ver.2からは、この評価票にさらに詳細な観点が添付されている。

実習評価票は、保育実習施設と養成校をつなぐ媒体として機能している。保育実習施設は、養成校から送られてきた評価票に実習期間の評価を記し、それを養成校へ送り返す。もっと詳細を見るならば、配属されたクラスの実習担当保育士は日々の実習を評価し、実習期間中に配属された複数のクラス(例えば年齢別クラス)での評価を、施設長や主任が統合して取りまとめ、実習施設として評価票に記していく。養成校側から見ると、学外授業の評価として、保育実習施設からの評価を受け取りその評価票に基づき、保育士養成課程の教科目としての総括的評価をおこなうことになる。しかし、実習科目の授業担当者は、必ずしも、実習生の実習過程に関わる、もしくは観察することができているわけではないため、送られてきた評価票は、成績評価における評価票の採点配分を決め総括的評価としての成績評定を行うこととなる。

このようにして、実習評価は学外と学内の間で統合を繰り返して運用され、それゆえに、保育実習施設と養成校は連携・協働が一層、必要となってくるのである。

(2)標準化されていない評価指標の問題

ミニマムスタンダードに示された実習評価票の形式は、ほとんどの養成校で使用されているが、これ

には「二重のばらつき」という問題がある。

1つは評価基準のばらつきである。例えば、体調を崩さず出勤できた時を例にとると、ある施設ではそれが職業人として当たり前と考えるので、ABCDの4段階評価のうち、普通であるという「B」評価とするが、別の施設では実習生としてがんばったのでとても良いという「A」評価が付与されるかもしれない。この場合、施設が共有する文化・理念・雰囲気・風土といったものに影響される可能性が高く、AとBでの尺度の差は極めて曖昧なものであるため、評価者の主観にも左右される。仮に4段階ABCDの評価ポイントに詳細な補足説明が添付されたとしても、それは評価観点の説明であり、尺度を適切かつ具体的に表現しているとは言い難い。つまり、実習施設によって、評価項目・尺度の捉え方や基準にばらつきがあるということである。そして、評価票に関する実習生間での情報交換によって、配当された施設の選定に不公平感が生じ、実習評価自体の信頼性に大きな影響を及ぼしている。

もう一つは評価者のばらつきである。一般的に、1つの保育施設で初めて実習する場合には、発達過程に沿った子どもの実態を学習するために、発達に応じて発達別クラス（例えば1歳児クラスや5歳児クラスなど）に数日間ずつ配属され、複数のクラスで実習するケースが多い。その場合、例えば1歳児クラス担任、2歳児クラス担任と順次評価を経て、最終的には主任や園長がそれらの評価を束ねて統合した評価をおこなうとするならば、その評価の妥当性は担保されるのであろうか。さらに、この保育施設の評価に、巡回訪問教員の情報・評価も加わり、実習過程を見ていない実習科目の担当教員が成績評価採点のため、再統合し最終評価を決定する手続きは、その構造上、大きな問題があるとは言えないだろうか。この「二重のばらつき」の問題は、ABCDという段階の曖昧さと評価基準・評価尺度の不明確な提示の仕方から生じている。実習生は具体的に自分の実習行為のどこがどのように評価されたのか、その評価基準は何かということが明確に示されていないため、自分の実習行為を振り返ることが困難となる。また、その評価に基づいた次の実習行為を行う上でも、どこをどう改善すれば、B評価がA評価になるのかということが明示されておらず、そのような指導もおこなわれないうまま、次の実習をおこなうこととなる。実習の振り返り評価（Check）が、評価に基づく改善（Action）と次の実習のねらい（Plan）へとつながらず、改善と次への課題の明確化という指導が阻害される要因は、詰まる所、「評価指標の標準化」がなされていないという問題なのである。この実習評価と実習指導の一体化は、単に評価票の標準化のみならず、その作成過程において、実習施設が求める指標と養成校が求める指標をすり合わせ、約2週間という実習期間の中で実習生として達成できるように標準化を図る必要がある。

実習評価におけるこうした構造の問題は、実習評価の手続きに深く関わり把握する必要のある実習担当教員でなければ気づくことができないため、これまで研究者からはあまり問題提起がなされていなかった。実習評価の先行研究には、自己評価（山田ら2010、加藤2020など）や実習施設との評価のズレ（例えば前徳2009、中西ら2011、牛込2013及び2015など）に関する研究があるが、この実習評価の構造問題を解決しなければ、その前提が成立しないため、この問題を解決することが急務であろう。

3-3. 実習プログラム開発に向けての本研究の枠組み

これまで見てきたように、全国保育士養成協議会が、集積された実習研究とその検証の成果によって策定した「ミニマムスタンダード」によって実習指導における条件整備は整えられたと言える。しかし、ミニマムスタンダードにおける実習プログラムでは、第1に、らせん＝入れ子モデルのPDCAサイクルを回すには、適切なタイミングによるフィードバックの仕組みが不可欠であり、それをその省察モデルにどう組み込んでいくかという点、そして、第2に実習評価票をどのようにして「標準化」していくか、という点に問題があった。評価と指導の構造的な問題は、らせん＝入れ子モデルの「評価→改善/次の指導計画」のプロセスにタイムラグがあるため、適切なタイミングでのフィードバックができておらず、そのフィードバックの媒介となるものが実習評価票であった。すなわち、省察のツールである実習評価票と省察モデルがうまく適合していなかったのである。

したがって、新たな実習プログラムを開発する上で、①実習評価票の改善、②適切なタイミングでのフィードバックの仕組みづくり、③実習中と実習後の連動した仕組みづくり、④実習中の学び内容の把握、⑤省察モデルと実習プログラムの確立などの課題を解決する必要がある。

これらの課題を解決し、新しい実習プログラムを開発するために、次章以降では「ループリック」に着目し、実習評価票としての実習用ループリックを開発し、実習中や実習事後にそれを試用し改善を加えながら、実習の省察モデルと実習プログラムを開発していくこととする。本論文の構成は、図1の通りである。

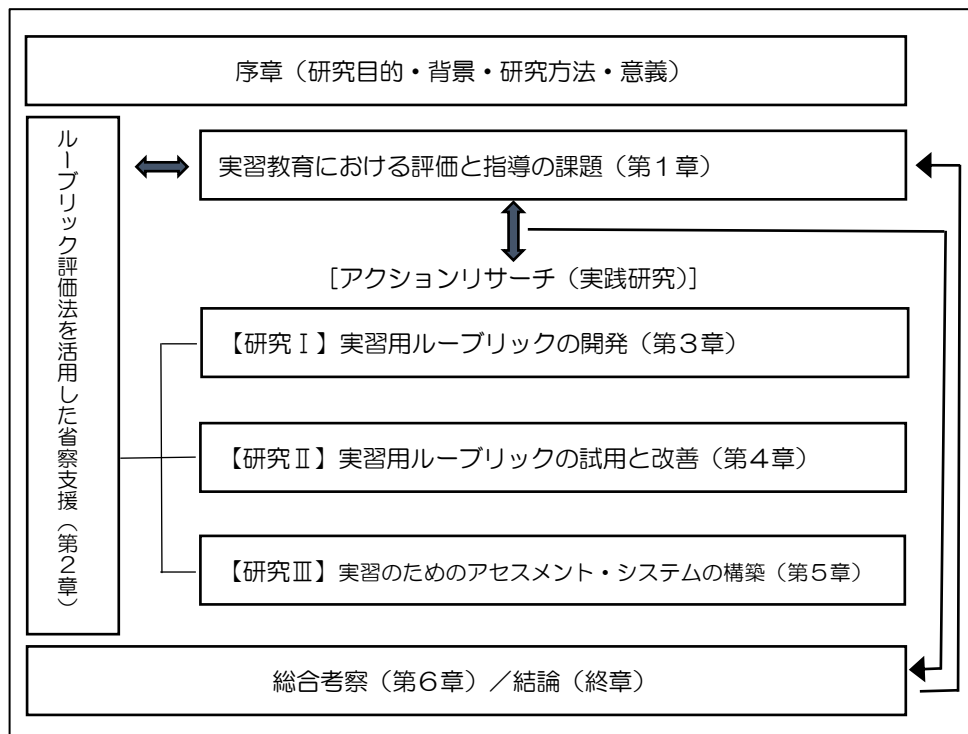


図1. 本論文の構成

第2章 ルーブリック評価法を活用した省察支援

1. ルーブリック評価法の検討

1-1. パフォーマンス評価としてのルーブリック

近年、高等教育では中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて」(2012)にも示されるように、「教員が何を教えるか」から「学生が何を学び、何ができるようになったか」という学習観の転換が叫ばれている。それに伴って、アクティブ・ラーニング(能動的学修)が注目され、そうした学修活動の評価に関しても検討されている。そうしたなか、学習の「質」とその評価のあり方を考えるうえで、パフォーマンス評価やルーブリックに関する議論と実践が数多くなされるようになってきた。

序章ですでに触れているが、パフォーマンス評価(performance assessment)とは、教育評価事典によれば「評価しようとする能力や技能を実際に用いる活動の中で評価しようとする方法」であり、ルーブリック(rubric、評価指標)はその達成状況レベルを質的に評価する基準の一つである。ルーブリックは測定が難しいパフォーマンスの評価に向いているとされ、指導と評価の一連の過程にルーブリックの改善・修正を位置づけることによって、学習者の実態をルーブリックに反映させながら、「指導と評価の一体化」を図るものとして用いることができる。

ルーブリックには、構造・スコープ・スパンで分類すると、分析的ルーブリック、全体的ルーブリック・一般的ルーブリック、課題特殊的ルーブリック・長期的ルーブリック、採点用ルーブリックなどがある(松下2012)。また、山田ら(2015)はクラスルーブリック、コモングループ・VALUEルーブリックなど、評価主体・方法の視点から活用実態について整理している。松下(2012)は、評価には心理測定学的パラダイムとオルタナティブ・アセスメントという2つのパラダイムの違いがあるとし、前者は心理現象を数値化する心理測定学に、後者の基盤はそれほど安定しているわけではないと前置きした上で、構成主義、状況論、解釈学などに依拠していると言う。パフォーマンス評価は後者に依拠するが、松下(2012)はこのようにパラダイムで分けることによって、心理測定学的パラダイムのみが評価論における唯一のパラダイムとしてみなされることを避け、オルタナティブ・アセスメントが心理測定学的パラダイムとは異なる性格を持った評価として正当に価値づけることが可能となると述べている。また、松下(2012)は、「パフォーマンス評価では、評価者の主観が入るので、評価者はパフォーマンスの質を適切に価値判断するための鑑識眼(connoisseurship)が求められ、また通常は複数の評価者がモデレーション(moderation)によって『間主観性』を担保することが必要になる」としている。このことは、パフォーマンス評価の作成や点検において、心理現象を数値化する心理測定学とは異なる独自の質保証が求められていることを示唆している。

山田ら(2015)は、ルーブリックの課題として①信頼性の問題、②基準の妥当性をあげている。信頼性に関しては、採点者の信頼性や信頼性の程度を確認・調整することが求められている。また、基準の妥当性に関しては、ルーブリックに記載される記述語はすべて織り込めるわけではないので、現場で起こりそうなことを基準として不動のものと捉えることや、評価される点のみに傾斜して質の高いパフォーマンスが生まれづらい点、高次のパフォーマンスを評価外としてしまうことの困難が指摘されている。松下ら(2013)は、オルタナティブ・アセスメントのパラダイムに立つとは言え、パフォーマンス評価においても信頼性の要件を満たすことが望ましいとして、一般化可能性理論の導入も検討している。いずれにしても、心理測定学的パラダイムとは異なる性格を持った評価として、オルタナティブ・アセスメントのパラダイム側から信頼性に代わる担保が必要とされることは間違いない。

1-2. 成長を促す形成的評価と学習促進機能

指導と評価を一体化する上でルーブリックが注目される理由は、それが形成的評価であるということにある。教育評価事典によると、形成的評価とは、「ある単元の指導を進める過程で、途中で学習者の学習状況(教育目標の達成状況)を確認し、教師と学習者の双方にフィードバックし、つまづきの早期発見・早期回復を行うことにより、学力形成に利用する目的で行う評価」である。最終的な成績づけなど学習終了後の学習状況の評価し判定する目的で行う総括的評価に対して、この形成的評価では学習中にフィードバックを繰り返し学習の途上での改善を促すという点で、プロセス志向である。

プロセス志向のアセスメントとして、学習者の学びのプロセスをICEモデルとして提示し、それをルーブリックに適用したICEルーブリックがある。通常、ルーブリックは縦軸に「評価観点」、横軸に「学修状況の度合いを示す尺度」が配置されているが、ICEルーブリックでは、横軸にIdeas(アイディア)、

Connections (つながり)、Extensions (応用) が配置されている。ICE (アイス) とは、Ideas、Connections、Extensions という英単語の頭文字を取って名付けられたものであるが、Sue&Robert (2013) によれば、このステップは学びのプロセスであると言う。教育の大きな部分は学習支援であり、教員と学習者は学習者の成長の位置を知る必要がある。したがって、従来の評価が行ってきた「規範」や「基準」によって学習者が比較されるのではなく、学習者が以前の自分と比較してどうなのかを問うことが ICE アプローチなのである (Sue&Robert、2013)。さらに、規範的な評価や基準に基づく評価は、試験やレポートなどのプロダクト (成果) を作り他者へ報告するためには有用であるが、学生の学びのプロセス (過程) を明らかにするにはそれほど有用ではないと言う。土持 (2013) は「個々のアイデアだけでは学びにならない、アイデアをつなげて全体的なつながりを持たせることで『深い学び』になる。この学びのプロセスが “Meaning Making” である」と Sue&Robert の著書を解説し、Ideas と Connections の項目間の移行が “Meaning Making” をもたらし「深い学び」につながると強調している。

こうした形成的評価の考え方は、学習を促進するルーブリックの理論的根拠となっている。安藤 (2014) は、「形成的アセスメント (formative assessment : FA)」とそこから派生した「学習のためのアセスメント (assessment for learning : AfL) をルーブリックの理論的根拠として紹介しながら、ルーブリックには「次の学びに活かすという学習促進機能」があると述べている。安藤 (2014) は、FA が「学習後の評価のニュアンスが強くなるので、むしろ学習のためのアセスメント (AfL) と表現するほうが適切である」という主張や、FA よりも「AfL のほうが教師は指導に立ち戻ることができ、学習者は学習改善に関わるので好ましい」という主張、「フィードバックが学習者の学習を改善し、学習意欲を高めるものであるにもかかわらず、フィードバックを矯正と捉えており、その点が学びの展開の自由度も大きい AfL との大きな違いである」という主張などを引用しながら、形成的アセスメント (FA: formative assessment) から学習のためのアセスメント (AfL : assessment for learning) への移行の過程について説明している。そして、イギリスの政策提言グループであるアセスメント改革集団 (ARG) が AfL を「学習者と教師が (a) 学習者が今学んでいる場所と (b) 次に進む必要のある場所と (c) そこへ行く一番良い方法を決定する際に使う証拠を追求し、解釈する過程である」と定義していると紹介している。また、そうした学習促進機能を引き出すには、相互評価を介して一人ひとりの学習者の自己評価と結びつけることが重要であると述べている (安藤、2014)。

1-3. 学外実習へのルーブリック適用可能性

これまで見てきたように、ルーブリックは測定が難しいパフォーマンスの評価に適しており、尺度に示された観察可能な記述語により、A・B・C などの曖昧な尺度に比較して、ズレの少ない評価が可能となる。第1章で指摘した評価基準の問題は、このルーブリックの適用で解消されることとなる。

また、「実際の活動を通して評価する」というパフォーマンス評価の特徴は、実習行為にアプローチする上でも適していると考えられる。「大学教員のためのルーブリック入門」(Stevens & Levi、2014)には、サービス・ラーニング、フィールドワーク、インターンシップなどの体験学習のためのルーブリックが検討され、学内学習でもその有効性が示されている。保育実習 (学外授業) も学外でのアクティブ・ラーニングととらえることができ、「実際の活動を通して評価する」というパフォーマンス評価が必要となる。序章ですでに述べたように、保育実習の中で生じる様々な学びには、例えば子どもたちの実態に即して保育や発達に関する知識を習得することや、現場の状況に応じて自分なりに保育実技などの技能を運用すること、日々の保育や保育行為を記録し省察しながら日々の保育に活かすことなどが求められる。さらに、実習生が保育という仕事に実際に参加し、自分の保育行為を自己評価や他者評価を通じて内省し行動変容をすることによって、状況に即した経験学習や職業学習が生起している。すなわち、実習生は養成校の授業で学習した知識・技能にとどまらず、それを仕事の現場で習熟させつつ経験的な知を獲得することが求められ、そこで得られた学びや評価の枠組みは卒業後の仕事の枠組みに大きく影響し連続性を持つのである。それゆえに、実習の学びは医療・看護・福祉等の分野同様に、職業人としての保育者養成に直結した学習活動であるため、学外活動であるサービス・ラーニングやプロジェクト学習、フィールドワークとも一線を画している。保育実習でのパフォーマンス評価を考える時、まさに「学校で教員が何を教えたかではなく、実習現場で (実習担当保育者や子どもという資源、そして既有知識を活用して) 何を学んだか」という学習の転換が必要であり、「いかにして、誰がそれをアセスメントするのか」という評価のあり方が問われている。

このルーブリックは、第1章で指摘したもう一つの問題点、すなわち、適切なタイミングでのフィードバックに関する問題にもアプローチする。中間評価のフィードバックと省察は、前節でみてきたように

形成的評価の特徴や学習促進機能を持つルーブリックによって、その方法と仕組みを作ることができる。従来の評価票が最終的な評定をもたらす総括的評価であったのに対し、形成的評価であるルーブリックは日々のアセスメントや中間時期のアセスメントに活用でき、フィードバックを繰り返しながら、実習生の成長を促し、実習期間を有効に活用することができる。学習者の日々の成長に焦点を当て、日々の省察をもたらすルーブリックは、実習における省察のツールや方法として適用可能性が高いと言えることができるだろう。

2. 保育実習領域への適用

2-1. 保育実習領域におけるルーブリックの先行研究

では、保育実習領域へのルーブリック導入はなされているのだろうか。保育実習におけるルーブリックの先行研究は、三木（2018）が先行研究のレビューを行ない、散見されると述べている通り、数少ない。関連実習領域としては、看護教育実習の先行研究では、例えば、糸賀（2010a）、糸賀（2010b）、竹中ら（2014）、甲賀ら（2016）、大井ら（2018）、鈴木ら（2018）などがある。また、福祉系実習領域の先行研究では、例えば、小林ら（2014）、広瀬ら（2016）、林・大内（2018）、福田ら（2019）、鷲尾ら（2020）がある。

保育実習における先行研究では、ルーブリック開発・作成に関しては中嶋ら（2014）、尾崎・中村（2017）、尾崎（2018a）、尾崎（2018b）があげられる。中嶋ら（2014）は、大学が独自の教育評価システムを構築し、そのなかで学外実習の評価にルーブリックを活用する取り組みを報告している。取り組みの成果として、(1)養成校が求める実習評価の基準を実習園に具体的に伝えることができる、(2)学生の意識づけと振り返りが効果的にできるという点をあげている。尾崎・中村（2017）は、保育所実習における従来の評価に疑問を投げかけ、パフォーマンス評価であるルーブリックに着目し、学外実習への導入を図るために保育所現場と連携しながらルーブリック開発の予備調査をおこなっている。尾崎（2018a）では、ルーブリックを実習評価に導入するために、大学教職員、学生、公立保育所・私立保育園の園長を構成メンバーとして、ワーキング・グループを編成してアクション・リサーチをおこない、成果物としてのルーブリックを提示している。その実践記録は、尾崎（2018b）にまとめられている。保育実習と関連して幼稚園教育実習のルーブリック作成では、小泉と関口（2007）、小泉（2008）がある。小泉と関口（2007）は、ルーブリックのメリットとして、教師の授業改善、実習のため大学と離れた場所での自己活動の計画・反省、そして形成的評価や自己評価を通じた教師としての成長、適切な目標設定などをあげている。ルーブリック作成にあたっては、予め作成したルーブリックを1つの幼稚園の教諭19名に見てもらい、問題点・課題点を洗い出し、38項目からなるルーブリックを作成している。続けて、小泉（2008）は、作成したルーブリックへの示唆から改良・更新する上で、説明不足と感じたルーブリックによる教育評価表の特性と構造について触れている。そして、教育実習におけるルーブリックは、情意領域や高次な能力の評価にはまだ不十分であるが、現段階において教育実習評価として最も、客観性、信頼性、妥当性が高いと述べている。

ルーブリックを中間評価や事後学習に活用した研究には、加藤ら（2017）、平澤（2017）、三木（2018）、尾崎（2019a）、尾崎（2019b）、尾崎（2019c）、尾崎（2020b）がある。三木（2018）は先行研究に用いられている実習自己評価項目をKJ法で分類し、6観点・13項目を提示し、実習指導に活用するための、ルーブリックによる教育・保育実習自己評価スタンダードを試案している。事前学習では、平澤（2017）が、教育・保育実習の事前指導に焦点を絞り、ルーブリックを使用した事例を報告している。この報告では、学生が自己評価のためのルーブリックを作成し、作成したルーブリックをテキストマイニングにて分析している。平澤は分析と考察として、(1)ルーブリックの分析から見られる、学生の実習への向き合い方の傾向、(2)教育・保育実習指導におけるルーブリック活用、(3)現場との連携の必要性をあげている。この中で、学生が目標を立てる上でどのような思いでいるのかの参考になるとし、実習指導や実習巡回指導に役立てることができると指摘している。

中間評価の研究では、尾崎（2019b）が実習用ルーブリックを中間評価に使用する上での手続きや仕組みづくりの検討を目的に、実習用ルーブリックを保育現場で実際に試行し、実習園の実習指導者と実習生に半構造的インタビューを実施し、使用事例の検討をおこなっている。また、三者の理解・協力を促進し導入する上で必要となる手引書を作成している。

事後学習の研究では、尾崎（2019a、2019c、2020b）が事後学習について一連の研究を行っている。まず、尾崎（2019a）は実習用ルーブリックを活用した事後学習シートを考案し、それに基づいた事後学習

をおこない、事後の省察モデルを検討した。そして、その後、事後学習シートを ICT 化しエピソード・データを収集して、テキストマイニングを使って実習での学びの可視化(尾崎 2019c)と他者評価を介した自己評価の分析(尾崎 2020b)を行った。その他の研究では、加藤ら(2017)が、事後学習においてルーブリックを活用するだけで効果的であるという興味深い報告をおこなっている。この調査報告では、ルーブリック回答と自由記述の回答を、保育実習 I (保育所)を終えた学生 85 名を対象に、順序を変えた条件で比較実施し、ルーブリックと自由記述の関係性を分析している。その結果、ルーブリックと自由記述においてルーブリックの順番を先にした方が実習の姿勢や発見についての記述が多いことが示されている。このことは、ルーブリックを自己評価に取り入れることで振り返りを深める可能性があり、ルーブリックが意図した保育の振り返りを導く可能性が示唆されているとしている。

上記以外では、尾崎(2020a)が実習用ルーブリックと実習報告書を ICT 化した「実習のためのアセスメント・システム」を開発し、その構築に向けてロジック・モデルを提示している。

2-2. 保育実習領域への適用の課題

尾崎(2020a)は保育実習領域でのルーブリックに関する先行研究から、①モデルの実行可能性、②評価と実習指導の分離、③組織としての FD 活動の 3 点について指摘しているが、再度これらの課題を整理し、実習領域にルーブリックを適用する際の方向性と、開発した後の点検項目として抽出しておきたい。

一つ目の課題は、作成されたモデルの実行可能性である。尾崎(2018a, 2018b)は、養成校と保育現場、そして学生の三者協働でルーブリックを作成したことにふれ、「評価観点を三者が共有し、互いに認識を変容させることができたという点」で画期的な試みであったと述べている。実際に、三者の協働作業によって認識のズレが確認でき、被評価者である学生の意見や保育現場の評価に対する思いが、これまで反映されていなかったことが明らかになった。そして、養成校(教員・研究者)の視点のみで作成したルーブリックは、尾崎(2017)で検討した仮ルーブリック(たたき台)のように、抽象的で解釈の幅が広いものになる傾向があり、従来の総括的評価(評定)の形式を焼き直しただけのものになる恐れがあると指摘している。養成校側はこれまで学習した知識を実習に活かそうとする考えが先行してしまうため、どうしても学習内容の評価項目を多く盛り込む傾向があるが、他の教科で評価できる項目は実習の評価項目から外すことも必要である。例えば、先行研究の評価項目から分類した研究(例えば、三木 2018)によって評価項目を定める場合、「抽象的で解説が必要な項目」や「学習内容を網羅した多数の項目」が設定される傾向があり、保育現場や実習生にとって実行が難しいモデルとなる可能性が高い。実際に、小泉と関口(2007)が作成したルーブリックは 38 項目、三木(2018)では 24 項目と多数の項目が設定されており、実行可能性の面で疑問が残る。

2 点目は前述の課題と関連するが、現場での実習評価と事後の自己評価が切り離されており、連動させて振り返ることができるような実務的な仕組みができていないことにある。事後学習の自己評価ツールとしてのルーブリック(例えば、三木 2018)や事後の授業研究(例えば平澤 2017、加藤ら 2017、尾崎 2019a)は提示されているが、実習中の評価と指導に関するルーブリック研究は、中島ら(2014)と尾崎(2019b)以外はほとんど見受けられない。形成的評価としてのルーブリックの特性を考慮すると、実習中の評価が事後の授業過程に組み込まれず、評価とそのフィードバックを活用し連動した仕組み(指導と評価一体化)が考えられておらず、結局、1 回限りの使用による総括的評価として活用されているのが現状である。

3 点目の課題は、これまで個人レベルの研究や取り組みとしての成果は示されているものの、ルーブリックが教員組織内で活用される取り組みには至っていないことがあげられる。実習を核とした保育者養成を考える上では、アクティブ・ラーニングやパフォーマンス評価を取り入れることだけにとどまらず、教員組織が一丸となって学生を育てる体制や仕組みづくりが必要である。また、保育者養成課程において、「連携」や「協働」が大きなテーマとなっている今日、教員組織内で共有し学習成果を学外保育施設と協議・点検することは、大学教育が実社会と結びつく取り組みとして重要な FD 活動となる。

以上、3 つの課題について確認したが、この課題はそのまま実習用ルーブリック開発後の点検項目となる。すなわち、1 点目は、複数の評価者(できれば実習評価者と被評価者が構成メンバーであることが望ましい)のモデレーションによって、開発したルーブリックは実習評価者と被評価者にとって実行可能なモデルであるか。2 点目は、開発したルーブリックは実習中、実習事後、実習事前の時期に一貫して使用することができ、形成的評価を意識し活用されているか。3 点目は、開発したルーブリックが教員組織内で共有・活用され教員組織が一丸となって学生を育てる体制や仕組みづくりに貢献しているか。また、この学修成果を学外保育施設等と情報共有し連携・協働体制を強化できているか、である。

3. エピソード記述方法論の検討

3-1. エピソード記述方法論

ここでは、エピソードによる省察支援方法の考え方を、保育領域の省察方法として定着しつつある鯨岡のエピソード記述方法論（鯨岡 2013）に求め、以下、取り上げていく。

鯨岡のエピソード記述方法論は、「鯨岡によって発達心理学の領域で提示された質的アプローチの方法論であり、観察しようとする対象者に関与しながらの観察によってとらえられた事象に対して『生の実相のあるがままに迫る』ための方法」（森口 2015）である。鯨岡の方法論の特徴は、「関与観察とエピソード記述」にある。ここでいう「関与観察」は、フィールドワーク研究など質的研究で使用される「参与観察・参加観察」とよく似た言葉であるが、鯨岡は区別している。鯨岡はもともと臨床心理家サリヴァンの「関与しながら観察」に注目し「関与観察」という言葉を使ったが、それとは違う意味合いでこの言葉を方法論として用いている。つまり、エピソードを書く人（研究者・実践者）は、常に「両義的な欲望を抱え、同型性（共通性）と固有性（独自性）を携えた主体」であり、その人が生きる場である日常生活の中で、人と人が接面において（接する中で）感じられるもの、得られる気づきをエピソードとして取り上げ、その意味を掘り下げていく方法論なのである。

それゆえに鯨岡（2013）は、「目に見えない思いは行動主義や実証主義では捉えきれない」として、行動科学の立場と自らの立場の相違を実践的関心に引きつけて論じている。鯨岡はまず第1に、「観察者の代替可能性」に着目し、次のように主張する。すなわち、行動科学では自然科学と同様に客観主義を標榜し、行動として観察可能なもの、測定可能なものだけを扱う。観察者は観察する目になりきり、いわばロボットのように正確に機能すること、自分の固有性を極力排除して「誰がみてもこうだった」と言える態度で観察に従事することだけが求められる。それゆえに観察者は誰とでも代替可能と考えられている。しかし、エピソード記述方法論では、前述したように、エピソードを書く人は「両義的な欲望を抱え、同型性（共通性）と固有性（独自性）を携えた主体」であり、ある出来事が心理学で言う図と地の「図」として切り出されるのは、その主体の意識体験においてなのである。つまり、この主体以外に違う人と代替することはできず、両義性や固有性を携えたその人であるから、そのエピソードが語られるのである。ここで鯨岡（2013）は、「観察者が『観察者と被観察者が共にある』という構図を免れず、観察者が観察対象の側に一部組み込まれる」という、この方法論独特の特徴を指摘する。そして、エピソードを描くということは、記述する現在から振り返ることが求められ、「いま、ここ」を再現前化することである。隔たりを持って一つの対象としてメタ観察を加え、メタ意味を考察し、一つの認識を導き出そうとする。このエピソード記述方法論においては、ここで得られたメタ意味は「もう一度自分の生きた意識体験に差し戻して、その意味を再度感性の次元で実感しようとする」試みなのである。これは観察者の代替可能性があるか否かという問題を超えて、パラダイム（土俵）の相違であると鯨岡（2013）は言う。

次に鯨岡（2013）は、明証性について議論を進めていく。行動科学ではデータを得る手続きの客観的厳密性とデータから導かれる結論の一義性によって、明証性が担保されている。しかし、鯨岡（2013）は、データや導かれた結論が万人にとっても「紛れも無い」「不可疑のもの」であると言えるとしても、「なるほどそうだ」、「よく分かる」、「納得できる」という実感レベルの明証性ではないと言う。そして、エピソードを書く主体の側から、「私」に実感されたものとしての明証性と、他者にも了解可能だという確信に結びつく明証性の、二重の明証性を提示する。「私」に実感されたものとしての明証性とは、当然、接面において心を揺さぶられた意識体験をしているのであるから、「私」に実感されたことは「疑いない」ものである。また、その意識体験をメタ観察しメタ意味を得た時に視座を揺さぶられることも自分にとって明証的である。他者にも了解可能だという確信に結びつく明証性とは、そのような意識体験はきっと他者にも分かってもらえるはずだと思ってエピソードを書くので、そこにも明証性があると言える。鯨岡（2013）はこれをさらに、読み手の側にまで拡大する。つまり、もし読み手が「書き手のそのようにして導かれたメタ意味をまずは書き手の側に自分を重ねて了解しようとし、次には自分の立場に立ち還って、その意味を吟味し」了解するならば、その意味で読み手にとっての明証性となるのである。こうした了解が広く他の読み手に広がるのが確信できることこそが、このエピソード記述方法論が提示する明証性なのである。

3-2. エピソード記述法による省察

この「関与観察とエピソード記述」という方法論は、療育、保育、教育、看護、医療、社会福祉など人が人と関わる領域でのアプローチとして、特に保育現場や保育実習での記録方法・振り返りの方法論として定着しつつある。例えば社会福祉の領域では、森口（2015）は、社会福祉実習の授業において実習体

験に関するエピソード記述を書く指導を行い、「実習直後にもやもやとした『或る感じ』でしかなかった体験が、エピソード記述を書くことでその意味が明らかになり、そこで学んだことが個別具体の出来事と共に言語化された記録として残せる形になった」として、これはエピソード記述を用いた実習指導における成果であると語っている。そして、エピソード記述を社会福祉の領域に援用するにあたって、エピソード記述が持つ「間主観的アプローチ」と鯨岡の「生きられる還元」という方法論に言及している。森口は、実習生のエピソードを考察して、自分とは異なる存在との出会いや他者の経験に触れるなかで「当たり前」であると思っていたことが崩壊し、そのことによって、新たな気づきや意味付けが生まれる可能性や、間主観的アプローチが言葉での意思表示や自己表現が難しい知的障害者や認知症の高齢者の主観を汲み取り記述することができる可能性を指摘している。

また、塚田（2014）は、鯨岡の関係発達論をベースに〈子ども-保育者との関係〉を「子どもを、その子なりの思いを持った一個の主体として受け止め」ようとして、①間主観的把握、②両義性、③相互主体的関係の3つの観点から、実習生のエピソード記述を読み解こうとしている。取り上げられた実習生のエピソードには、外部から見た行動レベルではなく目に見えない気持ちの把握が書き綴られており、「間主観的把握」の概念を導入する必要性が示されている。また、別のエピソードには、子どもの思いを受け止めたいが受け止めようとするからこそ感じる実習生の葛藤場面が紹介されている。実習生はそうした葛藤を抱えながら何とか子どもと繋がろうとするが、どうしたらいいかわからないところで、子どもの行動の裏にある気持ちを受け止め、子どもに接する担任保育者の姿に、実習生は心動かす。塚田（2014）は、そのエピソードの中に両義性の概念を見出していく。子どもと気持ちが通じ合えた瞬間の言葉に「受け止める」ことの意味を感じるエピソードも紹介されているが、これらのエピソード記述が、子どもの両義的な気持ちを受け止め、実習体験と実習生自身の気持ちを振り返る方法となっている。

塚田（2014）が取り上げた実習生のエピソードでは、前節で見てきたように、実習生は両義性を持ち葛藤を抱えた主体としてその接面に関わっており、そのエピソードを描くということは、実習生が記述する現在から振り返り、「いま、ここ」を再現前化することである。その意識体験を対象化して考察（メタ観察・メタ意味）から掴んだものは、再度自分の中で生きた意識体験として反芻されて実践知となる可能性を秘めたものである。そして、次の日以降の実習や保育の場において、その実感を伴った知は活躍する場を待っている。鯨岡の提示するエピソード記述方法論による省察は、このような構造を持つものと解釈できる。

なお、鯨岡のエピソード記述と実習で用いられるエピソード記録とは若干の違いがある。鯨岡のエピソード記述は、通常、《背景》、《エピソード》、《メタ観察（考察）》という形式をとる。この形式の《背景》を読むと、そこには膨大な経験の蓄積があり、その流れの中でこのエピソードを他者に伝えたいという思いに駆られるほどの切実なものがある。そして、そのエピソードが成立するには接面に生じたその場面で心揺さぶられる意識体験があり、そこからメタ意味が導かれて了解可能な「なるほど」という実感を伴った思いが出てくる。そのような中で、《エピソード》の記述が始まり、それを記述する過程で《メタ観察（考察）》が深まっていく。つまり、鯨岡のエピソード記述は、こうした手順を踏むことにより省察支援の方法となり、それを記述することによって「生きられる経験」となるのである。これに対して、保育実習で用いるエピソード記録は、エピソード記述で取り上げられる前の原石のようなものである。しかし、これらも実習生にとっては接面で生じた意識体験であり、エピソードに記録する過程で省察の方法となることに変わりはない。森口（2015）のように、実習を終えてから事後省察に活用し深めていくこともできるが、例えば実習後に、専門科目である5領域の保育内容各論や「保育者論」、保育者養成課程の総括的科目である「教職実践演習」など他教科と連携し、省察内容を引き継いでいくこともできる。こうした学習の構えを形成することが、卒業後の現場での保育記録の省察や保育カンファレンスでの対話につながってくるのである。

安藤（2000）は、実習体験から最も強く印象に残った事柄を一つ取り出し「子どもの姿」をエピソードとしてまとめる授業を行なっている。安藤は「学生が実習中に観察したり、体験した事柄をエピソードにまとめることは、その出来事を一つの小さな『物語り』として自分の中に意味付ける作業でもある」と述べている。そして、子どもをよりよく理解することが最終的には学生自身の人間的な成長と深く関わっていくことだと実感するという、学生が記述したエピソードを2つ、紹介している。森上（2000）が言うように、人間性や深い子ども理解に支えられない「保育の専門性」は存在せず、逆に、専門性を抜きにした人間性は「保育の専門性」とはならない。エピソードを書くことは、単に省察を促すだけでなく、「保育の専門性」や質向上につながる人間的成長となっていくのである。

4. エピソード紐付け法の考案

4-1. エピソードを評価観点に紐付けした省察方法

本章第1節では、ルーブリックは観察可能な記述語で記されており、それゆえに評価基準のズレが小さく、第1章で指摘した評価基準の問題にアプローチすることができたと述べた。しかし、ここで一つ大きな問題が生じる。それは、学外授業である実習では、この観察可能な記述語が必ずしも観察可能とは言えないということである。これは、どういうことだろうか。実習指導者は常に実習生を観察できる立ち位置にいるとは限らず、むしろ実際の現場では、実習生の様子を見ることのできない位置にいて保育を行なっていることが多い。これは、他のクラス担任（保育者）や主任・園長でも同様のことが言え、実習生の言動を観察できていることもあれば、できない時も当然ある。では、実習用ルーブリックは、どのようにして、そこに記されている記述語と行為の一致を確認することができるのであろうか。さらに思考実験を進めていくと、仮に実習用ルーブリックでチェックできたとして、そこにチェックをつけることができたかの根拠を評価者・被評価者がお互いに了解し合うことは、何を持ってして可能となるのであろうか。もっと言えば、もし仮にそのような形で実習指導者がチェックをつけたルーブリック（実習評価票）が養成校に返送されたとするならば、どういう理由（根拠）でこのスコアをつけたのかが説明されなければ、その実習生の学びを把握することは困難である。このことは、学外授業にルーブリックを導入した時にも同じ問題が起こりうる。では、この問題にどう対処したらいいのだろうか。

そこで、この問題を解決するために考案したのが、次に説明する「エピソードを評価観点に紐付けした省察方法」（以下、エピソード紐付け法）である。通常、ルーブリックによる評価は、図2のように、教員が学習者の行為もしくは提出物（レポート）を評価尺度と照合することによって得ることができる。また、学習者は行為や提出物をアウトプットする時点、もしくはフィードバックを受けた時点で、自己評価をおこない、自らの行為を省察することができる。ルーブリック使用の利点は、観察可能な記述語で示された評価基準によってパフォーマンス評価が行われる点である。このことは、評価の妥当性や信頼性につながってくる。しかし、学外実習の場合、実習担当教員や現場指導者は実習生の行為を全て観察できるわけではないので、それを示す根拠（エビデンス）が必要となる。また実習生にとっては、実習の複雑なプロセスの中から評価基準に照合する場面を取り出す必要がある。

そこで、日本の保育実践ではよく用いられる実習記録の方法であるエピソード記録を活用し、評価尺度の根拠として紐づける省察方法を考案した。つまり、実習用ルーブリックの評価基準に示された記述語に記載される状況に当てはまるような最も近い行為や場面を探し、そのエピソードを記すという作業である。実習生は、ルーブリックの評価基準に照らして自らの行為や場面を想起する時には、保育の省察が求められ、それを実習日誌に記録したエピソード記録から探す、あるいは新たにエピソードとして書き起こす作業を始めるのである。このアイディアは、筆者がルーブリックを開発するプロセスで、過去の教育経験から実習生の最も適合する場面やエピソードを想起した時や、ワーキンググループの活動の中でモデレーションして記述語を作成するプロセスの中で思いつくことができたものである。したがって、エピソード記録を評価指標に紐付けることは、自分自身の過去の行為や経験を探索し、省察するプロセスそのものである。

4-2. 実習用ルーブリックが提案する新しい使い方

このエピソードをルーブリックの評価基準に紐付けしたリフレクションを図示すると、図3のようになる。実習生は、ルーブリックの評価基準を自己評価し、なぜその評価基準に丸をつけたのかという根拠をエピソードとして紐づける。その時、実習生は、ルーブリックの評価基準にある記述語に当てはまる行為や場面を実習日誌の中から探す、もしくは実習体験の中から想起しながら、省察が行われる。一方、保育実習指導者は、自らの観察や同僚からの観察情報を元に、そのエピソードとルーブリックの記述語との紐付けが妥当なのかを判断し、フィードバックを与える。また、そのエピソードや自己評価に対して、エピソードの読み手として自らのコメントを保育の専門家としての立場からフィードバックする。保育実習指導者の反応やフィードバックが紐づいた形のエピソードは、実習後、養成校での事後学習にそのまま引き継がれることになる。つまり、これにより実習中と実習後の省察が連動するのである。

ここで、図2と図3を比較してみると、通常ルーブリックと実習用ルーブリックでは、使い方が大きく異なることが分かる。通常ルーブリックは、ルーブリック（という評価ツール）で、作品やレポート・実技などを評価し、フィードバックを行なっている。一方、実習用ルーブリックの新しい使い方では、ルーブリックにエピソードが紐づけられており、省察ツールとして機能している。つまり、ここでは、通常とは全く違うルーブリックの使い方をしているわけである。

図2. 評価ツールとしてのルーブリック

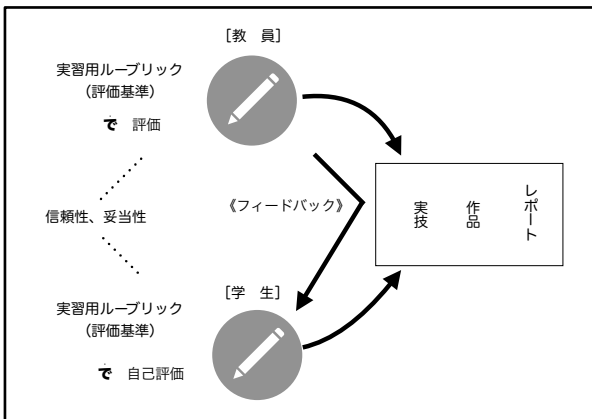
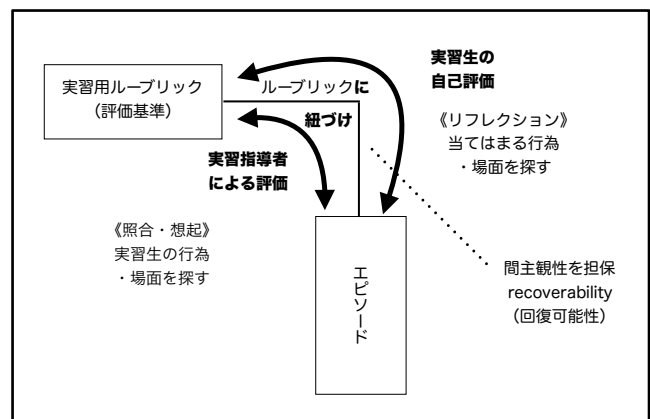


図3. 省察ツールとしてのルーブリック



この新しいルーブリックの使い方では、実習生が自己評価の根拠として紐づけたエピソードの妥当性が問われることとなる。これまでの使い方では、評価ツールそのものの信頼性や妥当性が検討され、オルタナティブ・アセスメントのパラダイムであるとは言え、松下ら (2013) のように一般可能性理論に基づくツール自体の信頼性を高める試みがなされてきた。しかし、この新しいルーブリックの使い方では、評価ツールではなく省察ツールとして、エピソードを紐づけすること自体の妥当性が問題となる。ここで、鯨岡のエピソード記述方法論の手続きと明証性の議論を思い起こしてみたい。鯨岡 (2013) は、エピソードを書く主体の両義性や固有性を排除して、人と人の接面で生じる情動や実践に込められた思いなどを捉えることはできず、書き手が対象との関係性に巻き込まれた形でエピソードが成立することを確認した。そして、その明証性は、まず接面において心揺さぶられた「私」の実感と、その意識体験を考察する際に視座を揺さぶられ深くその意味を覚知された実感に根ざしていた。その実感は、当然、他者にも了解可能であるという確信に結びつく明証性と、実際に読み手にまで拡大された明証性に至る。これらの明証性は「間主観的にわかる」ことを媒介にして、エピソードの明証性が担保されている。

実習生が根拠として取り上げるエピソードには、「実習生」にとっての疑いえない実感があり、保育実習指導者や同じ実習生の仲間にも了解可能であろうという期待がある。しかし、この時点では書き手としての自分以外の明証性はなく、これが保育者や仲間・教員に開かれて初めて、ある程度の明証性が担保されるのである。したがって、万人がこのエピソードの明証性を了解できるわけではなく、また実習ではこの万人の明証性が必ずしも必要であるとは言えないが、この新しいルーブリックの使い方では実習生に関係する人々の範囲内での明証性が焦点化されているのである。評価基準に紐付けされたエピソードが本当に妥当であると言えるのか、つまり少なくとも読み手である実習指導者や担当した保育者にとって了解可能であると言えるのかということは、そのエピソードにある了解可能性と、実習生の行為を観察し保育の専門性を発揮して読み取った情報に依存していると言える。

この実習生（書き手）と実習指導者（読み手）の各々の評価は、日々の実習日誌へのコメントや反省会（中間・最終）での擦り合わせによって、確認される。自己評価とその根拠となるエピソードの明証性は、この両者の対話によってのみ担保される。しかし、この構造は、明証性というよりもP・チェックランドが言う回復可能性 (recoverability) に基づく担保であると考えられる。

内山 (2007) は、SSM (Soft Systems Methodology) ベースのアクションリサーチにおける知のあり方を検討する中で、実証主義の反復可能性 (repeatability) に対応する学問的基準として回復可能性 (recoverability) の考え方を取り上げている。内山は、認識レベルで捉えることのできない、経験的、臨床的、暗黙知などで表出されたアクチュアルなプロセスを、事後的にそのプロセスの痕跡をたどり公共の場で議論できるものとして、回復可能性を学問的知に位置づけた。内山は次のように述べている。

「その痕跡をたどることによって、アクションリサーチのアクチュアルなプロセスが一応、追跡可能 (traceable) になる。そのとき、この知は、アクションリサーチのプロセスのいつ、どこで、どのように、獲得されたのかを公共的に確認し、議論できる。これが実証主義の『反復性』 repeatability に対応するアクションリサーチの学問的厳密性を担保する『回復可能性』 recoverability で、実際のプロセスそのものは回復できないにしても、その痕跡をたどることによる公共の場での回復可能性として、チェックランド (P. Checkland and S. Holwell, 1998) によって、提案されているものである」(内山, 2007)

まるで将棋対戦での駒配置の復元によって痕跡をたどるように、そのエピソードを問われた時に、実習生がその場面における「いま、ここ」の意識体験に焦点を当て、いつ、どこで、どのように、「図」となって意識に上ってきたのかを対話によって明らかにできることが、この回復可能性 (recoverability) に他ならない。

以上見てきたように、エピソード紐付け法では、従来のルーブリックの使い方とは全く異なる使い方を提案し、従来の評価ツールとしてではなく自己評価の根拠となるエピソードを省察するツールとして、ルーブリック評価法にエピソード記述方法を位置付けた。そして、その学問的担保を、エピソード記述における明証性と保育者との対話によって得られる回復可能性 (recoverability) に求めている。「間主観的にわかる」、「対話を通してわかる」ということによって、ナラティブに了解可能性は構築されるものとなるのである。

このエピソード紐付け法により、ルーブリックを遠隔地における学外実習に使用することができ、紐付けされたエピソードは日々の日誌や中間評価・最終評価などの事中の評価はもとより、事後の自己評価、エピソードを介しての事後学習を連続した学習プロセスとして捉えることが可能となる。エピソード紐付け法は、実習の複雑なプロセスをルーブリックの評価指標に沿ったエピソードの集合体として見なし、取り扱うことを可能とする方法論であると言えよう。

第3章. 実習用ルーブリックの開発（研究Ⅰ）

1. 開発の背景と研究デザイン

1-1. 開発の背景

第1章において（1）実習評価における標準化の必要性和（2）フィードバックの仕組みづくりという2つの問題を指摘した。実習施設と実習指導者の実習評価票をめぐる「二重のばらつき」とフィードバックの問題に対して、第2章ではルーブリックが有効ではないかという検討がなされた。

そこで、本章では、実習の省察に関する具体的なツールや方法を、実習用ルーブリックに求め、それを開発することによってこれらの問題にアプローチする。松下（2012）が「複数の評価者がモデレーション（moderation）によって『間主観性』を担保することが必要になる」と述べているように、ルーブリック作成のプロセスでは、まさに立場の違う作成者たちが各々の価値観や評価観を語り合い、「間主観的に分かる」という擦り合わせが必要なのである。

研究Ⅰでは、保育所現場や教職員・学生と協働しながら保育実習における評価ルーブリックの開発を目的に、アクション・リサーチをおこなった。成果物としての保育実習における評価ルーブリックを提示するとともに、開発プロセスにおける研究者のリフレクションによって得られた知見を明らかにする。

1-2. 研究デザイン

表3-1のように、保育実習担当教員・職員8名、学生8名、公立保育所・私立保育園の園長12名を構成メンバーとしてワーキング・グループを編成し、保育実習の評価ルーブリックの開発を目的に、アクションリサーチをおこなった。

介入・倫理的な手続きとしては、研究要旨を明らかにした文書を依頼文として通知し、保育園や学生に賛同を得ておこなった。第1回目ワーキング・グループでも問題意識を共有し研究の趣旨とこれまでの研究経緯・研究のすすめ方を説明した。筆者はファシリテーターとしてワーキング・グループの場を計画的に設定し、研究協力者はグループへ参加者として参加した。ワーキング・グループでは、予備調査で用いた仮ルーブリック（巻末資料2、3）をもとに検討した。先行研究では、小泉と関口（2007）、小泉（2008）、中嶋ら（2014）が各々の手順でルーブリックを作成しているが、研究Ⅰではワーキング・グループの参加者たちが持つ「間主観性」を手がかりに、モデレーションをおこなっていった。

表3-1. ルーブリック開発の研究デザイン

研究段階		主な内容
事前調査	グループ・インタビュー（2016年9月）	インタビュー、フィードバック、研究デザインの方向性
問題の共有	第1回ワーキング・グループ（2017年6月9日）	ワーキング・グループの発足、研究目的・事前調査の共有
評価基準の策定	第2回ワーキング・グループ（2017年6月23日）	保育実習Ⅰの評価（仮ルーブリックをもとにした検討）
	第3回ワーキング・グループ（2017年8月30日）	保育実習Ⅱの評価（仮ルーブリックをもとにした検討）
	第4回ワーキング・グループ（2017年10月20日）	実習日誌の評価（実習日誌ライティング・ルーブリック）
	第5回ワーキング・グループ（2017年12月1日）	論点の再検討、まとめ
リフレクション1と成果発表	シンポジウム「実習の評価が変わる！ ルーブリックの可能性」（2018年1月21日）	ワーキング・グループの検討からのリフレクション1と、シンポジウムでの研究成果発表
リフレクション2	2018年3月	シンポジウムの研究成果発表へのコメント（大阪大学 佐藤浩章氏）と、パネル・ディスカッションでの討論内容からのリフレクション2
リフレクション3	保育実習Ⅰ中間評価（2018年2～3月） 保育実習Ⅱ中間評価（2018年7～8月） 〔Ⅰは3園5名、Ⅱは7園9名の実施〕	協力実習園における試行と、記述語の検討によるリフレクション3

2. ルーブリック開発過程と研究成果

2-1. ワーキング・グループからのフィードバック

表3-2の通り、5回のワーキング・グループの論点を抽出し、ルーブリックへ反映点を整理した。

表3-2 (その1). ワーキング・グループからのフィードバック

主な検討項目	議論の概要	ルーブリックへの反映点
評価の枠組み	<p>・現在の評価をめぐって、学生の印象や評価者の主観で評価していることが多いのではないか。また、園の方針にもよるが、子どもに積極的に話しかけ活動することを高く評価し、子どもをしっかりよく見る・見守るといった行為は実習生としてはあまり評価されない傾向にある。見守るために黙って立っていた学生の日記を見て、観察内容や学生の思い・対応が記録されているのがわかるので、可視化された態度や言葉だけではなく、日記がこれまで大きな評価の一部になっている。このように言語化するのが難しい評価に対しては、ルーブリックは有効ではないか。これまでの5段階評価は抽象的で、何が足りなかったのか、次の活動に活かさないなど具体的に欠ける。評価の点数化については、アセスメントの概念から考えると、トータル的な点数化は意味がなく、むしろチャートなどでプロフィールを描き出す方が自己評価や課題の明確化に役立つ。</p> <p>・学生が心を動かす経験、子どもと向き合う感動、発見することの喜び、目に見えにくい心の部分を評価するのは難しいが、保育者にとって一番大切なことなので、どこかで評価してあげたい。また、失敗からの成長や伸びしろの部分も評価する必要がある。実習期間の最中に中間評価にルーブリックを活用するのよもい。実習のプロセス、がんばった部分を評価してほしい</p>	<p><input type="checkbox"/> 日記は評価のエビデンスとなる</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の点数化は不要</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメントの位置付け</p> <p><input type="checkbox"/> 目に見えにくい心の部分の評価をどうするか</p> <p><input type="checkbox"/> 失敗からの成長や伸びしろの部分などをどう評価するか</p> <p><input type="checkbox"/> 中間評価へのルーブリック活用</p> <p><input type="checkbox"/> 実習のプロセス、頑張りや評価するにはどういった仕組みが必要か</p>
職業人としての基本的姿勢	<p>動機状況（出欠・遅刻等）に関して、感染症による欠席と体調不良や日記が書けないことによる欠席は立て分けるべきである。学生からは、大学から少しでも具合が悪い時は休むように指導されているが、評価が下がってしまうと思うと、行ってしまおうかと思ってしまうという意見があった。感染症などの欠席内容によっては評価への配慮は必要である。体調が悪い時に、休ませてほしいとの相談ができたが、適切な対応ができたかがポイントとなる。健康管理と時間管理は職業人として一番大事である。これは、実習ⅠもⅡも共通的な考えで良いとする意見と、職業人として当たり前なのでⅠに入れ、Ⅱで外すのも良いのではないかとする意見もあった。</p> <p>今の学生は家で固定電話がない家庭も増えていて、電話がかかってくるのが怖く感じたり、電話で話す経験がない。「時代的に」できないということが、他にも考えられる。挨拶や連絡の仕方も、電話ではなくメールでも良いとする高校までの背景があるとすると、今の若者世代と感覚に大きなズレがあることを認識して指導する必要がある。</p>	<p><input type="checkbox"/> 動機状況は、評価から外す</p> <p><input type="checkbox"/> 動機状況や日記未提出は、欄外に回数をカウントする欄を設け、教員が成績評価の際、参考にする。</p>
積極性・意欲	<p>・積極性の評価は難しい。学生は子どもを積極的に見守っていたのに、それを見た職員からの評価は、あまり子どもと関わってなかったと消極的に捉えられてしまう現状がある。学生、園長、指導する保育者各々が捉える「積極性」は異なる。何を基準に積極性を見るかという時に、ルーブリックのような評価基準があると判断しやすい。一人で評価するのではなく複数で評価するので、そのようなときに指標があれば意見が一致しやすい。その人に対して色々な見方で総合的に評価してあげられる。</p> <p>・意欲の姿として、分からないことを少しでも分かるようにしていく姿として、質問や、保育士が準備をしていることを一緒にやる、「何かお手伝いいたしませんか?」と声をかけるなど。「積極的に質問でき、指示を待ってから行動することが多かった」という段階から「積極的に質問して自ら進んで取り組むことができる」段階に高まっていく。そして、Ⅱに向けた課題に取り組む姿が見えたかどうか。自分の目標がはっきり分り、チャレンジする姿が見られたか。</p> <p>・学生にとっては、一日を過ごすのに精いっぱい、日記を書いているうちに分らなかつたことが浮かんでくる。聞かれたときには、その場では質問はなかなか出せない。意欲の評価は、気持ちではなく課題を見ていただいた方がよい。積極性だけでなく課題意識も評価観点にいれてもらえたら、頑張った甲斐があるとの意見もあった。「明確な課題意識をもって、実習に取り組んだ」という文言がよい。実習目標を担当保育者に伝えたことで、先生方も意識して反省会の時に質問に答えてくれた。目標がないと実習は進まないで、目標の部分でルーブリックに取り入れてはどうか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 積極性という言葉は園の方針や保育者の価値観で判断が異なるため、使用しない</p> <p><input type="checkbox"/> 意欲は学生の状況を考慮すると、質問だけでなく、課題意識や目標設定にも現れるため、意欲という言葉を使用しない</p> <p><input type="checkbox"/> 質問は、むしろ実習（学習）を促進するためのものと位置付け、「質問による理解の促進」という項目にする</p> <p><input type="checkbox"/> 明確な課題意識を持つこと、目標を具体的に設定することを、項目として立てる</p>
チーム意識	<p>・学生がチーム意識という認識をもって働く、仲間として感じて働くのは難しい。学生がチームの一員として働くことは難しいが、保育とはチームでなされていることを理解することは大切である。クラスには、リーダー、サブ保育士など様々な役割があり、一つのクラスが成り立っていることを知る意味でも必要である。学生にとっては、チームというより参加させていたいただいているという意識が強い。チームとは、対等な人たちという認識であり、学生にとって保育士は大きな存在である。</p> <p>・報告、連絡、相談は、仕事を進めるためには必要である。きちんと言語化した報告ができたかを見るだけでも十分ではないか。実習生が見た状況を報告・相談してアドバイスを受けるといったやり取りが重要である。気づきから、質問する意欲と力、相談したうえで対話が成り立つこと、担当保育者から得られたことを実現できる段階を体験する。学生の経験としては、指導案をつくる時に、やりたいことと子どもの興味・関心について担当の保育者と相談して決め、協力して進めていく体験も重要である。実習生が連絡を受けることはあっても、連絡することはないのではないか。「報告」と「相談」は、実習現場では起きやすい。「情報の共有」という項目の方が良いか。「報告がきちんとできたか」「相談・質問がきちんとできたか」を情報の共有とする。</p>	<p><input type="checkbox"/> チーム意識という言葉は大切だが、実習には馴染まないで使用しない</p> <p><input type="checkbox"/> 報連相の中で連絡は実習の中で実態があまりないので使用しない</p> <p><input type="checkbox"/> 言われたことを素直に実行することが求められる</p> <p><input type="checkbox"/> チーム意識と報連相の議論で重要な要素を、「情報の共有」に見出し、報告と相談に分けて記述する</p>
保育の専門性	<p>・評価観点や項目としてあげられている、発達理解、個人差理解、保育技術の実践は、2週間の実習では難しい。実習Ⅰで求められる内容が高く、現場の保育士でも課題になる部分である。例えば、何をもちいて保育技術とするか。対人援助職として丁寧な接し方、言葉かけ、音楽、表現などすべての項目を詳しく見ていくのは難しい。Ⅱの段階では、責任実習の中で先生として「遊ぶ」などの視点の技術であったり、Ⅰでは部分実習で多くの学生が「絵本を読む」という経験をしていく。目に見えない教材の実践というところに着目するが、本来は根っこである子どもとの丁寧な関わりというものが表れていない。実習ⅠとⅡでも絵本の読み聞かせには深まりがある。保育の専門性とは、「子どもをどう見るといふ目線をもつ」などではないか。まず大切なことは「子ども理解」、受容的態度である。保育技術を問うのであれば、基本的スキルを持っていることが大事である。「保育技術」という専門用語に対して大学が要求している解釈と、保育現場が捉える保育技術の解釈は、タームの整理が必要か。</p>	<p><input type="checkbox"/> 発達理解、個人差理解、保育技術の実践は2週間の実習では難しく、指し示す範囲も広いので、発達を意識する、個々の特性に目を向けるとし、保育技術という言葉は使用しない</p> <p><input type="checkbox"/> 丁寧な関わり、子どもへの関心・子どもの世界の尊重という項目を立てる</p>
	<p>・観点・項目について、下記のようなカテゴリの議論があった。また園長が作成したルーブリックも提案された。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「保育技術」と「援助」の考え方について、「保育技術の活用」と考えた方がよいか。 * 「保育技術の実践」と「援助」の項目が並んでいると分かりやすい。 * 「保育の専門性」と「保育者として働く意識」を全部一緒にする。 * 「発達理解」「保育技術の実践」「環境構成の理解」「援助の理解」の4項目にしたらい。 * 「環境構成」と「援助の理解」を1つにまとめることもできる * 「発達理解・発達援助」「遊びの展開」などの項目にしたらい。 	<p><input type="checkbox"/> 保育の専門性に「発達理解」、「援助の理解」を含める</p>

表3-2 (その2). ワーキング・グループからのフィードバック

主な検討項目	議論の概要	ルーブリックへの反映点
環境構成	<p>・「環境構成」の捉え方は、範囲が広い。クラスの部屋、保育園全体、保育者一人ひとりをとらえるのか。安全、配慮、季節・等も含めるのか。どうふうに評価していくか。学生が環境を構成することは、難しい。責任実習の時に提案型保育をする機会に、テーブル、椅子を動かしたり、教材をどこに置いたかの経験はできる。現場では、整理整頓、掃除、片付けの部分に関わることを考えている。環境を通しての保育という言葉は、授業を通して勉強している。子どもの遊びを支える環境について、生活の中にどういう視点があるか感じ取れればよいと思う。保育者が構成した環境構成をどう実践と繋げて理解できるかが、Iでは視点となるか。「環境の構成」は事前の準備、実際の最中では、子どもとのやり取りの中で必要に応じて「再構成」になる。</p> <p>・環境構成と援助は切り離せない。環境の中には人的な、子どもたちの人間関係を考えているところまで含めて考えている。援助と環境構成を1つにまとめた方がよい。例えば、「子どもの遊びを予想した事前の準備について分かった」「安全を配慮した環境について分かった」「子どもの生活に関わって、子どもが安心して情緒が安定した生活を送れるような保育室の環境について分かった」というように見るところを具体的に挙げておく。遊びの流れの中での環境への配慮、例えば、物的、人的というのは括弧付で入れ、見るところを具体的に入れることで、分かりやすくなるのではないか。IIの方では、実際に自分で実践するので、そうしたことが実践的にできてくるという違いを付けたいのではないか。</p>	<p>□環境構成という言葉は、指し示す範囲も広く多義的なので、使用しない</p> <p>□保育者が構成した環境構成・援助がどう実践に結びつくかを理解する視点を「保育者の援助」に含めた</p>
子育て支援	<p>子育て支援は実習生に関わる機会が必ずあるとは言えないし、実習で経験することは難しい。現場も子育て支援について学生に伝えるときに、何ができると悩んでいる。学生が、保育者と保護者が話しているところを見ていたことがあった。保護者のことを理解したいとの意思の表れだと思うが、その場を目で確かめ、後でどういことが行われていたのか、どうい意図があったのかを、現場で直接聞いてくるのは、授業で事例を聞くのとは大きく違う。そうした実習経験があると、子育て支援の重要性や保育者の思いを、実感を持って理解できる。学生に保護者支援について伝えることはできるという話が聞けた。子どもと接していたら、必ずその背景には保護者がおり、その子の生活を考えたときに必ず入り込んでいるという感覚は、それをどう伝えられるか意識して言語化して、現場の先生が実習生に対し「普段、先生がやっていることはこういう意味があるのだ」という説明をすることは、すごく大事だと思う。</p> <p>・現場の保育者が伝えたいと思える瞬間に出会えると良い。子どもが〇〇できたという姿を保護者に伝えたら喜ぶだろうなと思って保育している。それは帰りの時に自然と伝えたり、お便り帳に書いたりしているが、実習生は今そのことを伝えようと意識しないとできないので、意識することは大事かと思う。子どもたちの言葉にならない気持ちをどれだけ読み取って、お母さんにどんなふうにごさうか・・・、それも表面的な話ではなく、その話の裏にはどんな気持ちが隠されていて、どんな気持ちでその先生が話しているのかまで理解するのは難しい。これを評価どうするか。</p> <p>・保護者支援はどこまで踏み込んでよいか。学生にとって連絡帳は見てもいいのかということも葛藤が生まれた。守秘義務の問題もあって、学生からは言いづらい。現場の先生からは保護者と保育士の連絡のツールでもあり、具体例を見ることができると見せてもいいのではないか。保護者支援については、事前に自分で考えて実習先の先生と話し合っ進めていくべきである。</p>	<p>□子育て支援の現場を実習期間内に必ず経験できるわけではないが、保育者から話を聞くことはできる</p> <p>□実習Iでは保護者支援を、実習IIでは(地域)子育て支援を中心に話を聞くこととした</p> <p>□現場でも子育て支援について意識して話をしてもらおう</p> <p>□事前学習では、保育所の日常における保育や生活に子育て支援が結びついていることを理解する内容を取り上げる</p>
部分実習責任実習	<p>部分実習・責任実習の項目について、下記のような意見があった。</p> <p>* 「部分実習」、「責任実習に至るまでのプロセス」と「責任実習」を分ける。指導計画、立案の際に環境構成を考えられていたかをプロセスの欄に入れるか。</p> <p>* 「立案」、「実践」、「振り返り」と分けて項目があると、分けて評価ができる。</p> <p>* 学生からは、立案の実践に至るまでの「プロセス」も評価してほしいとの意見があった。</p> <p>* 「立案」、「実践までのプロセス」、「実践と振り返り」の3項目に分けたらどうか。</p>	<p>□立案と実践までの過程、指導案の実践、実践の振り返りという3項目を設定した</p> <p>□特に立案と実践までの過程では、学生がおこなう様々な準備と保育者とのやりとりのプロセスを加えた</p>
実習日誌	<p>実習日誌の項目については、下記のような意見があった。</p> <p>* ルーブリックを作るとすれば、「ポイントをしぼって書くことができるか」、「その日の大事なことをつかめているか」。実習を重ねていけば、書くポイントが分かったり、園長から「要点をまとめて、量より質だよ、大切なことを書くように」と言われると、書くべきことが分かるようになる。</p> <p>* 看護学生が乳児を学ぶために保育園に来ると、記録の時間を求められ、30分くらいでまとめ、「反省会をさせていただきます」と言う。看護師はこうして働くのだと感じた。完全三交代制の中で、記録をきちんと書かなければ患者さんの引継ぎができないので、8時間で完結させる働き方だということも学んだ。</p> <p>* 学生が書いた日誌から学ぶことはたくさんある。職員がどんな保育をしていたか、そういうつもりではなくても、そう見えたということは、どうだったのか、援助の材料になる。</p> <p>* 一年目の保育者は、昨年まで日誌を書いていたのに、学生の実習ノートにコメントをしなければならない場合もある。その保育者は、どうコメントしたらよいかを先輩保育者に質問をする。その瞬間に、すごく学んでいるのだと感じる。学生とは一年しか変わらないが、一生懸命、時間をかけてコメントを書いている。下書きをする人もいる。実習生を受け入れることで、若い職員も伸びる。学生だけではなく、現場も一緒に成長する場になる。先生方にはご苦労をかけるが、意味ある成長できる機会であると思っただけだとありがたい。</p> <p>* 学生として、実習日誌への指導のされ方が違うと感じている。</p> <p>* 実習Iと実習IIで同じように書いたら、実習IIだから子どもの関わりにおいて何を感じてどう動いてその結果どうだったのかを書いてほしいと言われたことで、自分の動きに重点を置いて書くことができた。</p> <p>* 日誌を書く観点、漢字、言葉つかい等、基本的な文語表現も評価基準が必要になるかもしれない。</p> <p>* 日誌の誤字・脱字は、現場の保育者が指導するべきなのか。養成校の教員がするべきなのか。</p> <p>* 「日誌」という言葉はなくし、「記録と活用」でよいのではないか。</p> <p>* 日誌については別の基準があって、日誌の評価のルーブリックのような枠組みがあると書きやすいのではと学生から意見があった。</p> <p>* 実習日誌ライティング・ルーブリックは、実習IIの段階では有効ではないか。</p>	<p>□学生が経験したことに関して、観察と記録がきちんとおこなわれるが大切にあり、評価観点ではなく、「子どもの姿を記録することができる」という記述語として設定した</p> <p>□学生の記録が職員の研修材料となったり、新任保育者が実習日誌を添削コメントする中で、「現場も一緒に成長する場」となることは、実習生の評価に関わるプロセスも互恵的な意義がある</p> <p>□実習日誌の評価を考えた場合、ライティングそのものを評価対象にすること、その内容を評価することとなり、どちらも評価者が教員が現場の実習担当者かという問題が生じる</p> <p>□実習日誌(ライティングを含む)そのものの評価は、ルーブリックの観点から外し、むしろ他でも指摘されているように、エビデンスとしてとらえた方がよい</p>

2-2. シンポジウムからのフィードバック

シンポジウムでは、大阪大学佐藤浩章氏を招聘し、「学外実習におけるルーブリック」をテーマに基調講演をおこない、ルーブリックの基本的な考え方と学外実習における評価について問題を共有した。その後、ワーキンググループの成果発表をおこない、再び佐藤浩章氏のコメントによるスーパーバイズと、ワーキンググループに参加した園長2名、養成校教員1名を交え、ディスカッションによるフィードバックをおこなった(表3-3参照)。

ルーブリックの修正だけでなく、実習生の能力・資質に関する評価や、実習から保育者として働くまでの職能や成長への評価、対人援助職における情意領域の評価、重層的なリフレクションなど発展的な議論がおこなわれた。

表3-3. シンポジウムからのフィードバック

項目	検討部分	適用・検討
記述語	解釈がまだ多様で、いくつか気になる言葉がある。	ルーブリックを使用する中でも修正する。
カリキュラムの中の位置付け	一般的にルーブリックの観点が多くなる傾向がある。この授業で取り扱わない観点はハッキリ切る。特化する。全学的な位置付けの中で、他の授業で実施すればいいものは削除する。	コミュニケーションの項目は、ジェネリックスキルとして、他の教科や全学的な教科でおこなうことができるが、実習で確認・強化するために残した。
情意領域の評価	人間関係の援助職では情意領域の評価が重要になってくるが、評価は難しい。板倉聖宣は「本当に大切な事は評価できないし、してはいけないのだ」と述べている。	情意領域の評価は、課題として検討する。
成果物の感想	新たに提案された中に自分たちが議論したことがこういう表現で入ったことはとても良かった。	現場保育者にある程度、受け入れられる形になったと認識するが、さらに記述語のレトリックを捜索したい。
成果物の感想	特に保育実習Ⅰの所で、子どもへの関心とか子どもとの関わりというポイントを、平易な言葉でいろいろ、心の動きを感じることができるとか、そういう中で自分が気づく、揺さぶられるような評価票が増えたことが、私にとっては現場に近い評価票になった。	項目については、「自分が気づく」「揺さぶられる」という要素を記述語のレトリックとして模索したい。
学生からの言葉	「私たちが関わったプロセスを見てほしい」と1番大事なことを学生が自分の言葉で伝えたことが嬉しい。保育の営みそのものが保育のプロセスをしっかりと理解していくことなので、それが実現できる実習にしていけないといけない。	実習のプロセスや学生の成長が確認できる仕組みを作ることが大切であり、今後の課題である。
能力・資質の議論	どういった能力が実習において必要なか？ 領域（横の連続性）とレベル（縦の連続性）を考え、横をまず決めて縦を決めて議論する必要がある。	ワーキング・グループで検討してきた。
能力を規定するもの	大学の中で横と縦でマップを作成するだけでなく、卒業後の職場での3年目から5年目くらいまでの連続の中でマップを作る必要がある。これを学生に見せた方がいい。	職場との連続性の中で、実習や養成課程のルーブリックを位置付けて作成することは重要であり、今後の課題である。
AI時代に保育現場に必要な能力	特に暗黙の中で認識していることを可視化する必要がある。AIなどの発展によって10年後になくなる仕事を考えると、保育の仕事は個別の対応が必要でなかなか標準化しにくい、難しいがチャレンジする必要がある。	保育現場に必要な能力を明らかにし、職場との連続性の中にルーブリックとして位置付けていくことは重要であり、今後の課題である。
情意領域の評価	感動や嬉しかったことなど価値観が反映する部分は成績評価に組み込まないというやり方もある。承認欲求を解消するという点では、懇話的な場を作って共有する、嬉しかったらシールを貼るなどの取り組みもできる。	承認欲求を満たす場を作って共有する仕組みを作る。
ルーブリックの限界	言語化していく中で大切なことが削ぎ落とされてしまう危険性がある。言語化しないのではなくエピソードを共有しお互いに聴きあう場を作って残すことも大切である。	エピソードを語る合う場を事後学習に位置付ける。
標準化されることの危険	子どもへの関心の文言は、情景が目に見えればとても良いが、部分実習・責任実習という項目にしてしまうことで、学生の関心が薄れてしまい、日常的・連続性のある保育の営みを部分実習・責任実習がゆがめてしまう危険がある。	部分実習・責任実習が評価項目にあることがかえって実習をゆがめてしまうおそれがあるので、「保育課程の体験的理解」として指導案等の文言を修正する。
コミュニケーションの項目	子どもや保育者の援助への理解がすすんでいくと、実習ⅠとⅡではレベルが変わってくるのではないかと。	状況によって変わることもあり、レベルの追加よりもⅠとⅡは共通に成長を促した方がいいと判断し、そのまま使用する。
実習指導における常識の再検討	評価の枠組みから思い切って外すことも大切である。部分実習・責任実習を評価枠から外すことや、実習日誌ライティング・ルーブリックのように実習日誌の書き方自体を変えるなど再検討する必要がある。	部分実習・責任実習の言葉を評価項目に含めず、「保育課程の体験的理解」として指導案等の文言を修正する。
評価における二重の位置付け	養成校の中で作成するとどうしても学校や学科のディプロマポリシーやカリキュラムから下ろしていくということになるが、一方で、職業人としての育ちやキャリアパスから考えて実習生のあり方を位置付けていくという二重の位置付けがある。	今後、養成校の中とキャリアパスという双方との整合性を考える必要がある。
保育現場での評価と保育者の発達	評価としては経験年数に応じては明文化されていない。年数というよりは、保育者個々の課題で昨年からレベルアップに焦点がある。ずっと保育者が採用されていないというような職員構成も大きな影響があるのではないかと、もう一つの園からは、人事考課に評価票（ワーキンググループで検討した仮ルーブリックに似たもの）を導入し始めた。長らく先輩の背中を見て学ぶ、自分で獲得するという風土の園だったが、ここ10年くらいで法人の園が増え、職員が増え、こうした標準化したものが必要になってくる。	保育現場での習熟別ルーブリックの開発に取り組んでいく。
暗黙知による働き方と標準化したルーブリック	暗黙知が伝承されない現実が起きている。看護業界は全国標準や世界標準と結びつけて考えられているが、保育業界はこれに取り組みまないと大変なことになる。女性が1度退職してまた復職しようとした時に、標準化されたものがないと業界全体の能力が低下する。標準化してもっと効率的に質を高める方法やラダー（はしご）の仕組みを作っていかなければいけない。	保育現場での習熟別ルーブリックの開発に取り組んでいく。
働くことに希望の持てる現場	キャリアを積むことが処遇に活かされていない。法人や施設が社会に開かれた存在にならなくてはならない。実習生が保育者として働くことに何か将来へ向けて希望の持ち、そういう実習での経験が次世代につながるようにすつ必要がある。	保育現場での習熟別ルーブリックの開発に取り組む。
実習指導での対話による学び	実習指導の中で日々現場保育者と学生が対話を通して学んでいく姿の中で、保育を省察することが保育者の専門性を深めていくことを大切にしたい。	中間評価（実習指導）の仕組みの中に、この考え方を取り入れていく。
重層的なリフレクション	このシンポジウムに参加し、これまでもワーキンググループに参加した学生は、自分が経験した実習が何層にもリフレクションすることができている。そして、そのことが良かったと言っている。これは、全学生が経験するべきことであり、他大学ではリフレクション・デーという日をカリキュラムに入れているところもある。こうした「祝祭的」な空間の中で経験を分かち合うことが大切である。	情意領域の評価とからめて、経験を分かち合い、重層的なリフレクションができる仕組みを考える必要がある。

2-3. 試行による修正

中間評価においてルーブリックの使用を通して、実習生や現場の保育実習指導者にルーブリックの使用感をインタビューし、記述語を検討した（表3-4）。

リフレクション3では、使用しながら三者が感じる「違和感」を対象にしながら、その状況にフィットしている表現を探った。実際に使用してみると、ワーキンググループで議論した内容だけでなく、評価者や被評価者によって文言の受け取り方が多少違い、「しっくりくる」言葉の座りは、今後も使用し修正しつつ、微調整が必要であると感じた。

インタビューから、ループリックの記述語によって行為の選択や日々の目標設定への行動が引き出されることが明らかになった。例えば、次の A さんはループリックの記述語について次のように語っている。

実習で自分が子どもとそんなに一緒に遊んでいいのかなってという思いがあって、最初の1週間くらいは立ち位置にずっと悩んでいたんだけど、ここ（ループリック）にあったので、「子どもと一緒に遊んでいいんだ」という思いになった。（中略）何を指してがんばったらいいのかが具体的に書かれているので、もしかしたら3回目とかの実習だったら、もっと上を目指さないといけないのかもしれないけど、1回目の実習で何をしたいのか分からない自分には助けになりました。目標にも、これを見て入れた項目も何個かあります。目標を立てるときにも役に立ちました。

*カッコ内は筆者補足（実習終了後のインタビューより）

また、ループリックの記述語で「Xはできるが、Yはできない」という表現を使用した、「できない」（否定語）という言葉はマイナスイメージで意欲を失うのではないかと、「難しい」といった表現にした方がいいのではないかとという質問に対して、Aさんは、次のように答えている。

「できない」となっていることで、1はクリアできたなと思えたんですよ。逆に「難しい」とかになってしまっていると悩んじゃうなと思ってしまう。

（実習終了後のインタビューより）

この語りは、その時点で「できるか」か「できない」のどちらかがはっきりしていると、「できない」ところから実習が始まっていくイメージとなり、そこから1歩踏み出せたら喜びに変わると解釈できる。「できない」の文言は中間（プロセス）では最終的な評価として否定的に受け止められるというよりも、それを目標にして挑戦を促す言葉として受け取られている。

これまで見てきたように、評価観点だけでなく学習促進機能を引き出す記述語のレトリックが、ループリックの作成に重要な役割を果たしている。

表3-4. 中間評価及び実習終了後のインタビューを通しての記述語検討

No.	該当する評価観点	検討部分	結果	適用理由
1	タイトル	保育実習評価票	保育実習で経験してほしい内容	評価票とダイレクトに表示するのではなく、学習経験の内容とする。
2	評価尺度	評価尺度の左側が1（低い）	評価尺度の左側が一番高くなるように並び替える。	総合評価で点数化しない方がいい。最終目標がすぐに把握できる順列の方が学生にとって意欲が持てる。
3	評価尺度	評価尺度1、2、3の表示	「すばらしい、がんばった、次はクリアだね」に変更	数字で表示するよりも言葉の方が学生にとって意欲が持てる。
4	発達の理解	「関わった子どもの特性」は少し分かりづらい	「関わった子どもの個々の特性」へ修正	「個々の」を入れることで、個別の子ども理解へ視点が向けやすい。
5	発達の理解、保護者支援・子育て支援の理解	事前学習	そのまま使用	実習前にシートに概要を整理し、実習先に提出・報告するようにする。
6	発達の理解、生活の連続性への理解	関連づけ	そのまま使用	事前指導で注意を促す。
7	あいさつ・所作	「丁寧な言葉づかい」は、「了解です」のように丁寧語を語尾につけて話すだけの学生がいる	そのまま使用	事前指導で注意を促す。
8	情報の共有（報告）	「時々、報告を忘れることがある」は、一度あると次の評価には上がれないのではないかと	保育者に伝えなければならないことを、おおむね報告できる。	現時点での、印象の大きい尺度を選択するようにする。
9	情報の共有（報告）	「手順を追って」が分かりづらい	「適切なタイミングで」へ修正	現時点での、印象の大きい尺度を選択するようにする。
10	課題意識の可視化	実習課題	そのまま使用	実習前にシートに概要を整理し、実習先に提出・報告するようにする。
11	指導案の実践	「臨機応変に」はハードルが高い	「自分なりに工夫して」へ修正	観察可能な「工夫する」ことに修正した。
12	ほぼ全ての観点	できない（否定語）の表現変更	そのまま使用	「できない」となっていることで、1はクリアできたなと思える。

2-4. 現時点での成果

以上を踏まえ、項目を再編成し、巻末資料4、5の通り、文言を修正後、ループリックを作成した。なお、勤怠状況、提出物、健康管理に関してはループリックの欄外に表示し、評価観点には含めないことにした。解説となる用語集をつけることも提案されたが、学生にも分かりやすい言葉、解釈の幅が小さい言葉を選び、専門用語・保育用語は極力使用しない方向で作成した。また、評価観点として実習日誌を検討してきたが、日誌内容を評価するというよりは各項目のエビデンスと捉え、評価観点から外した。

3. ループリック開発過程の考察

研究の成果物としての保育実習における評価ループリックを提示したが、開発プロセスのリフレクションによって得られた知見を検討し、協働の意義や評価観の転換について考察を加えたい。

3-1. 学生参加と保育現場の連携による評価基準共有の意義

実習評価における評価観点を養成校の教員・研究者だけで作成するのではなく、評価者や被評価者と共に検討し共有することが重要であると考え、ワーキンググループで検討した。保育現場では、評価観点が実習生の実習内容を規定することが確認された。つまり、ループリックにその評価観点や項目が記載されなければ、現場の実習指導者はその観点から実習内容を捉えず、評価としても記載されず、学生にフィードバックされない可能性がある。逆に考えれば、この評価観点は養成校からのメッセージであり、その養成校がどのような実習体験をさせたいのか、どんなことを大切に教育しているかを実習先に示すものなのである。ともすると、教員・研究者だけでループリックを作成する場合、学んできたこと全てを観点到に網羅しようとする傾向や、三木(2018)などのように先行研究からカテゴリー化された項目を採用しようとする傾向がある。この研究の一環で実施したシンポジウムで、佐藤浩章氏(大阪大学)からは保育実習をカリキュラムの中に位置付け、他の授業で取り扱える観点は他の授業で評価し、この授業に特化して評価しなければならないものは何かを考える必要があるとの助言を得ることができた。ワーキンググループでは、表3-2に示すような項目に関して議論されたが、三者が対話することで評価指標に対する認識と置かれている状況を理解することができ、各々の意識変容が生じた。例えば、被評価者としての学生からは、保育者へ主体的に質問をするにはある程度体験が必要であること、質問は日誌を書きリフレクションする中から出てくること、子どもたちの関係性を尊重することが現場によっては必ずしも評価されていないこと、ABCDなどを使用する評価票では足りないものや課題が見えないなどが語られた。また、頑張ったところやプロセスを評価してほしい、目的意識・目標から意欲を読み取ってほしいということが学生から語られたが、このことは、これまでの実習評価で抜け落ちていた部分である。このように、学生参加により評価される側の視点から評価指標を作成することも重要であり、学生の学び・成長のために評価があることを再認識することができた。

また、保育現場での観点と養成校の観点到にズレがあったが、具体的な実習状況を想定しながら考えることで相互に理解が深まり、適切な用語を検討することができた。例えば、チーム意識については「保育はチーム意識が必要という理解は大切だが、実習生はチーム意識を持つことはできない」や、報連相の「《連絡》は実習生が行うことはあまり見られない」などは、現場での具体的な実習状況を評価者である保育者や被評価者である学生と共に、一つひとつ確認することで評価観点を現状に適した形で考えることができた。

ループリックの記述語に関して、ワーキンググループでの議論や中間評価試行時のインタビューからは、記述語の文言が専門的で抽象度の高い表現や、1つの記述語から多くの場面・行為が想定でき解釈の幅がある表現は、使用する際に多義的で曖昧なイメージを与えることが分かった。しかし、こうしたことに注意を払っても、ループリックを作成する上で学生や実習担当者がイメージしやすい表現を考えることは非常に難しいと実感した。中間評価で実際にループリックを試行した結果、学生は評価項目の記述語によって根拠となる実習体験を語り、記述語から学習が引き起こされたことインタビューで回答している。

このように、養成校の教員・研究者が学生や保育現場と協働して学外実習のループリックを作成することの意義は、具体的な実習状況を評価者や被評価者と一つひとつ確認しながら作成することができ、各々の評価指標に対する認識と置かれている状況を理解することで、各々の評価に対する考え方を捉え直す機会になったと言えよう。

3-2. ルーブリック導入による評価観の転換と新たな評価ツールの提示

2点目は、アクションリサーチを通して研究者の枠組みが変化したことがあげられる。この研究に着手した当初、この研究のねらいは、評価基準のズレを解消することにあった。しかし、ルーブリックを作成・検討する中で、学生から実習のプロセスを評価してほしいということ、「子どもが可愛い、保育が楽しい」と感じられる感性や、観察可能な行動として捉えることが難しい「保育者としての素養」に関する部分をどう評価するか、失敗の中で成長する部分をどう評価するかという課題があがった。この研究を通して、保育者や学生に関わりアクションリサーチをすすめていくにつれ、実習の評価ルーブリックは、養成校で成績評価するための（採点）評定ではなく、こうした学習促進や成長の場を承認する機会としての評価（アセスメント）に焦点をおく方が重要であるという考え方に至った。

ルーブリックで「評価」するという場合、保育現場から「うちの園は子どもを何ができる・できないで評価したりはしない。だから、実習生も何ができる・できないで評価することはできない」という反応が少なからずある。この発言の背景には、評価は能力という物差しで序列や優劣をつけるものと捉えられており、一度つけられた評価は、その子にずっと付与されるという固定的な評価観が見受けられる。

一般に評価と言う時、「アセスメント」や「エバリュエーション」という言葉が使われる。アセスメントは事中の査定、エバリュエーションは事後もしくは最終的な評価・意味付けに使用されている。教育評価事典によれば、「アメリカにおいて一般的に、エバリュエーション（evaluation）とアセスメント（assessment）は同義（教育評価の意）で用いられる。しかし、アセスメントが実態把握を意味するのに対し、エバリュエーションは実態把握に基づいて下される価値判断を指す」とある。また、同事典には、「アセスメントを評価に必要なデータを収集する行為」、「エバリュエーションをそれらのデータをもとに下される価値判断」とも記載されており、「エバリュエーション」は「把握された実態を教育目標に照らし合わせて妥当で十分なものかどうかを問い直す行為」という意味合いも強い。したがって、こうしたことを考慮すれば、形成的評価（formative assessment:FA あるいは formative evaluation:FE）と言われるルーブリックには、価値判断を伴わず、実態把握や評価に必要なデータを収集するという意味で、アセスメントという表現の方が適切であると言える。

安藤（2014）が指摘したように、ルーブリックには学習促進機能があることを第2章で示した。ここでは、「形成的アセスメント（formative assessment：FA）」とそこから派生した「学習のためのアセスメント（assessment for learning：AfL）をルーブリックの理論的根拠とし、AfLは「学習者と教師が(a)学習者が今学んでいる場所と(b)次に進む必要のある場所と(c)そこへ行く一番良い方法を決定する際に使う証拠を追求し、解釈する過程である」という定義を採用したのであった。AfLには「能動的な学習者による構成主義的な学びを尊重する学習観」が強く反映しており、この研究を通じてこのことを再認識する結果となった。

以上のことを検討すると、実習生がより良い保育を習得するために、実態把握をおこない、様々な人と対話しながらフィードバックを繰り返すルーブリックには、アセスメントという表現の方が適切であることが分かる。したがって、保育実習におけるルーブリック評価は、前述した AfL の定義に則って言えば、学習者を実習生に、教師を現場実習指導者もしくは実習担当教員へ置き換えて何ら差し支えない。むしろ、総括的評価としての成績評定が主ではなく学習を促進することを第一義とするならば、「実習のためのアセスメント」と呼んだ方がその実態をより明確に表現するものとなるだろう。このように、「評価」という言葉では学習支援のための実態把握というニュアンスを表現することが難しく、フィードバックにより更新していく可変的なものとして捉える評価観への変更が求められる。

従来の評価票は、実習の終了後から数ヶ月して養成校へ返却される。そのため、学生に評価を伝える段階では、学生は「今、それを知ったからと言って、どうすることもできない」、「何が具体的にダメだったのかが読み取れない」、「(ABCD 評価票が) 何のためにあるのかわからない」という状況が生まれる。つまり、評価票が実習の最終成績評定のためだけでなく、学習を促進するためのツールとして機能する必要があると考えられる。

この学習促進機能をルーブリック評価の核として位置付けるならば、(1) 学生が実習の中盤でできていることと足りないことを自覚することで自分の位置を知り、今の課題を明確化する中間評価におけるフィードバックと、(2) 事後学習のリフレクションへの活用によって、これまでの実習評価票とは異なる新たな評価ツールを提示することができるだろう。

これまでの実習評価票は、評価観点に対して ABCD 段階の程度を表す形式であったのに対し、ルーブリックでは観察可能な記述語を選択するという形式となっている。評価観点が評価者（もしくは被評価者）の評価フレームとなれば、評価する時間の短縮にもなり、現場の忙しい保育者にとっても有効である。

ABCD 段階の程度を表す従来の形式では、評価施設と評価者にとって評価に関する「二重のばらつき」が生じることが問題であった。ルーブリック形式を採用することで、この点は解消できたと考えられる。しかし、本章を通じて、新たな課題が浮かび上がってきた。それは、評価指標と対応した授業デザイン（事前・事後学習や中間評価・巡回指導のあり方）である。これに関しては、これまで論じてきたルーブリックの学習促進機能と成長のためのアセスメントが鍵となるだろう。次章では、この評価指標に対応した授業デザインを検討していく。

第4章. 実習用ルーブリックの試用と改善（研究Ⅱ）

1. 研究の背景と研究デザイン

1-1. 研究の背景

第3章においては、大学が保育現場や学生と協働して、保育実習用ルーブリックを開発することができた。研究成果としては、大学、保育現場、学生の三者が議論した内容をルーブリックの評価観点に反映することができ、実際に使用可能なモデルを提示することができた。一般的には、ルーブリックは3回程度、使用しながら改良を加えると良いものができると言われてしている。そこで、本章では、この実習用ルーブリックを実際の保育現場や事後学習の授業などにおいて使用し試してみることで、この実習用ルーブリックの使用感を確かめ、使用可能性を担保した実習プログラムを検討する。

昨今、評価を学習指導と結びつけ授業デザインなどに反映することが求められる中、「指導と評価の一体化」としてルーブリックの結果を学習にフィードバックする有効性が論じられている。保育実習をこれに当てはめて考えた場合、約2週間ある実習期間の中間時期に、ルーブリックを使用して中間評価を行うことは、指導と評価の一体化をはかる上で有効ではないだろうか。例えば、実習生がルーブリックで実習6日目に自己評価し実習園側も5日間の実習評価をルーブリックで行った上で、巡回指導教員が実習園を訪問し、評価のフィードバックがおこなわれたとする。実習生と実習園の実習指導者と巡回指導教員の三者が中間評価ルーブリックを共有し対話することによって、実習生は自分の位置を認識し残りの約1週間で新たな課題に取り組むことができる。現場実習指導者や巡回指導教員は、実習生が何につまづきを感じ、どのような学びが行われているかを把握することができる。つまり、中間評価としての使用は、実習に関わる三者の認識を高め、実習中における学習を促進させるのではないかと考えた。では、具体的には学内外でどのように進め、どのような仕組みが必要となるのであろうか。

そこで、本章では、まず尾崎（2019b）による中間評価研究をもとに、実習中におけるルーブリックを活用した学びを検討することとする。次に、実習の事後にルーブリックを活用して実習体験を省察した場合に、学びがどのように構成されるかに関して考察を進める。ここでは、尾崎（2019a）をもとに、これまでの保育実習での事後省察の授業を想定し、2つのアプローチからリフレクションの構造を検討し、教材化する。1つ目のアプローチはルーブリックの評価項目に沿った自己評価である。ルーブリックの評価基準と項目は学外実習を振り返るにあたって自己評価の一つの指標を提供すると考えられる。したがって、ルーブリックの項目をガイドラインとして、その評価項目に沿った自己評価と体験を取り出すことができる。学生は評価項目と自らの体験を結びつけ、省察を行うことができるのである。2点目のアプローチは、安藤（2014）が述べている「相互評価を介しての自己評価」である。一度自らが省察した実習体験に関して、「コメントする」と「コメントされる」という2つの行為を通してさらに省察を加えることによって、実習体験のメタ省察を行うことができる。これらの検討をもとに、実習中のルーブリック活用と、実習の事後におけるルーブリックを活用した省察の仕組みについて検討する。

1-2. 研究デザイン

(1) 中間評価の研究手続き

実習用ルーブリックを使用して、実習生、実習指導者、教員が中間評価を進めやすい仕組みにするために、実習生と現場保育者の使用感、そして使用する上での手続きや仕組みづくりについて、実習巡回指導時と実習後に、保育実習指導者や実習生に半構造的インタビューを実施し、使用事例の検討をおこなう。実施時期は、表4のように、春期（2～3月）、夏期（7～8月）の2期で、第3章でルーブリック開発に携わった研究協力園（3～6園程度）を中心に現場と連携し、試行を依頼した。研究協力園や実習生には、研究概要及びその成果の公開に関して文書及び口頭で事前に説明し、同意を得た上でおこなった。なお、負担を感じる場合には辞退できるとしていたため、2名の学生が実施を辞退した。

(2) 事後学習の研究手続き

下記のようなプロセスを経て、ルーブリックを活用した事後学習を考察し、改善点を整理する。すなわち、(A)授業のニーズを抽出する（授業構成における仮説）、(B)それをもとに授業を構造化し教材を作成する、(C)作成した教材をもとに授業を実践する、(D)どういう学び（アウトプット）が出てきたかを確認して授業を検討する、である。

授業は次のように進めた。第1回目の授業では、予め事後学習シート①を配布し、2回目の授業までにシートの左半分（STEP1）のエピソードを記入するように課題を提示した。なお、記入・持参してい

ない学生は事前に説明しているので授業に参加できないことになっている。2回目の授業では、事後学習シートの右半分（STEP 2）を授業内で実施し、同様に事後学習シート②の左半分（STEP 1）のエピソードを次回までに記入するように課題を提示した。この作業を3回繰り返した後、5回目には実習先からの評価票の開示を行い、これまでの省察を総合的にまとめたシートを完成させ、学習シート集として綴り、最終提出するようにした。

表 4. 実習における事中・事後学習の研究デザイン

	研究段階	主な内容
中間評価研究	保育実習Ⅰ中間評価（2018年2～3月） 保育実習Ⅱ中間評価（2018年7～8月） 〔Ⅰは3園5名、Ⅱは7園9名の実施〕	研究協力園にて、保育実習用ルーブリックを中間評価に使用し、インタビューによる使用事例の研究をおこなう。
事後学習研究	〔科目〕保育実習Ⅰ（2018年前期開講） 〔対象〕短期大学部保育科109名 第1回（4/12）ガイダンス 第2回（4/19）実習体験を振り返る(1) シート① 第3回（4/26）実習体験を振り返る(2) シート② 第4回（5/10）実習体験を振り返る(3) シート③ 第5回（5/17）評価開示とまとめ	ルーブリックを活用した教材シートを考案して、学びがどのように構成され促進されているかに関する授業改善のための視点を抽出し、事後学習モデルを作成する。

2. 中間評価の試用における結果と考察

2-1. ルーブリック使用に関する検討

実習生はルーブリックを中間評価でどのように使用するのだろうか。次に示すのは、中間評価の段階で、遊びの理解の項目「子どもと一緒に遊ぶことで、子どもが感じる遊びの魅力を理解することができる」に丸をつけた実習生Aさんの使用事例である。

けん玉ができないAさんは、けん玉ができない子と一緒にけん玉をし、励まし合いながら二人でできるようになったエピソードをあげている。その時、Aさんは「友達っていいな」、「一緒にやっているから、できたんだな」と感じ、その経験を通した視点で子どもたちの関係を改めて見るようになることができたと述べている。実習終了後のインタビューでは、自分が実習中にルーブリックを使用し、変化していく実感を次のように振り返っている。

（それまでは）自分が遊ぶことは好きだが、子どもが遊んでいるところを見ているのはそんなに魅力に感じなかった。自分が遊びたいと思ってしまっていた。（しかし、けん玉の経験の後）子どもを見て、見ただけで「ああ、いいな」とか「今、楽しく遊んでいるな」、「あれはこういうところが楽しいんだよね」とかそういうふうに思えるようになったので、成長したかなと感じています。

*カッコ内は筆者補足（中間評価のインタビューより）

そして、Aさんはルーブリックが日々の実習目標を探索する機能を持つことを、次のように語っている。

実習で自分が子どもとそんなに一緒に遊んでいいのかなってという思いがあって、最初の1週間くらいは立ち位置にずっと悩んでいたんだけど、ここ（ルーブリック）にあったので、「子どもと一緒に遊んでいいんだ」という思いになった。（中略）何を目標してがんばったらいいのかが具体的に書かれているので、もしかしたら3回目とかの実習だったら、もっと上を目指さないといけないのかもしれないけど、1回目の実習で何をしたいのかわからない自分には助けになりました。目標にも、これを見て入れた項目も何個かあります。目標を立てるときにも役に立ちました。

*カッコ内は筆者補足（実習終了後のインタビューより）

このインタビューで、実習生Aさんは事前に課題を持って実習にのぞんでいても、いざ現場に入ってみると「何を目標してがんばったらいいのかわからない」という不明確な状況に身を置くことになると語っている。特に初回の実習では、ルーブリックは具体的な行動の指針となり、ナビゲーションとして機能すると考えられる。

実習生Bさんは「毎日、実習目標を立てるのは大変でしょう？」という質問に対して、自分の実習状況をモニターし、次の活動に結びつけるルーブリックの機能を語っている。

毎日の目標が浮かばない時、いつもこれ（ルーブリック）見てます。これ見て、目標を作ってます。すごく役に立ちます。自分が達成できない欄を目標にしています。細かい方がいいです。前のより全然いいです。特に私は、この「子どもと一緒に遊ぶことで、子どもが感じる遊びの魅力」というところで、けっこう最初の方は、どうやって子どもの遊びを展開させようかって、そういうことばかり考えてて、思いっきり子どもと遊ぶってことはしていなかったなと反省して、一緒に遊ぶようにしました。（中略）日々の目標を書くところに役立っています。実習目標は「子どもと一緒に遊ぶことから遊びの魅力を感じる」として、久しぶりに泥とかも触って。泥って冷たいんだという、そういう当たり前の発見もできたし。目標から気づきがいっぱいあった。（中略）ただ、これ（ルーブリック）を読まなかったら、泥は触ってないですよ、わたし。やっぱり、普段の生活じゃ、泥かあ触りたくないなあと思っちゃうけど。これ見て、メロイイやという感じで。泥触って、つめた～って感じでした。

*カッコ内は筆者補足（中間評価のインタビューより）

上記の使用事例からは、実習で実習生が最も苦勞することの一つである「日々の実習目標」の探索にルーブリックを使用するという使用方法を見出すことができた。

2-2. 中間評価における三者モデルの検討

研究当初は、図4-1のように中間評価における三者モデルを仮説として想定し、試行した。実習生・保育実習指導者・巡回指導教員が対話する三者モデルでは、実習生と保育実習指導者がルーブリックによる評価を事前におこなない、実習巡回指導（中間評価）の時に、互いの評価とその根拠を語り、すり合わせの作業をおこなう。その対話によって、互いの評価のズレが少し解消し、実習生はこれまで何ができていて、これから何に取り組むのかを認識することができる。保育実習指導者は、実習生の語りによって、実習状況を認識し、具体的な助言をおこなうことができる。巡回指導教員は、その対話の場に居合わせることで、実習の状況を深く捉えることができる。このような理想的な中間評価の仕組みを想定していた。しかし、使用する上で次のような課題もあった。例えば、手続きについてきちんと伝わっておらず、中間評価までに評価をつけていない園が1件あった。また、今回はルーブリック開発に携わった保育園を中心に依頼したが、ルーブリックをまだ理解してない保育園への説明・理解をおこなう必要があることが分かった。巡回指導教員にもルーブリックを活用した巡回指導の意義や手順を周知理解してもらうことも必要となった。したがって、①実習園の保育実習指導者や巡回指導教員の理解・協力、②三者が共有できる場面の提示が必要であり、現場と連携し各々に理解を得るためには、それが前提条件となる。

そこで、このような課題をクリアするために、図4-2のような二者モデルを考えた。すなわち、従来の巡回訪問指導は実習生と巡回指導教員の二者をベースで行われることから、従来と同様の進め方でルーブリックを活用した中間評価をおこなうことが現実的には自然な流れではないか。そして、巡回指導教員は仲介者として、保育実習指導者に中間評価の結果を伝え、そこでのコメントを実習生にフィードバックするというものである。一方で、実習生へのインタビューでは、「保育者との評価のズレを共有したい」、「教員には証人として、その場にいてほしい」という理由で、実習生全員が三者モデルを支持している。

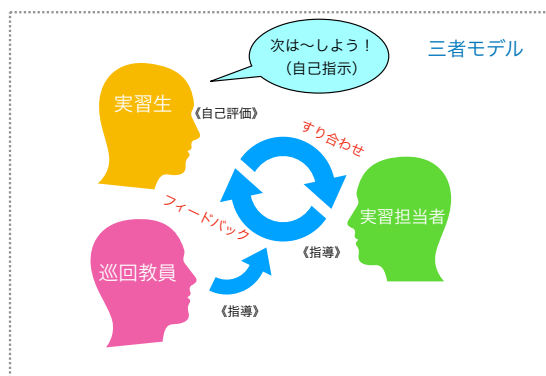


図4-1. 三者モデル

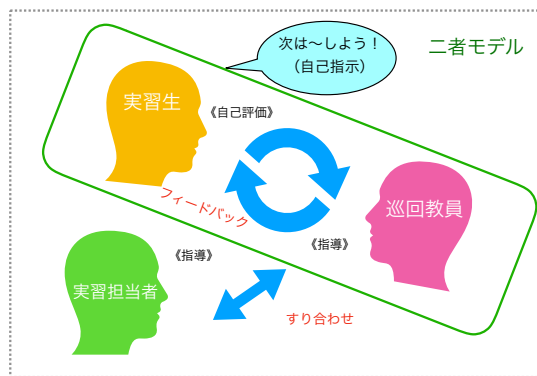


図4-2. 二者モデル

2-3. 複数の評価者への対応

保育現場では、保育実習指導担当者（主任の場合が多い）、クラス担任（保育者）、園長など複数の評価者が関わっている。また、養成校側の評価者も、実習巡回指導教員、実習担当教員（さらに科目成績採点者）と複数の評価者が携わっている。そこで、このような場合、ある程度、標準化された評価基準とそれを共有できる場面の提示が必要となるので、三者のイメージを共有するために、抽出したエピソードを掲載した手引書を作成した。この内容を予め、学生には授業開始時や実習前に説明し、実習園や教員には共通の内容を事前に伝えることで、理解・協力が促進されると考えた。志濃原ら（2019）も、「保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発」で、学生と教員に共通の記録用紙を、スーパービジョンの3つの機能（管理機能、教育的機能、支持的機能）をもとにカテゴリーに分けた項目の質問紙を手がかりに作成しており、それを巡回訪問指導で用いることを提案している。これは、中間評価のイメージ共有や進め方に関して連携・共有を強化する上で重要な手順であると考えられる。

また、ループリック評価を中間評価で使用した園長からは、これまで複数のクラスで実習したが、担当クラスの各保育者からの評価をどのようにまとめたらいいかとの問い合わせを受けた。この問いは、複数の評価者がいる場合に、どのようにループリックに書き表すかということである。インタビューの時点では、筆者は次のように回答した。すなわち、配属クラスによって色やマークなどで表示することにより、各クラスでの学びの状況や評価の違いなどを履歴として可視化し残すことができる。こうした履歴をマーキングするループリックの使い方により、その実習生が各クラスで経験した学習の軌跡や各々の評価の違いをそのまま可視化することができる。また、それを俯瞰することで、実習生の成長や伸び代を捉えることができるということである。グラフィックな痕跡としての可視化は、形成的評価であるループリックの特徴がツールとしてうまく活かされると考えられる。最終評価（成績評定）にまとめる際には、例えば、伸び代があった場合には、それを評価点に加算するというように、ループリックに記された状況を成績評価に変換する基準を設ける必要がある。

使用した教員からは、ループリックが実習生・保育者・教員三者のコミュニケーション・ツールとなり、標準化された項目に関して対話するため、巡回教員の専門性や興味・関心、力量によって指導内容に大きな違いが生じず指導のブレが少ないことが報告されており、評価者の違いに対応できることが分かった。

2-4. 使用を重ねる中での到達点

開発した実習用ループリックは、2018年度から使用し、実習園・教員・実習生から寄せられる意見にその都度、対応・変更している。2020年時点での大きな変更点は、巡回指導教員と実習生の面談による二者モデルから、保育実習指導者と実習生による二者モデル（図4-3）へ新たに変更し、ループリック課題を含む課題型実習日誌（巻末資料6、7）による自己評価・省察を加えた点である。保育実習指導者と実習生による二者モデルへ変更した経緯は、「巡回訪問指導をしていて、保育現場によって熱心に指導してくれループリックに興味を持つ保育施設もあれば、これ以上実習指導に負担を増やしたくないという保育施設もあり、温度差がある。巡回指導教員と実習生の面談による二者モデルでも、実習生が極度に緊張し不全感を抱える中、滞在時間が限られているので、中間評価よりも実習生のメンタル面でのケアを優先した方がよいのではないか。また、実習での実習生の動きは巡回指導教員には分からないので、やはりそれをよく把握している現場の保育実習指導者と実習生が中間評価をおこなった方がよいのではないか」という実習担当教員からの意見に対応したためである。

また、実習生が自己評価しその根拠となるエピソード記録の内容を、反省会（中間・最終）などの機会を利用して、自ら保育実習指導者に伝え、フィードバックのコメントを得るといったものだったが、保育実習指導者と実習生による二者モデルへ変更した後は、「保育実習課題ワークブック」という実習用ループリックとその根拠となるエピソードを記録するワークブックを持参し、対話をするという形式にしていた。しかし、「実習日誌も書いて、ワークブックも書くことは負担となる。一度日誌に書いたエピソードをワークブックに書き写す作業も負担である」という実習生側からの意見があり、実習日誌にワークブックを統合することを目的に実習日誌を大幅改訂した。その結果、ループリックを活用した課題型実習日誌（巻末資料6、7）を考案することができた。実習日誌は毎日記録し、その日1日の実習目標に対する振り返りを記して実習指導者に翌朝提出することになっている。実習生から提出された日誌は、実習指導者あるいは主任・園長が読み、短いコメントを付け、署名・捺印を行い、実習生に返却される。このような課題型実習日誌による自己評価・振り返りの仕組みが可能となれば、ループリックでの自己評価・省察を含め、エピソードを毎日、保育実習指導者が読んでコメントを付けることができるため、日々、

フィードバックを得ることができる。

これまで見てきたように、研究Ⅱでは、開発したルーブリックを実習の中間評価に活用し、その使用感や運用の検討を試みた。実習用ルーブリックの使用では、①フィードバック、②ナビゲーション、③目標探索という3つの学習促進機能（図4-4参照）が確認された。研究Ⅱの大きな収穫は、実習生が最も苦勞することの一つである「日々の実習目標」の探索に、実習用ルーブリックを使用する実習生の姿が確認できたことである。この目標探索に関する知見は、ルーブリックを実習の中間評価に適用する中で得ることができたものであり、実習領域に特に有効な機能ではないかと考えられる。ルーブリックの学習促進機能は、事例で示されたように、実習中の自己評価とその省察への足場かけ（Scaffolding）を提供する。そして、課題型実習日誌による省察と保育実習指導者との対話を通じて、保育実習の省察を深めていく構造が確認できた。次節では、実習中の省察が事後学習にどのように連結されるのかを見ていく。

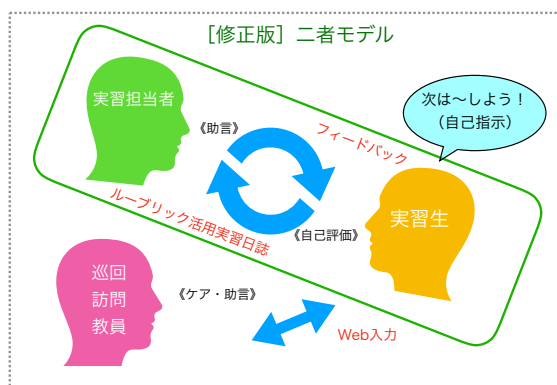


図4-3. 修正・二者モデル



図4-4. 実習領域でのルーブリックの機能

3. 事後学習の試用における結果と考察

3-1. 省察ツールとしての事後学習シート

尾崎（2019a）では、省察ツールとしてルーブリックを活用した事後学習シート（巻末資料8）を考察し、実際の授業で学生の学びがどのように構成され促進されるのかに関して考察している。授業改善のための視点を探った結果、ルーブリックを事後学習に活用することで、次のようなことが確認された。すなわち、（1）開発された教材シートは、省察ツールとして機能していた、（2）ルーブリックの活用により学外実習での評価と事後学習を連動させ、評価指標に基づいた具体的な体験を省察することができ、課題の明確化が可能となった、（3）この教材シートによる授業が、評価できないものを承認する場となった、という3点である。

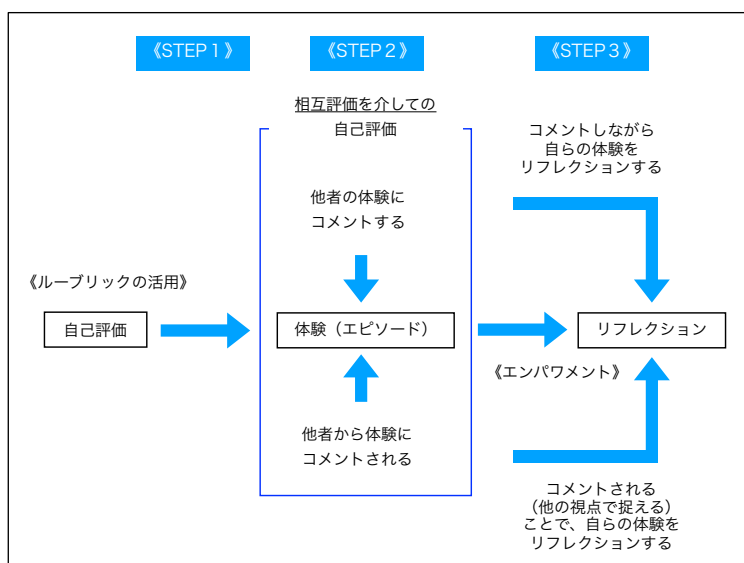


図4-5. 事後学習における省察の構造

ルーブリックを活用した事後学習シートは、図4-5に示すように、自己評価を他者からのフィードバックによってさらに深め、自分だけでは省察が難しい別の視点を獲得することに役立つと考えることができる。他者の評価を介しての自己評価は、①他者への体験にコメントする、②他者から体験にコメントされるといふ行為によって、自己評価による省察を対象としたメタ省察を行うという構造になっている。

また、実習中に活用したルーブリックをさらに事後学習に引き継ぎ活用することで、学外実習での評価と事後学習が連動し、評価指標に基づいた具体的な体験を継続して省察することができる。つまり、このルーブリックを活用した事後学習シートは、学外実習での評価と事後学習を連動させ、評価指標に基づいた具体的な体験を省察するツールなのである。

3-2. 承認欲求を満たす学習環境

ここでは、3点目にあげられた事後学習シートによる授業が承認欲求を満たす場となったことについて、学習促進の観点から考察を加えたい。

第3章のルーブリック開発の過程において、ワーキンググループの発言から、実習生はたとえ結果や行動に結び付かなくとも実習中に試行錯誤し頑張ったプロセスを評価してほしいと考えており、そのプロセスを誰かに受け止められるような仕組みが必要であることが分かった(尾崎, 2018b)。また、ルーブリックを作成・検討する中で「子どもが可愛い、保育が楽しい」と感じられる感性や、観察可能な行動として捉えることが難しい「保育者としての素養」に関する部分をどう評価するか、失敗の中で成長する部分をどう評価するかという課題があがった。これに対して、この研究の一環で実施されたシンポジウムでのパネル・ディスカッションでは、基調講演の講演者である佐藤浩章氏(大阪大学)から次のような趣旨のコメントがなされた。すなわち、「学生の感動や情意領域をどう評価するかは、かなり難しい問題である。保育だけでなく、看護・福祉などの援助職の評価にも、この情意領域の評価が伴う。『いちばん大切なことは評価してはならない』と板倉聖宣氏が言っているが、評価しない・できないということも必要である。これは、ある意味でルーブリックの限界であり、その他の仕組みを活用して、その部分を認める場、懇談の場を設けるなどして共有することで、承認欲求を満たしていくこともできる」と。このことは、評価できない情意領域に関しても承認欲求を満たし、それが保育者養成において最も重要な要素であることを確認し合える場が必要であるということである。

尾崎(2019a)では、他者を介しての自己評価による省察をおこなった授業は、承認欲求を満たす場となることを2人の実習生の事例から確認した。このことは、さらに翌年の同内容の授業で116名を対象にしたテキストマイニングによる分析(尾崎, 2020b)によって、承認欲求を満たす場が意欲を生み出すことが確認できた。尾崎(2020b)によると、テキストマイニングによる抽出語《自信》には、コメントされる体験によって、「自信につながった」、「自信が持てた」、「嬉しい」、「自分の気づき等を褒めてくれた」、「エピソードに感想・共感・アドバイスされた」という記述が多く見られた。また、「自分の学びが人から見ても次回の実習に活かすことができる」や「自分の持っていた視点は間違いではなかったんだ」など、自分の省察が他者に役立つことや承認されることをあげており、このような賞賛・承認の場は、これまでの事後学習の授業では、設定することが困難であった。また、抽出語《嬉しい: 共感: 意見》では、ほとんどの記述が承認されることで嬉しさを感じ、意欲が湧いてくることが示されている。例えば、次の記述も、実習中に心がけていたことを読み取られ共感的にコメントされたことが、次の実習への意欲につながっている(尾崎, 2020b)。

異年齢保育を経験した仲間が多く、「私も同じようなことがあった」と共感してくれるコメントがあり、嬉しく感じました。子どもへの関心のエピソードでは、実習中に心掛けていた、一人ひとりの子どもの様子を深く観察することの成果が伝わっていることがわかり、自信にも繋がりました。また、いろんな気づきができていることや、深い考察であることを褒めてもらうことができ、次の実習でも「頑張ろう」という気持ちがより強まりました。(後略)

次の記述では、「認めてもらえる」から、「嬉しい」、そして「やる気」という流れを読み取ることができる(尾崎, 2020b)。

自分の書いたエピソードに共感してくれながら他の園での取り組みについて教えてもらったり、他の声掛けの方法についてアドバイスを貰ったりと大変勉強になりました。また自分の頑張りを人に認めて

貰えると嬉しくなりますし、次の実習へのやる気も湧いてきました。同じエピソードを他の人と共有出来る機会は貴重な為、そこから得られる客観的な意見を大切にしたいと思いました。自分の価値観のみで固まった保育にならないように、このような意見交換の場は大切だと思いました。

抽出語《反省》でも、肯定的なコメントや指摘が、省察を促進させていることが分かる。次の記述は、受容的・共感的なコメントをされることで、反省の先に進めることを示している（尾崎、2020b）。

失敗したなと思っていたことも、仲間からの「大丈夫」「私もそうだった」という話が知れたことで、反省だけで終わっていた感情が、「次がんばろう」という前向きな気持ちになりました。自分が「だめだ」と思っていたも、仲間は自分のことを肯定してコメントをしてくれたので、心が救われました。

以上のようにコメントされる体験の分析から、受容的・共感的・肯定的なコメントや指摘は、承認欲求を満たし、省察を促進させていることが明らかになった。そして、そのプロセスは「認めてもらえる」から、「嬉しい」、そして「やる気」が出るという流れとなっており、承認欲求を満たす学習環境が意欲を生み出すことが確認できた。特に、具体的な場面での頑張り、自分の思考プロセス、自分と似たような体験・エピソードなどに対する受容的・共感的・肯定的なコメントは、評価指標に基づいた具体的な体験を省察するリフレクションツールだからこそ、可能であると考えられる。

第5章. 実習のためのアセスメント・システムの構築（研究Ⅲ）

1. 開発の背景と研究デザイン

1-1. 開発の背景

第1章で指摘した（1）実習評価における標準化の必要性和（2）フィードバックの仕組みづくりという2つの問題に対して、第3章では実習用ルーブリックを開発することを通じて、この問題解決にアプローチした。また、第4章では、中間評価の研究において実習用ルーブリックの学習促進機能を明らかにし、実習用ルーブリックを活用した中間評価と巡回訪問指導のあり方を提案した。ここでは、ルーブリックを活用した課題型実習日誌の提案を通じて、ルーブリックでの自己評価とエピソード記録、1日の振り返りなどの記述を保育実習指導者が読みコメントする仕組みや、反省会（中間・最終）の機会に中間評価・最終評価を行う仕組みにより、ルーブリックの自己評価に対して、日々のフィードバックを得ることが可能となった。

しかし、実習現場と養成校との連携・協働が求められる中、巡回訪問指導による実習生へのケアとその経過把握やそれに対する指導体制の整備には、2つのタイムラグが障壁となっていた。1つは、実習中や実習直後に学生が自己評価したルーブリックも、それをういた事後学習の授業までに約2ヶ月程度の時間が経過してしまうことである。つまり、事後学習の授業までは、保育実習担当教員には実習でどのような学びが起こっているのかを把握できず、フィードバックもできないのである。さらに、実習日誌に手書きで記入されたエピソードは、事後学習の時に再度、事後学習シートに手書きで記述する必要があり、このシートを書く学生もこれを読み指導する保育実習担当教員も負担を強いられることになる。もう1つは、実習生の状況把握とそれに対する指導・助言内容を記した訪問指導記録（巡回報告書）が、保育実習担当教員に提出されるまでに時間を要するため、保育実習担当教員は実習生に対し即応した指導ができないことである。では、この遠隔地での実習の学びを把握し、フィードバックや実習指導に効率的・効果的に結びつけるためには何が必要なのか。実習用ルーブリックでの評価を事後の指導と連動させて活用するという「指導と評価の一体化」を達成するには、これらの問題解決が最重要課題であった。

そこで、研究Ⅲでは、実習用ルーブリックと実習巡回報告書を即時的に活用するという課題を解決するために、ICT (information and communication technologies) を導入することにした。そして、ICTの導入によって、実習情報をデータ化し管理・共有する仕組みを作ることによって「指導と評価の一体化」を促進することにアプローチし、これまで検討してきた実習用ルーブリックとその運用をシステムとして構築することを提案したい。また、実習情報をデータ化し取り扱うことによって、これまで把握できなかった実習の学びを可視化し、このシステムが機能することを点検する。本章では、学びを可視化することで、どのような省察支援が可能かということも検討していく。

1-2. 研究デザイン

ICT化の手続きは次のようにおこなった。

①ルーブリック評価のWeb データ入力化

実習用ルーブリックは、「保育実習Ⅰ（約2週間の学外授業）」の改善を図るツールとして活用するだけでなく、事後学習の授業「保育実習指導Ⅰ」でも利用してきた（尾崎 2019a）。しかし、実習中や実習直後に学生が自己評価したルーブリックは紙媒体に手書きで記入し、学外でもあるため、実習担当教員が学びを把握し、それに対してフィードバックすることができず、即時的な対応が困難であった。そこで、2019年度からは、実習用ルーブリックの観点に沿って自己評価をおこない、その根拠となるエピソードを記述した後、そのエピソードをWebによってデータ入力することとした。

②実習巡回報告書のWeb データ入力化

これまで、実習先への巡回訪問時に教員は学生の状況と指導を実習巡回報告書へ記録していたが、実習担当教員に手渡しで提出されるまでは即応した指導ができなかった。そこで、2019年度からは、紙媒体の実習巡回報告書に記される実習情報を、実習巡回教員が訪問直後にWeb入力することとした。

③実習アセスメントデータを教員組織内で活用する仕組みづくり

学生と教員がWeb入力したデータをもとに、実習の学びを深めアセスメントとフィードバックに取り組むことができる仕組みを「実習のためのアセスメント・システム」（図5）としてまとめた。

このモデルにより、保育実習（学外授業）時のケアと学習支援の双方から学生を支援することができ、

実習指導だけでなく教育・研究への活用も可能となった（尾崎 2020a）。また、これまで実習情報は実習担当教員だけが把握し対応していたが、このシステムによって実習情報を学科組織内で全教員が共有できるようにした。なお、Web 入力は 2019 年度まで Google Form（アンケート機能）を使用していたが、2020 年度からは LMS（Learning Management System）とポートフォリオ機能を持つ manaba（株式会社朝日ネット）に変更し、アンケート機能を使用して実習用ルーブリックのデータに実習担当教員からコメントをすることができ、プロジェクト機能（グループ単位の掲示板）を使用して相互評価を介した自己評価と省察の授業をオンラインでおこなえるようにした。

④学びの可視化による教育活動へのフィードバック

実習における教育活動の実態をアセスメント・データとして適切に収集・蓄積しながら、研究への活用としてデータ分析をおこない《学びを可視化》することによって、教育活動にフィードバックする仕組みを整備することができた。

以上の ICT 化の手続きによって、実習中の情報と事後学習を連動させることができるため、学生が主体的に課題を明確化しながら学びの質を深め、「指導と評価の一体化」をさらに促進することが可能となった。

2. ICT を活用したアセスメント・システム

尾崎（2020a）は、図 5 に示す「実習のためのアセスメント・システム」(The assessment system for the internship) をモデルとして開発した。このシステムは、実習の複雑なプロセスをルーブリックの評価指標に沿ったエピソードの集合体として見なし、実習における教育活動の実態をアセスメント・データに変換して取り扱い、遠隔地からデータを収集・蓄積・分析・活用する「実習情報の多目的な一括管理システム」である。

実習生が実習中や実習直後に自己評価したルーブリックは、これまで紙媒体のシートに記入されていた。そのため、実習担当教員は学外での学びを把握できず、即時的な対応が困難であった。このシステムでは、実習生は、実習用ルーブリックの観点に沿って自己評価をおこない、その根拠となるエピソードを記述した後、そのエピソードを Web によってデータ入力をする。このシステムにより、実習担当教員は LMS を通じて入力データを閲覧でき、フィードバックが可能となった。実習生は、自己評価とエピソードを保育実習担当者の評価とすり合わせ、対話によるフィードバックを受ける。実習生は、このフィードバックにより課題を明確化することができ、残りの実習期間を新たな課題を持って取り組むことができる。また、実習の中間時期には、実習巡回教員が実習先を訪問し、実習生や保育実習指導者と面談し、実習を把握することになっている。これまで、実習巡回教員は、紙媒体の実習巡回報告書に学生の状況と指導内容を記述していた。このシステムでは、実習巡回教員は訪問直後に Web によってデータ入力することとなり、実習担当教員は実習生の状況と指導を記した内容を把握し、実習生の支援が可能となった。実習巡回報告書への Web による入力に関しては、「教職員の事務的な負担を軽減できる」、「毎日チェックできるので、問題へ対処しやすい」、「エクセル形式で書き出しが可能なので、教員組織内での情報共有ができ、実習担当教員やクラス担任、各教科目の授業担当などが学生の状況を把握するのに役立つ」などの利点を確認されている。このように、このシステムでは、保育実習（学外授業）時の学習支援とケアの双方から実習生を支援することができ、実習情報を収集・蓄積することができる。これまで実習情報は実習担当教員だけが把握し対応してきたが、このシステムによって収集・蓄積された実習情報を教員組織内で全教員が共有できるようになった。

また、事後学習では実習中のデータを引き継いで LMS を活用し、ルーブリックの評価観点に沿って抽出された他者のエピソードにコメントする学習活動を行なっている。他者にコメントした体験や他者からコメントされた体験を省察し共有することによって、他者評価を介した自己評価を行うことができる。

さらに、バックワード・デザインと言われるように、実習の前にこれから行う実習のルーブリックと、蓄積されたエピソード・データを事例教材として提示することによって、指導が難しい実際の行為に関して学生が実習場面をイメージしやすくし、Van Manen (1995) のいう「先を見越しての省察 (anticipatory reflection)」を促進してから、それに向かう学習の構え (レディネス) を作ることができる。

このように、このシステムによって収集・蓄積された実習情報は、実習指導は当然のこととして、教科教育、研究などに活用することができる。ICT 活用によって実習中のアセスメント情報と実習指導を連動

させることができるため、学生が主体的に課題を明確化しながら学びの質を深め、「指導と評価の一体化」をより促進することが可能となったのである。

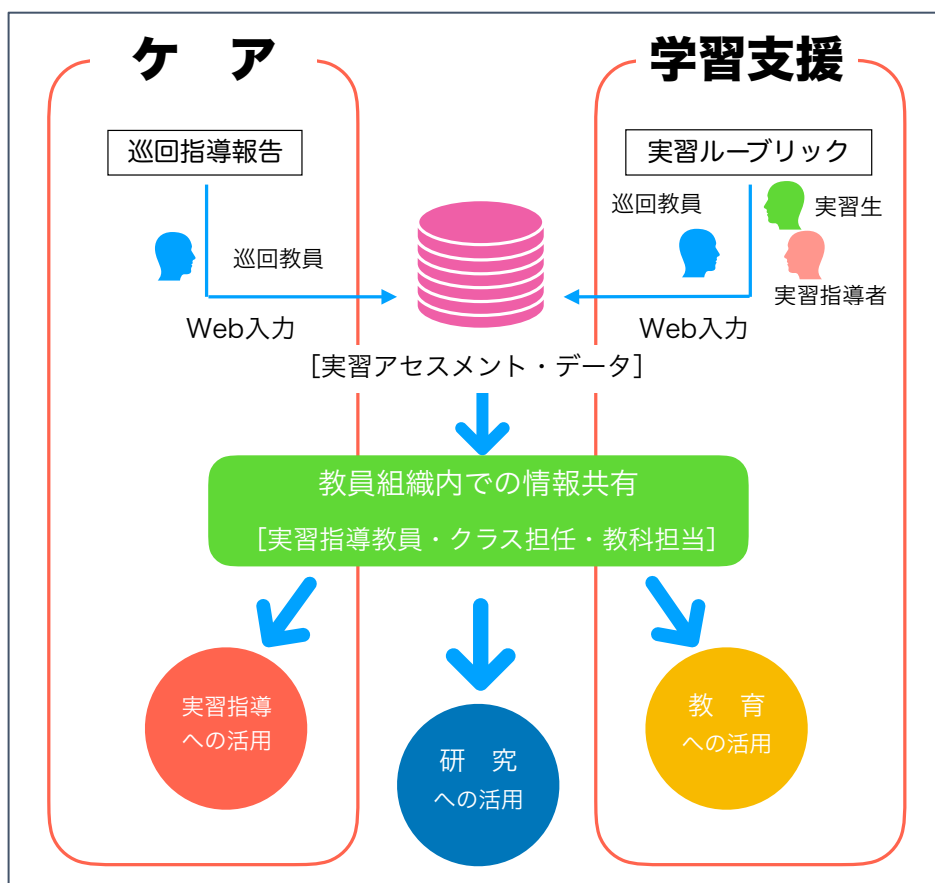


図5. 実習のためのアセスメント・システム

3. 学びの可視化による実習経験の考察

3-1. 実習経験を通じた学びの可視化

尾崎 (2019c) は、2019 年度前期の授業「保育実習指導 I」を履修した東京家政大学短期大学部保育科 1 年次 116 名を対象に、Web 入力したテキストデータをテキストマイニングによって分析した。この授業では、まず実習用ルーブリック (保育実習 I) の 9 つの評価項目を 3 つに分けて、3 回の事後学習シートとし、《STEP1》自己評価とその根拠となるエピソード、《STEP2》エピソードに対するコメント、《STEP3》コメントを通しての感想と考察 ① 仲間の事例を読み、コメントしてみ、② 仲間からのコメントを読んで、という 3 つの STEP を課題として行なった。授業の進め方は、第 4 章の事後学習と同様である。尾崎 (2019c) では、《STEP1》自己評価とその根拠となるエピソードを分析対象としている。

分析の結果、実習場面でどのような学びが生じたかが明らかになった。尾崎 (2019c) は、A. 発達の理解、B. 援助の理解、C. 子育て支援の理解、D. 子どもへの関心、E. 子どもの世界の尊重、F. 生活の連続性、G. 遊びの理解、H. 関わる準備と実践、I. 関わる魅力の発見という 9 項目の観点毎に学びの特徴を明らかにしている。

尾崎 (2019c) を元に、テキストマイニングで抽出したキーワード (資料 9～11) を整理したものが表 5-1 である。これまでの実習事後の振り返りでは、実習で最も印象の強い場面や各自の実習目標に対して振り返る課題を設定していたが、実習用ルーブリックの活用によって統一化された観点に沿って全員が観点別の振り返りを体系的に実施することができた。評価観点に沿って紐付けされたエピソード・データの分析からは、実習において、どのような体験や場面に着目する必要があるのか、どこに困難を感じ何が課題となるのかを把握することができた。

表5-1. テキストマイニングによるキーワードの整理（尾崎 2019c を元に作成）

ルーブリックの評価観点	テキストマイニング による考察のキーワード
A. 発達の理解	発達・年齢の違いと「できること」、注目している場面（ルールのある遊び、友達とのかかわり、遊び方、子どもの言葉、貸し借り・モノの取り合い、食の場面、はさみで切ること・指先）
B. 援助の理解	一人ひとりに合わせた声かけや伝え方、保育者が大切にしている意図の読み取り、子どもの主体性へ援助
C. 子育て支援の理解	ツールとしての連絡帳やホワイトボード、日々のコミュニケーションや信頼関係の構築を「改めて」学ぶこと
D. 子どもへの関心	「時間」経過とともに観察（「見る」）、子どもから話しかけられることと子どもへの関心の関係性
E. 子どもの世界の尊重	子どもの世界に入り込むプロセス、「最初」・「見守る」・「見立て」・「展開」という言葉
F. 生活の連続性	子どもが〇〇の時間という意識を持つこと、出来事と遊びの関係性
G. 遊びの理解	一緒に参加し楽しいと感じるなかでの遊びの魅力や楽しさ、一緒に遊ぶ時の「本気」
H. 関わる準備と実践	「年齢」や「子どもの様子」を「見て」「選ぶ」ことが準備、「難しい」のクリア、関係づくりのアイテム
I. 関わる魅力の発見	子どもと「気持ち」が通じ合えた経験、「目」と「気持ち」の受け止めの関連性

例えば、表5-1を見てみると、実習生が発達を理解するのは、発達・年齢の違いや子どもが「できること」に関して考察することや、評価観点Aに記載された場面で学びが生じることが分かる。また、評価観点F.生活の連続性では、子どもの時間意識に着目する、出来事と遊びの関係性を考察するなどが実習の学びとして明らかになった。さらに、評価観点E.子どもの世界の尊重では、子どもの世界へ入り込むにはプロセスがあることや、一緒に遊ぶ時には「本気」になることに着目している点などは、実習現場でしか感じ得ない気づきであるとともに、こうしたコツをつかむことのできる学びの機会が実習中にあることを事前に実習生に伝えるという指導に活用することができる。

尾崎（2019c）には、臨床的に非常に興味深いデータ結果が示されている。例えば、評価観点D.子どもへの関心では、「上位にあがっている『言う』は、文書を見てみると子どもが実習生に話しかけてくるという意味で使用されることが多く、このことから子どもが関わりを持ちたいということと子どもへの関心は、関連があるのではないかと推測される」と考察している。また、評価観点I.関わる魅力の発見では、「声かけや工夫を『少し』することにより、子どもと『気持ち』が通じ合えた経験ができ、『嬉しい』という語があげられている。『目』という語は、『子どもと目が合うこと』と『子どもの目がキラキラしている』という2つを指しているが、いずれも、子どもの『気持ち』の受け止めと関連しており、それが『嬉しさ』につながっていると推測できる」と考察している。これらのテーマをさらに掘り下げていくと、実習中の子どもとの関係構築の始まりや、関係性のなかでの視線が持つ意味などが深められ、人間的成長を促す学びの機会をつくることもできる。

尾崎（2019c）では、このエピソードの分析に外部変数として3段階の自己評価を加えて分析している。尾崎（2019c）を元に、自己評価の高低（資料12～14）がどこから生じるかを分析すると、①意識できた・すぐに実践したなどの行動につながる（評価観点B）、②意義や必要性を考察すること（評価観点C）、③プロセスに焦点を当て意味づけを考察する（評価観点D,E）、④知識や出来事をつなげて考える（評価観点F）などの行為が、評価スコアの違いの要因であると考えられる。

この分析結果から、これまでの事前学習の内容を点検し次の授業改善を行うことや、実習指導の枠組みそのものを検討することで実習指導のあり方を再考することができる。また、Web入力された実習情報は、データ分析することで学びを可視化することができ、実習指導や事前・事後学習に活用できることが示された。

3-2. メタ省察過程の分析

尾崎（2020b）は、尾崎（2019c）の続編であり、「《STEP2》エピソードに対するコメント」、「《STEP3》コメントを通しての感想と考察 ①仲間の事例を読み、コメントしてみて、②仲間からのコメントを読んで」という2つの課題を実習生がWeb入力したテキストデータをテキストマイニングによって分析した。事後学習の授業では、STEP1でエピソードが記載された事後学習シートを匿名のまま教室内でランダ

ムに配付しコメントをつける作業を3回おこない（STEP2）、その後、事後学習シートを本人へ戻し、他者にコメントする・される体験（STEP2）を通して、さらに気づいたことをSTEP3では記述している。尾崎（2020b）では事後学習シートのSTEP3に着目し、前節同様にテキストマイニングを使って、他者評価を介しての自己評価が、どのような学びとなっているのかを検討している（資料15～17）。

シート毎にコメントする体験とコメントされる体験から、どのような学びが生起するのかを考察した結果、尾崎（2020b）は、表5-2に示すように、コメントする・される体験による学びの特性について分析している。

表5-2. コメントする・される体験によって得られるもの

コメントする体験によって得られるもの	コメントされる体験によって得られるもの
読み取る力が働く	多様な視点へ意識が働く
つなげて考える力が働く	省察の手がかりが得られる
経験を再認識する	経験を再認識する
刺激を受ける・触発される	承認と自信が生まれる
安心感が生まれる	自己指示が生まれる
自己指示が生まれる	

(1) コメントする体験

コメントする体験では、「読み取る力が働く」、「つなげて考える力が働く」、「経験を再認識する」、「刺激を受ける・触発される」、「安心感が生まれる」、「自己指示が生まれる」が得られたとしている（尾崎、2020b）。コメントする体験は、エピソードを読むという体験でもあるため、「読み取る力が働く」のは当然であるが、他者のエピソードにコメントするという行為は自分自身の省察を促す行為となっている。

テキストマイニング分析での《自分》という頻出語では、「自分はどうかだったか」や「自分はまだ浅い・甘い」という自己認識に関する記述、「自分では気づかなかった気づき」や「自分の経験していないこと」を見出した記述、「自分だったら、どうするか？」や「自分だったら、こうする」という対処やアイデアを問う記述、「自分だけの悩みではない」という安心感の記述、「自分のことを振り返るきっかけ」になったとする記述、「自分の課題も見えてきた」や「自分も頑張ろう」という課題へ取り組む意欲の記述など、自分の経験と対比しつなげて考える記述が確認された（尾崎、2020b）。

次の事例（尾崎、2020b）は、コメントする行為がリフレクション（反射）となっていることを物語っている。自分と似た体験を持つ他者は映し出された自分であり、コメントする行為によってそれをメタ認知することができている。

似たような体験をしていた友だちが多くいました。そのため「自分だったらこうした」というコメントは、その人へのアドバイスでありながら自分へのアドバイスにもなりました。また自分はしなかったような体験をしていた人にコメントを書くと、未体験の事例についてもよく考えることができ、次の実習や、現場に出た時にも思い返せると思いました。色々なエピソードについて想像して自分だったらどうするか考えることができ勉強になりました。

次の事例（尾崎、2020b）は、他者のエピソードを読んだ後に自問が生まれ、省察につながっている。

（前略）1人の方の事例に、水滴をふいたら子どもが「魔法みたい！」と言っていて素敵だったとありました。それを読んだ時、私は子どもの言葉を聞き取り、素敵だなと思うことがあったらどうか、あまり子どもの言葉を意識して素敵な言葉を聞き取ることができなかったのではないだろうかと思いました。私は子どもの行動から気持ちを読み取ったり寄り添ったりしてしまうことが多いようなので、言葉にも気をつけようと思いました。

エピソードに感情移入し、他者のエピソードを疑似体験的に読み込む事例もある（尾崎、2020b）。

みんなそれぞれ子どもの様子や保育者の援助の仕方を観察し、自分なりに考察していました。たくさんエピソードを見ることが出来て、色々な園で実習している気持ちになりました。このように、エピソード

ドを共有する事によってたくさんの事例に出会うことが出来るので、とても良い機会だと思いました。

次の事例は、他者のエピソードを読んだ後に自分の経験を照らし合わせ、省察することで概念を理解したケースである（尾崎、2020b）。

前回と比べ、自分の思ったこと、考えたこと、伝えたいことを短く凝縮して書くことができたと思います。個人的に、〈生活の連続性への理解〉エピソードの書き方がよくわからなかったのですが、仲間の事例を読み、「このような感じで書けばよかったのか」とすっきりしました。仲間の事例を読んでから、自分の保育実習のことを改めて思い出してみると、当てはまる事例がありました。4歳児男児が自衛隊ごっこをして遊んでいた時のこと。珍しい遊びだなと思い、日誌に記したところ、担任の保育士から「最近、お家で自衛隊や防災についてのテレビを見て興味を持ったようで、園でも夢中で話している姿が見られます」というコメントを頂きました。今振り返ると、これが〈生活の連続性の理解〉なのかと納得することができました。

これまで見てきた事例はいずれも、他者へのコメントが自分自身の省察支援となっていることを示している。

(2) コメントされる体験

コメントされる体験では、「多様な視点へ意識が働く」、「省察の手がかりが得られる」、「経験を再認識する」、「承認と自信が生まれる」、「自己指示が生まれる」が得られたとしている（尾崎、2020b）。他者からのコメントでは、自分にはない視点や視点の多様性と深さを知ること、多様な視点へ意識が向き、省察の手がかりを得ることができると確認された。

次の記述も、自分が気づけなかった視点によって、自分の枠組みを広げる省察が促進している（尾崎、2020b）。

みんなが同じような体験の中で感じたこと、私が気づくことが出来なかった視点からのコメントをしてもらい、とても勉強になりました。子どもの世界の尊重のエピソードでは、私の気づきの他に子どもがのびのびと遊びにとりかかれるようにするために、保育者の日常の支えが重要なのだと思ったというコメントをみて、私はそこまで気づけなかったのととても勉強になりました。仲間からももらったコメントを参考にして、より学びを深めていき、次の実習に生かしていきたいです。

次の記述も、書き手の視野を「個」の子どもから「子どもたち同士の関わり」へ拡大するコメントがなされている（尾崎、2020b）。

製作の場面について、私はひとりひとりの子どもの姿に目を向け考察していたが、他の子どもとの関わりに目を向けたコメントがあり、ひとりの姿だけでなくその活動から生まれる子どもたちの関わりを捉えるといった視点はとても良いと思った。関わりについても目を向け、お互いにどのように影響し合っているのか考察したいと思った。また子どもの発見を大切に、感動に共感しながら子ども自身がまた新たな発見をし、感動が味わえるような配慮が必要だとわかった。実習では様々な子どもの姿をエピソードとして記録し考察することで、学びを深めていきたいと思った。

学生たちは読み手として、書き手に自分を重ねてエピソードに読み取り、それほど豊富ではない自身の経験から懸命にコメントしようとする。似たような経験をした仲間からのコメントだからこそ、感じたことの細部をさらに焦点化して探求することにつながるのであろう。次の記述には、探求を誘うコメントがコーチングによる言葉のように作用しており、省察支援がなされている（尾崎、2020b）。

砂型を砂で隠して見えないようにして探していたというエピソードに対し、その行動のどこに楽しさを感じていたのかを考えると良いのではないかという意見をもらって、もっと子どもの気持ちを考えながら実習していきたいと感じました。感触だけでなく砂型を隠してなくなることや探して見つけた時の嬉しさ、達成感も魅力なのではないかというコメントを見て、確かにそうだなと思いました。どうしてこの遊びをしているのか様々な視点から気づき、理解することで学びが深まると思うというアドバイスを

もらったので様々な視点で見ることを心掛けていきたいと思いました。

これまで見てきた事例から、コメントされる体験は、書き手にはない多様な視点・アイデアや視点の深さが提供されるだけでなく、それが書き手を多様な視点へ向かわせ、書き手自身の枠組みを問い直す省察となっている。

(3) 他者を介した省察支援

ところで、コメントする体験とコメントされる体験で得られるものとして共通していた項目は、「経験を再認識する」と「自己指示が生まれる」であった。自分の実習体験やそこで考察したことの意味を「改めて」「再確認」することや、「次は～しよう」と自分の心の中で自分に対して指示することが、他者からコメントされて生起するのは、容易に理解できる。しかし、コメントする時にもコメントされる時と同様に、経験を再認識し自己指示が生まれるというのは、どのように考えたらよいだろうか。

前節では他者へのコメント体験と他者からのコメント体験について考察してきた。ここであらためて、この双方向のコメント体験を考察すると、これらの体験は「他者を介した省察支援」であることが分かる。「他者を介した省察支援」の一つは、「他者からの省察支援」である。実習生は、自分一人でワークシートや課題に向き合い省察するだけでなく、他者との関わりによって学んでいる。他者から省察支援を受けることは、自分にはない多様な視点・アイデアや視点の深さを得るだけでなく、意識を多様な視点へと向かわせ、書き手自身の枠組みを問い直す省察である。このことが、実習の省察に必要不可欠であることは確認できた。

「他者を介した省察支援」のもう一つの枠組みは、「他者に対する省察支援」である。前節で見たように、読み手はコメントする時、書き手に自分を重ねてエピソードに読み取り、それほど豊富ではない自身の経験から書き手が格闘している課題や伝えたいことに対して懸命にコメントしようとする。時にはその場面に感情移入し、他者のエピソードを疑似体験的に読み込む。それが似たような経験である場合には、感じたことの細部をさらに焦点化して探求するように思考が働く。読み手はしばしば、探求を誘うコーチングでの言葉かけのようにコメントを投げかける。自分と似た体験を持つ他者は「映し出された自分」であり、コメントする行為によってそれをメタ認知することができる。他者のエピソードを読んだ後には自問が生まれ、自分の経験と照らし合わせ、省察することもある。

ここで生じていることは、他者の省察を支援しようとしながら、それがそのまま自己の省察につながっているということである。つまり、「他者の省察を支援することは、自身の省察を支援する」ことなのである。共通項である「経験の再認識」と「自己指示」は、「他者からの省察支援」と「他者に対する省察支援」の同根にあるものであり、「他者を介した省察支援」のステージにおける枠組みであると考えられる。そして、「その人へのアドバイスでありながら自分へのアドバイス」になり、「自分はしなかったような体験をしていた人にコメントを書くと、未体験の事例についてもよく考えることができ、次の実習や、現場に出た時にも思い返せる」と先に見た事例にあるように、他者の省察を支援しようとしてエピソードを読むことは、「次は～したい」という次に活かすための省察を行うことができるのである。したがって、経験に新たな意味づけをし、次の実践に向けて行う省察は常に未来志向であり、実践に対してフィードバックではなくフィードフォワードをもたらすのである。

第6章. 総合考察

1. ルーブリック活用による実習プロセス

1-1. 実習中のルーブリックによる学習促進

第4章では、開発したルーブリックを実習の中間評価に活用し、その使用感や運用の検討を試みた。その使用感に関するインタビューからは、ルーブリックを使用することで実習やその学習が促進されるということが明らかになった。実習用ルーブリックは、①フィードバック、②ナビゲーション、③目標探索という3つの学習促進機能が事例によって確認され、実習中の自己評価とその省察への足場かけ(Scaffolding)を提供することが分かった。実習プロセスの中では、事前に課題を持って実習にのぞんでいても、いざ現場に入ってみると「何を目指してがんばったらいいのか」が分からないという不明確な状況に身を置くこととなるが、ルーブリックは具体的な行動の指針となり、ナビゲーションとして機能することが確認された。このことは、実習生が予め設定した実習目標(PLAN)に沿って実習を行う(DO)というよりは、即興の徒弟制(福島、2001)によって、やるべきルーティーンを確かめながら実習を進めていき、自分が捉えた現状から指標を見出し「日々の実習目標」を設定していると考えられることができる。その際、実習生が最も苦勞することの一つである「日々の実習目標」の探索に、実習用ルーブリックが足場かけ(Scaffolding)の役割となっていた。

第5章において事後学習に関するテキストマイニング研究では、ルーブリックの評価指標に沿ったエピソードの分析から、これまで把握できていなかった実習プロセスの学びを可視化することができた。ルーブリックでの自己評価の高低は、①行動やその意識、②意義や必要性の考察、③プロセスの焦点化、④知識や出来事との関係づけができていかにどうかに関係しており、このことは、第2章で紹介したICEルーブリック(Sue&Robert、2013)にもあるように、関連付けや、実践もしくは実践での意識化(意味付け)が学びの深まりに関係することを示唆している。

以上のことから、実習プロセスとその促進に関して次のように考察することができる。すなわち、実習生は、最初は不明確な状況に身を置き、その中で目標を設定することが求められているが、ルーブリックに示された評価指標を参考にしながら五感を総動員して現状を捉えることができる。実習生が捉えた現状はルーブリックを活用し実習記録に記録して、実習記録に基づいた省察や保育者との対話によって、捉えた現状の理解が促進される。実習生によっては、学びの上での関連付けや、実践もしくは実践での意識化など深い学びができていっている。実習プロセスの中では、経験の省察を行う者もいれば、保育者の行為を通しての観察学習や助言から行動に意識を向け実際に行動してみる(試してみる)者もいる。さらに2回目の実習では、仲間との学習や省察によって得られた複数の関わりのアイデアや視座の変容によって、さらに経験の省察を深め行動を試す者もいる。

このように、保育実習の学びを可視化すると、保育実習の中心となるプロセスは、「実習目標(PLAN)」から始まることはなく、現状を把握する観察学習と把握した保育経験を省察する学習の2つの取り組みを確認することができる。

1-2. OODA ループからみた実習プロセス

現場で何を指すかが不明確な状況から実習がスタートすることは、PDCA サイクルを基盤にした実習プログラムの再考を余儀なくされる。PDCA サイクルは、もともと生産技術における品質管理の手法であるが、今ではマネジメント分野や教育の分野でもよく使われるようになった。しかし、小学校以降で行われる計画的・意図的な教育活動に対して、環境や遊びを通して行われる保育は、個々の子どもへの即応的・応答的な関わりや対応が求められるため、計画(PLAN)から始まるPDCA サイクルは保育現場にそぐわないと考えられる。そして、実習プロセスもまた、前節で見てきたように、PDCA サイクルではない別のモデルが求められる。

そこで、PDCA サイクルではない別のモデルとして、OODA ループという枠組みを検討したい。OODA ループとは、図6-1のような「観察(Observe)、情勢判断(Orient)、意思決定(Decide)、行動(Act)」の学習ループであり、Boydが開発したコンフリクト哲学の基本原則である(Chet Richards、2019)。もともと戦闘哲学として確立されたモデルであるが、現在、ビジネス分野で応用され始めている。Chet Richards(2019)は、OODA ループの「観察・情勢判断・意思決定・行動」について次のように解説している。すなわち、観察(Observe)とは、見る(see)以上のことを意味し吸収する(absorb)に近い意味合いである。情勢判断(Orient)は、「このプロセスのなかでも鍵となる部分」であり、「観察して得た情報を、自らの遺伝的特徴や社会環境、過去の経験にもとづく断片的なアイデア、情報、推測、印象など

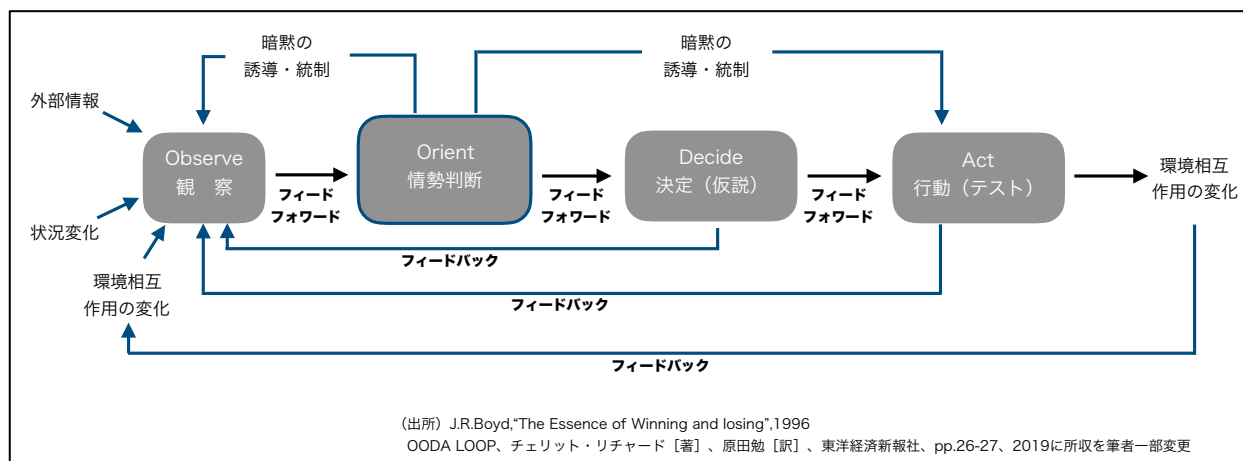


図 6-1. OODA ループの概念図

と組み合わせ、『多面的で暗黙的な相互言及』を作り出す」としている。意思決定 (Decide) は、通常、いくつかの選択肢の中から論理的に決定をおこない、それから行動 (Act) の段階へと移行するが、観察と情勢判断が十分適切な時には、意思決定の段階は省略され、すぐさま行為が実行される。それが図 6-1 にある「暗黙の誘導・統制」に当たり、ここでは実践知が働くと「観察→情勢判断→行動」となると考えられる。また、情勢判断は、観察の精度に関係しており、「暗黙の誘導・統制」によって「観察→情勢判断→観察」で情勢判断の質を高めることが重要となる。

OODA ループは、見る・分かる・決める・動くという人間のごく自然な行為であり、「計画」ではなく「観察」から始まるという点で、これまで見てきた実習プロセスのモデルと重なり合う部分がある。また、「暗黙の誘導・統制」によってプロセスを短縮できるという点で、この短縮化を熟達化と捉えたと、この短縮化に向かって実習の流れを組むことができるのではないかと考えた。こうした理由により、実習プログラムに OODA ループの枠組みを採用することにした。

実習プロセスに引きつけて考えると、実習生は実習中に「観察」と「情勢判断」について経験する。実習生は、保育者や子どもたちと生活を共にする中で、五感を総動員し観察した出来事や間主観的に捉えた状況を記録し、その観察を元に「情勢判断」を学ぶ中で、保育者や自分自身の保育観・子ども観・生活観を省察し、経験の重なり・厚みによってその視座は変容していくものだと考えられる。保育の中では、「観察」は「把握する (観察する)」へ、「情勢判断」は「保育を理解する」へと置き換えてもいいだろう。

実習の事後には、保育者や自分自身に関する「意思決定」(行動の意図) を推測して「行動」への流れを省察し、また「行動」の結果 (環境相互作用の変化) からフィードバックを得て「観察」の質を高めていく。この場合の「意思決定」は、保育の中では「アプローチを決める」へ、「行動」は「実践する」と置き換えてもいいだろう。ここで、実習生は実習中にこのプロセスを短縮化することは難しいが、順を追ってそのプロセスを経験的に学ぶことによって、「把握する (観察する)」と「保育を理解する」の質を高めていくことができるのである。

例えば、第 4 章で示したルーブリックの「遊びの理解」の事例では、けん玉ができない者として子どもと一緒に遊ぶ体験の後、子どもの姿を捉える視点 (意味スキーム) が変化している。熟達化と言わないまでも、「把握する」と「保育を理解する」に関わる子ども観 (意味パースペクティブ) が変容していると考えられる。

したがって、現状を把握する観察学習と把握した保育経験を省察する学習という 2 つの学習を促進し省察を支援することが、実習プログラムの内容となる。これらを図示すると、図 6-2 のようになる。

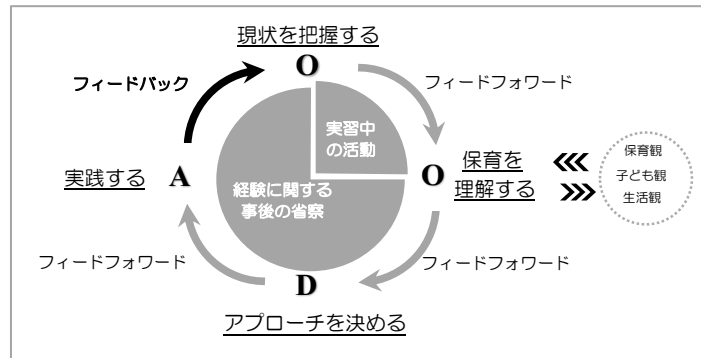


図 6-2. OODA ループを援用した実習プロセス

2. ルーブリック活用による省察支援の促進

2-1. 実習中から実習後まで連動した省察支援

第 4 章では、①ルーブリックを活用した課題型実習記録による日々の省察、②中間反省会や最終反省会などでの中間評価・最終評価による週単位の省察、という 2 つの省察支援が実習中に可能であることを確認した。課題型実習記録では、ルーブリックの評価を 1 日 1 つ以上行い、自己評価およびエピソードとして記録・提出し、保育実習指導者が日々読みコメントすることができるようにしている。これによって、実習生が記録したエピソードへフィードバックがおこなわれるため、実習生と保育実習指導者の双方が実習終了後ではなく、リアルタイムに日々実習状況を把握することができる。中間評価では、実習生は自己評価したルーブリックの根拠を保育実習指導者に伝え、保育実習指導者が捉えた評価とのすり合わせや対話によって生じた承認、新たな課題、助言などを得ることができ、1 週間を省察し、次の 1 週間に向けて新たな課題を持って取り組むことができる。最終評価では、中間評価と同様に、実習生は保育実習指導者との対話を元に省察を行い、1 週目からの自身の成長を確認することができる。

第 5 章で提示した「実習のためのアセスメント・システム」にあるように、実習生は中間評価と最終評価における自己評価のスコアとエピソードを Web 入力により、養成校の実習担当教員へ提出することができるため、実習担当教員からのフィードバックも可能となっている。この実習アセスメント情報は、教員組織内で情報共有されるため、巡回訪問教員も実習の学びを把握することができる。Web 入力されたデータは、LMS を活用したアクティブラーニングによって、相互にコメントする事後学習の授業に連動している。

実習後の省察支援では、自己評価だけでなく他者評価を介しての自己評価を行う。ここでは、実習中の省察を他者の身体をくぐってコメントされた後に、あらためて距離をおいて省察する「メタ省察」が行われる。第 5 章に示したように、①他者への経験にコメントすることは、自己の省察支援につながっており、②他者から自分の体験にコメントされることは多様な視点の獲得にとどまらず、実習を捉える枠組みの省察につながっていた。

第 5 章にあるように、コメントされる体験の記述には、エピソードで考察した自らの前提を問うコメントが仲間から記されている。例えば、子どもの世界の尊重のエピソードで、「子どもがのびのびと遊びにとりかかれるようにするために、保育者の日常の支えが重要なのだ」というコメントには、子どもの世界を理解する時に、自分は保育者と子どもとの関係性の視点から捉える枠組みを持っていたらどうかという問い直しを迫られる。また、製作の場面において、個の子どもに目を向け考察していた自分のエピソードに対して、他の子どもとの関わりに目を向け、子どもたち同士の関係性を捉える視点からのコメントも同様に、そうした枠組みの省察につながっている。コメントする体験にも、水滴を拭き取る行為を「魔法みたい!」と言う子どもの言葉に対する仲間の感性に触れ、自問する姿が見られた。エピソードを読む中で、「自分が子どもの言葉聞き取り、素敵だなと思うことがあったらどうか、あまり子どもの言葉を意識して素敵な言葉聞き取りができなかったのではないだろうか」と自問し省察している。こうした他者を介した省察では、自らの前提を問う省察的学習や変容的学習 (J・Mezirow, 1991) が生じていると考えることができる。全ての実習生に見られるわけではないが、視座の変容は仲間との協同的探求によって引き起こされるのである。ルーブリックを活用した事後学習シートは、統一化された観点に沿って全員が観点別の省察を体系的に実施できるため、評価指標という共通基盤の上に仲間と協同的探求を行うことができる。従来のように、実習で最も印象の強い場面や各自の実習目標に対して振り返る課題では、実習生各々のエピソードに依存するため、共通基盤における協同的探求とはなりにくいのである。

る。

このように、実習中に活用したルーブリックをさらに事後学習に引き継ぎ活用することで、学外実習での評価と事後学習での省察が連動し、評価指標に基づいた具体的な体験を継続して省察することができる。つまり、このルーブリックを活用した事後学習シートによる省察支援は、学外実習での形成的評価と事後学習を連動させ、評価指標に基づいた具体的な体験を省察する仕組みとなっているのである。

2-2. 実習における省察の2形態

第5章の検討では、他者に対する省察支援は、自己の省察支援に結びついており、フィードフォワードに基づく省察となっているのではないかと考えてきた。ここでは、この考えをもう一步進め、仮説として実習における省察モデルを考察したい。

実習における省察には、フィードバックによる省察とフィードフォワードに基づく省察の2形態があると考えられる。フィードバックによる省察は、他者からの省察支援を受ける際に、現在もしくは過去の自分の行為に関する状況や問題を伝えられることによって生じる省察である。事後学習では同じ実習体験を経験した仲間や、実習中では実習指導者や同じ空間で働く保育者からのフィードバックがある。これに対して、フィードフォワードに基づく省察は、自分がこれから起こそうとする次の実践に向けての省察であり、先を見越しての省察 (anticipatory reflection) である。フィードフォワードは未来志向であり、次に活かすための提案・解決策を含んでいる。実習中にはしばしば、実習生が語るうまくいっていないエピソードに対して、実習指導者や保育者、巡回訪問教員から、「自分だったら、こうする」、「あなたがやったことをこういうふうにしてみたら、次はうまくいくのでは」など、実習生の置かれている状況を汲み取った上で実習生が次にこの状況に遭遇する時にはどうしたら良いかが語られる。それは、指導する者とされる者の関係性からではなく、その状況を共に解決しようとする同僚性から生じている。

ルーブリックを活用した事前学習の授業では、ルーブリックの評価指標について説明をおこない、評価指標を実習生に事前に知らせることを通じて、実習の構えを作っている。つまり、この実習で最後に行われる評価指標を示し、そこに向かって何を学ぶかについて、学生は事前に考え準備することになる。これは「バックワード・デザイン」と呼ばれている。もし、他者の省察を支援するという意識で他者のエピソードを読むことによって、フィードフォワードに基づく省察が生じるとするならば、実習前の実習指導において事前にエピソードを提示し、これにコメントする授業は、バックワード・デザインにおけるゴールをエピソードの中からより具体的に読み取り、イメージすることができるのではないだろうか。

事前学習の授業では、これから初めて実習に行く学生に向けて全ての実習を終えた先輩がポスター発表をおこなっている。ここで、ルーブリックを活用した事後学習から得られた学びを後輩に伝承することができれば、先を見越した省察が行われ、これから行う実習に必要な観点を見いだすことができる。また、ルーブリックの説明にエピソードを活用する、他者に対する省察支援を念頭にエピソードへコメントするなどの授業を行うことによって、フィードフォワードに基づく省察を支援することができるだろう。

以上のことから、省察支援という観点から実習プログラムを考えるならば、実習中は主にフィードバックによる省察支援をおこない、実習後と実習前にはフィードフォワードに基づく省察支援が中心となる。

終章. 結論

第1章では、現行の実習プログラムにおいて、①実習評価票の改善、②適切なタイミングでのフィードバックの仕組みづくり、③実習中と実習後の連動した仕組みづくり、④実習中の学び内容の把握、⑤省察モデルと実習プログラムの確立、という5つの課題を提起した。本研究では、これらの課題を解決するとともに、研究Ⅰ～Ⅲの研究成果に基づき、新たな実習プログラムの開発をおこなった。

本研究では、まずパフォーマンス評価である「ルーブリック」に着目し、実習評価票としての実習用ルーブリックを開発し、エピソード紐付け法によって新たな使用法を提案した。そして、この実習用ルーブリックを基軸に、①実習プロセス、②省察支援、③ルーブリックの活用を検討し、実習プログラムを開発した。

中間評価のインタビューと事後学習のテキストマイニング分析により実習プロセスを検討すると、実習プログラムでは現状を把握する観察学習と把握した保育経験を省察する学習という2つの学習を促進し省察を支援する必要があることが分かった。実習プロセスはOODAループを援用し、図6-2で示したように、「把握する・保育を理解する・アプローチを決める・実践する」というループを回すモデルを作成した。実習中には主に「把握する・保育を理解する」が実習内容の中心となる。実習中の省察時や事後学習では「保育を理解する・アプローチを決める」の意図や、「実践する」からのフィードバックが省察対象となる。実習や保育の経験が進むにつれて、図7-1のように、経験の重なりや厚みに応じて、Y1→Y2→Y3 というように視座が変容すると、「保育を理解する→実践する」や「把握する⇔保育を理解する」という短縮化（熟達化）が可能となる。しかし、限られた実習期間では、短縮化（熟達化）が起こるのは稀であるが、直感的な行為や保育者を模倣することにより試行することは可能である。

実習中では、実習用ルーブリックによる自己評価と学習促進が行われ、ルーブリックを活用した課題型実習記録による日々の省察や中間・最終評価による省察がなされる。これらのルーブリックによる自己評価と省察は、ルーブリックを活用した事後学習シートによって事後学習にも引き継がれ、他者を介した省察が行われる。実習前は、ルーブリックに紐付けされたエピソードを教材として実習の具体的場面を想定し、これから経験する実習に向かうように、自己学習をデザインした学習活動が行われる。省察支援という観点から考えるならば、実習中は主にフィードバックによる省察支援をおこない、実習後と実習前にはフィードフォワードに基づく省察支援が中心となる。

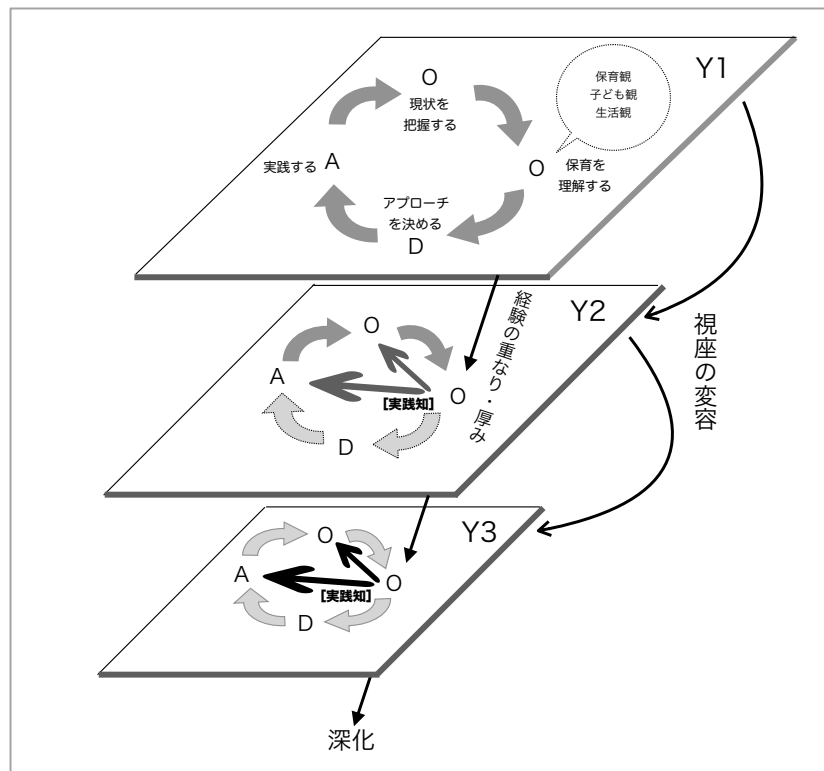


図7-1. OODAループの援用による実習活動モデル

これらの実習指導を促進するために、本研究ではICTを活用した仕組みと具体的なツールを考案した。図5でモデルを示したように、ICTを活用した「実習のためのアセスメント・システム」によって、実習中のアセスメント情報と実習指導を連動させることができるため、学生が主体的に課題を明確化しながら学びの質を深め、「指導と評価の一体化」をより促進することが可能となる。また、実習用ルーブリックを活用した実習記録と事後学習シートは、適切なタイミングでのフィードバックを可能にし、実習中と実習後が連動するために必要な具体的なツールとなっている。

以上を整理し図示すると、図7-2となる。

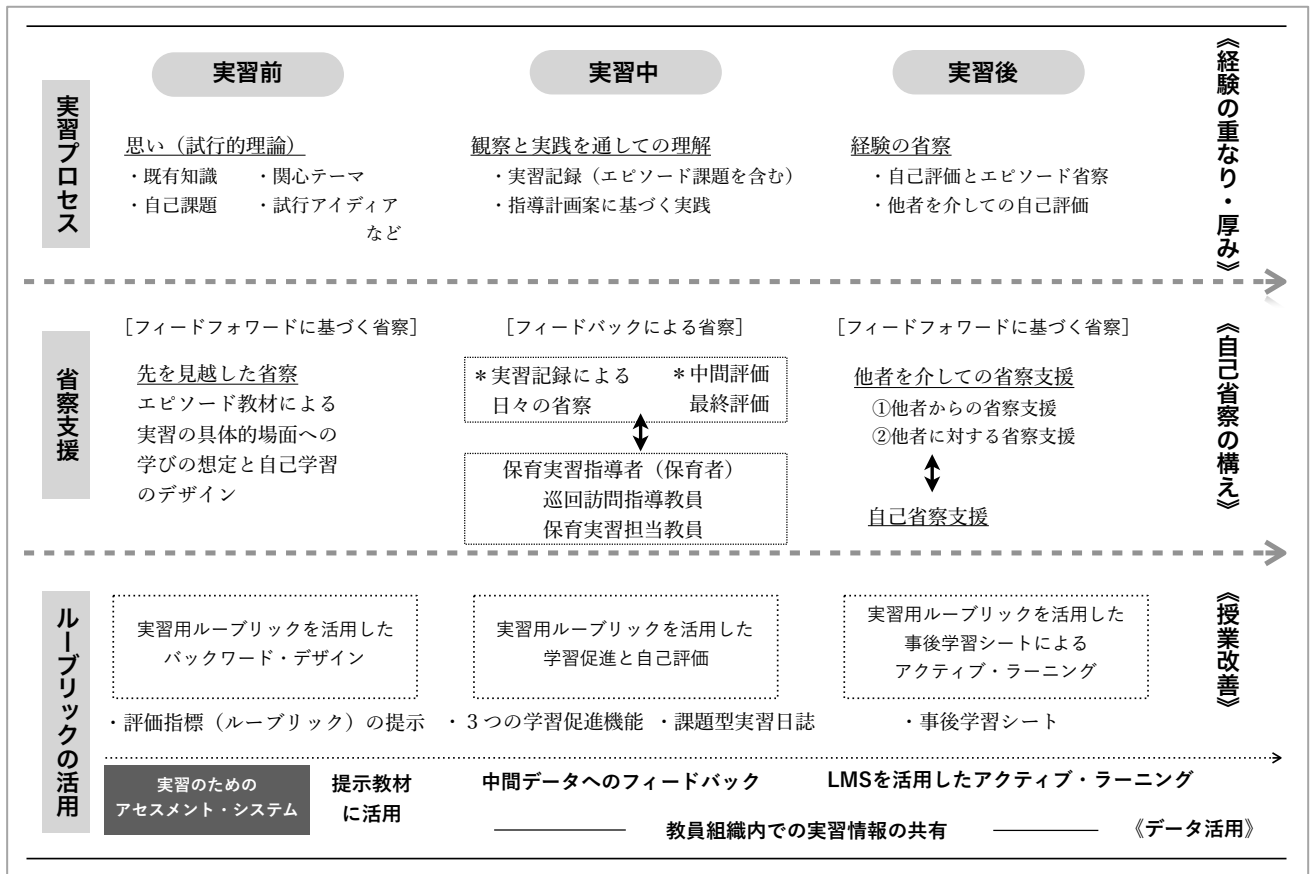


図7-2. ルーブリックを活用した実習プログラム

今後の課題として、「他者に対する省察支援」の概念について言及したい。第6章で「他者に対する省察支援が自己の省察支援になっている」という考察をおこなった。一般に、他者に対する省察支援は、自分が他者に利益をもたらすという文脈で語られることが多い。人材育成の分野では、例えば中原（2009）が「かかわり」から得ているものとして、「業務支援」、「内省支援」、「精神的支援」の3つを挙げ、分析している。この中で、「内省支援」が生じやすいのは、①「語るべき他者」や「応答してくれる他者」がいるとき、②内省が「外化（externalization）」によって他者と共有されるときであるとしている。つまり、①は、「自己のあり方や行動について『誰か』に説明しなければならないとき、人は、日常的には無意識かつ暗黙のうちの行っている事柄を、メタ（高次）な視点で眺めることになる」というように、意識化やメタ認知を促進するものとして機能している。②は、「自分のアイデアを他者にも諒解可能な形でアウトプットできれば、アイデアは他者にも共有可能となり、他者はそれに対してのコメントや問いかけができる」というように、外化すれば他者からの情報を得ることができるということである。藤村と橘（2013）は、他者が個人の問題解決の促進に果たす役割を次の3つに整理している。つまり、第一に「他者が能動的聴取者としての役割を果たす際、他者は自己説明の対象となるということ。第二に、他者が情報提供者としての役割を果たすとき、個人はあらたな情報や発想を得ることができるということ。第三に、他者が知識の協同構築のパートナーとしての役割を果たすこともあることである。第一と第二は中原（2009）が指摘する内容と同じものであり、他者に利益をもたらす構造を説いている。第三の役割で、「他者とともに多様な知識を提供し合い、相互に関連づけることであらたな知識の枠組みが創出される」

という視点は、自分の中の省察プロセスの中で生じることにつながってくる。しかし、他者に利益をもたらすだけでなく、自分の中にも省察が生じるということは、これまであまり着目されてこなかった。

本研究では、仲間にコメントすることで自己省察が生じるプロセスについて、エピソードにコメントする構造を元に解釈を試みたが、明確な説明を行うことができなかった。このことは、人材育成の教育や対人援助職の育成、保育におけるカンファレンスの促進の中で、極めて重要な概念であると考えられるため、今後の課題としていきたい。

今後の展望として、本研究で示した実践研究の手続き、ルーブリック使用法、ルーブリックを活用したツールや仕組みは、1つのモデルとして他の各種実習や学外学習・地域と連携した学習などへ応用可能であると考えられる。特に、すでに先行研究の中でも取り上げているが、看護師、社会福祉士・介護福祉士、臨床心理士などの対人援助職における実習教育へ展開可能である。また、保育現場との連携を深めることによって、キャリア・パスに対応した保育者用ルーブリックへと展開することが可能であり、養成段階から卒後教育まで連続性を持ったモデルとしても提示できることが期待される。今後、本研究で示した実習プログラムとその知見を継続して研究し、このモデルを発展させていきたい。

[参考・引用文献]

- ・秋田喜代美、箕輪潤子、高櫻綾子：保育の質研究の展望と課題、東京大学大学院教育学研究科紀要、第47巻、pp.289-305、2007年
- ・秋田喜代美、佐川早季子：保育の質研究に関する縦断的研究の展望、東京大学大学院教育学研究科紀要、第51巻、pp.217-234、2011年
- ・安藤節子：発達、No.83、Vol.21、ミネルヴァ書房、pp.9-15、2000年
- ・安藤輝次：ループリックの学習促進機能、関西大学「文学論集」、第64巻3号、pp.1-25、2014年
- ・糸賀暢子：学生の看護実践力が向上する学習評価へ～ポートフォリオ評価とループリック導入に至る本校のあゆみから、看護教育、第51巻、12号、医学書院、pp.1040-1047、2010年(a)
- ・糸賀暢子：基礎看護学実習での導入～ポートフォリオとループリックを用いた評価の実際、看護教育、第51巻、12号、医学書院、pp.1048-1056、2010年(b)
- ・牛込彰彦：保育所実習における学生の自己評価と実習評価の関係、埼玉純真短期大学研究論文集、第6号、pp.25-39、2013年
- ・牛込彰彦：実習における学生の自己評価と実習評価の関係、埼玉純真短期大学研究論文集、第8号、pp.45-50、2015年
- ・内山研一：現場の学としてのアクションリサーチ～ソフトシステム方法論の日本的再構築、白桃書房、2007年
- ・大井千鶴・諸田直美・今泉郷子・三次真里・山本摂子・三觜久美子・高橋梓：成人看護論実習評価におけるループリック作成過程の実際、武蔵野大学看護学研究所紀要、第12号、pp.49-55、2018年
- ・尾崎司・中村教子：現場連携による実習評価ループリックの開発（Ⅰ）～保育所実習のループリック作成に関する予備的考察、東京家政大学研究紀要、第57集（1）、pp.31-41、2017年
- ・尾崎司：保育所現場との連携による実習評価ループリックの開発、教育改革推進(学長裁量)経費予算成果報告書（平成29年度）、東京家政大学・東京家政大学短期大学部学修・教育開発センター、pp.5-10、2018年（a）
- ・尾崎司：保育所現場との連携による実習評価ループリックの開発、教育改革推進(学長裁量)経費予算成果報告書（平成29年度）、実践記録版、2018年（b）
- ・尾崎司：現場連携による実習評価ループリックの開発（Ⅱ）～ループリックを活用した事後学習の授業研究、東京家政大学研究紀要、第59集(1)、pp.13-21、2019年(a)
- ・尾崎司：保育実習ループリックの事例研究～中間評価の仕組みづくり、教育改革推進(学長裁量)経費予算成果報告書（平成30年度）、東京家政大学・東京家政大学短期大学部学修・教育開発センター、pp.5-11、2019年（b）
- ・尾崎司：保育実習で学生は何を学んだか（Ⅰ）、東京家政大学教員養成推進室年報、第8号、pp.29-38、2019年(c)
- ・尾崎司：現場連携による実習評価ループリックの開発（Ⅲ）～実習のためのアセスメント・システムの構築に向けて、東京家政大学研究紀要、第60集(1)、pp.105-111、2020年(a)
- ・尾崎司：保育実習で学生は何を学んだか（Ⅱ）、東京家政大学教員養成推進室年報、第9号、pp.41-50、2020年(b)
- ・小野寺香・村井尚子・中山美佐・濱谷佳奈・山本一成・坂田哲人：教員養成課程におけるリアリスティック・アプローチ導入の理念と意義、大阪樟蔭女子大学研究紀要、第6巻、pp.81-89、2016年
- ・加藤孝士・富田喜代子・原田美代子・兼間和美・湯池由美・山本健志郎・奥村英樹：ループリックによる実習評価と実習後の振り返りの関係—ループリックの回答順に着目して—、四国大学紀要、(A)49、pp.23-35、2017年
- ・加藤房江：保育所実習における学生の自己評価からみた実習評価の関係—集計ソフトを活用して—、埼玉純真短期大学研究論文集、第13号、pp.1-11、2020年
- ・金井壽宏・楠見孝：実践知—エキスパートの知性、有斐閣、2012
- ・鯨岡峻：発達、No.83、Vol.21、ミネルヴァ書房、pp.53-60、2000年
- ・鯨岡峻：なぜエピソード記述なのか、東京大学出版会、2013年
- ・G・ロルフ（2017）、看護実践のアポリア—D・ショーン《省察的实践論》の挑戦、ゆみる出版、2017年
- *この書籍は、Gary Rolfeの日本で刊行された論文集である。
- ・小泉卓・関口明子：教育実習評価表（基礎案）作成の試み—ループリック評価の取り組み—、FD紀要

- 「聖徳の教え育む技法」、第2号、pp.1-21、2007年
- ・小泉卓：ルーブリックを使用した教育実習評価表の特性と構造、FD紀要「聖徳の教え育む技法」、第3号、pp.1-13、2008年
 - ・甲賀純子・角典以子・小田初美：ルーブリックを統合実習に導入して～主体的学習への効果の検討～、京二赤医誌、Vol.37、pp.58-63、2016年
 - ・小林哲也・佐々木宰・川廷宗之・杉野聖子・原田聖子・宮脇文恵・永嶋昌樹・三橋真人：社会福祉士養成における相談援助実習指導の評価方法に関する研究—ルーブリック評価法の応用可能性について—、大妻女子大学人間関係学部人間生活文化研究、No.24、pp.168-180、2014年
 - ・Korthagen, F. A. edited (2001), 'Linking Practice and Theory - The Pedagogy of Realistic Teacher Education', Lawrence Erlbaum Associates, Inc.
 - [邦訳] (編著)F・A・コルトハーヘン、(監訳)武田信子、教師教育学、学文社、2010年
 - ・志濃原亜美・北野大・茗井香保里・福田真奈・富山大士・丸橋聡美・三好力・米原立将・韓仁愛・長谷川直子：保育実習における巡回訪問指導の在り方の再検討と有効な巡回訪問指導のシステムの開発、平成30年度保育士養成研究所報告書、全国保育士養成協議会、2019年
 - ・Sue, F. Y., Robert, J. W. (2000) 'Assessment & Learning: The ICE Approach', Winnipeg Canada: Portage & Main Press/ Peguis Publishers
 - [邦訳] スー・F・ヤング/ロバート・J・ウィルソン、(監訳)土持・ゲーリー・法一：「主体的学び」につなげる評価と学習方法～カナダで実践されるICEモデル、東信堂、2013年
 - ・Schwandt, T. A. (2007) 'The SAGE Dictionary of Qualitative Inquiry', SAGE Pub. Inc., 3rd edition
 - [邦訳] T. A. シュワント、(監訳)伊藤勇、徳川直人、内田健：質的研究用語事典、北大路書房、2009年
 - ・Schön, D. A. (1984) 'The Reflective Practitioner: How Professionals Think In Action', Ashgate Publishing
 - [邦訳1] D・ショーン、(訳)佐藤学・秋田喜代美、専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える、ゆみる出版、2001
 - [邦訳2] D・ショーン、(監訳)柳沢昌一・三輪建三、省察的実践とは何か、鳳書房、2007
 - ・Schön, D. A. (1990) 'Educating the Reflective Practitioner: Toward a New Design for Teaching and Learning in the Professions (Higher Education Series)', Jossey-Bass; 1st Edition
 - [邦訳] D・ショーン、(監訳)柳沢昌一・三輪建三、省察的実践者の教育、鳳書房、2017年
 - ・鈴木香苗・中信利恵子・松本由恵・横山奈未・山下彰子・岡田淳子・植田喜久子：成人看護学実習における学生のルーブリックの活用状況、日本赤十字広島看護大学紀要、第18巻、pp.11-17、2018年
 - ・Stevens, D. D. and Levi, A. J. (2013) 'Introduction to Rubrics: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback, and Promote Student Learning', Sterling Stylus Publishing, 2nd edition
 - [邦訳] ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ、(監訳)佐藤浩章、(訳)井上敏憲、俣野秀典：大学教員のためのルーブリック評価入門、玉川大学出版部、pp.94-109、2014年
 - ・全国保育士養成協議会編：保育実習のミニマムスタンダード～現場と養成校が協働して保育士を育てる～、北大路書房、2007年
 - ・全国保育士養成協議会編：保育実習のミニマムスタンダードVer.2～「協働」する保育士養成、中央法規出版、2018年
 - ・竹中泉・岸さゆり・山本十三代・小川宣子・坂本結美子・志戸岡恵子・杉田香苗・名草みどり・葛本有実子：臨地実習評価にルーブリックを導入してみた、看護教育、第55巻、3号、医学書院、pp.228-232、2014年
 - ・辰野千尋・石田恒良・北尾倫彦：教育評価事典、図書文化社、2006年
 - ・Checkland, P. and Holwell, S. (1998) 'Action Research: Its Nature and Validity, Systemic Practice and action Research', Plenum Press, Volume11, Number1
 - ・Chet Richards, Certain to win, 2004
 - [邦訳] チェリット・リチャード、(訳)原田勉、OODA LOOP、東洋経済新報社、2019年
 - ・塚田みちる：実習における〈子ども-実習生との関係〉の検討、神戸女子短期大学論攷、59巻、pp.1-16、2014年
 - ・中嶋一恵・浦川末子・白石景一・下釜綾子・永野司・中村浩美・中島健一郎・滝川由香里・本村弥寿子：ルーブリックを使用した学外実習評価基準の作成について、長崎女子短期大学紀要第38号、2014年

- ・中西利恵・大森雅人・曲田映世・高濱麻貴：実習指導の効果を高める教育方法の研究（その2）-学生の自己評価と現場評価のズレを活用した事前・事後指導のあり方-、相愛大学人間発達学研究、第3号、pp. 47-54、2011年
- ・中原淳・金井壽宏：リフレクティブ・マネージャー、光文社、2009年
- ・日本国語大辞典：第7巻、p. 1176、小学館、2001年、第二版
- ・野上俊一・山田朋子：保育実習日誌の記述における自己評価の変容、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要、第43号、2011年
- ・Berstein, B. (1977) 'Class, Codes and Control Volume 3, Toward a Theory of Educational Transmissions', Routledge & Kegan Paul; 2nd edition
[邦訳] バーンステイン、(編訳) 萩原元昭：教育伝達の社会学～開かれた学校とは、明治図書、1985年
- ・林和歌子・大内善広：ルーブリックを用いた介護実習評価法の開発、城西国際大学紀要、第26巻、第3号、pp. 37-50、2018年
- ・平澤一郎：教育・保育実習指導におけるルーブリックの活用、豊岡短期大学論集、第14号、pp. 545-554、2017年
- ・樋口耕一：テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—、理論と方法(数理社会学会)、19(1)、pp. 101-115、2004年
- ・樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—、ナカニシヤ出版、2014年
- ・広瀬美和・大内善広・小川智子・清水正美・林和歌子・堀千鶴子・佐野智子：ルーブリック版実習評価尺度の開発、城西国際大学紀要、第24巻、第3号、pp. 17-28、2016年
- ・福島真人：暗黙知の解剖～認知と社会のインターフェイス、金子書房、2001年
- ・福田洋子・野呂健一・寶來敬章・鷲尾敦：介護実習でのルーブリック評価の導入による効果と課題、高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報、第5号、pp. 28-39、2019年
- ・Van Manen, M, On the Epistemology of Reflective Practice, Teachers and Teaching: theory and practice, Vol. 1, No. 1, pp. 33-50, 1995
- ・藤村宣之・橘春菜：協同による問題解決過程、「ピア・ラーニング」(中谷素之・伊藤崇達編著)、金子書房、2013年・第8章 pp. 123-138 に所収
- ・前徳明子：保育所実習の評価に関する研究—保育所からの評価『他者評価』と実習生の評価『自己評価』との相違についての考察—、小池学園研究紀要、第1号、pp. 83-96、2009年
- ・増田まゆみ・柴崎正行・小櫃智子：平成22年度児童関連サービス調査研究事業報告書「保育所実習指導と保育士のキャリアアップ」、こども未来財団、2011年
- ・松下佳代：パフォーマンス評価による学習の質の評価—学習評価の構図の分析にもとづいて、京都大学高等教育研究、18号、pp. 75-97、2012年
- ・松下佳代・小野和宏・高橋雄介：レポート評価におけるルーブリックの開発とその信頼性、大学教育学会誌、第35巻、第1号、2013年
- ・三木知子・桜井茂男：保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響、教育心理学研究、46巻、pp. 203-211、1998年
- ・三木知子：ルーブリックによる教育・保育実習自己スタンダードの提案、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、第12巻第1号、pp. 1-10、2018年
- ・村井尚子：教師教育における「省察」の意義の再検討、大阪樟蔭女子大学紀要、5巻、pp. 175-183、2015年
- ・村井尚子：省察による保育観の問い直し～ALACTモデルを用いた教育実習のリフレクションを通して～、京都女子大学発達教育学部紀要、第15号、pp. 69-80、2019年
- ・Mezirow, J. (1991) , Transformative Dimension of Adult Learning, San Francisco, California
[邦訳] J. メジロー、(監訳) 金澤睦・三輪建二：おとなの学びと変容～変容的学習とは何か、鳳書房、2012年
- ・森上史朗：発達、No. 68、ミネルヴァ書房、pp. 1-7、1996年
- ・森上史朗：発達、No. 83、Vol. 21、ミネルヴァ書房、pp. 68-74、2000年
- ・森口弘美：エピソード記述の社会福祉研究への援用可能性の検討、評論・社会科学、113号、pp. 145-170、2015年

- ・山田朋子・那須信樹・森田真紀子：保育所実習における学生の自己評価からみた実習指導内容の検討 - 大学・短期大学学生の評価結果の分析を通して-、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要、第42号、2010年
- ・山田嘉徳・森朋子・毛利美穂・岩崎千晶・田中俊也：学びに活用するルーブリックの評価に関する方法論の検討、関西大学高等教育研究、第6号、pp. 21-30、2015年
- ・山本一成・中山美佐・濱谷佳奈・小野寺香・村井尚子・坂田哲人：教員養成課程におけるリアリスティック・アプローチを導入した授業実践、大阪樟蔭女子大学研究紀要、第6巻、pp. 187-198、2016年
- ・吉田満穂・中川智之・片山美香：保育実践における保育者の気付きの意味、兵庫教育大学教育実践学論集、第19号、pp. 75-85、2018年
- ・若林紀乃・杉村伸一郎：保育カンファレンスにおける知の再構築、広島大学大学院教育学研究科紀要、第三部、第54号、pp. 369-378、2005年
- ・鷺尾敦・福田洋子・野呂健一・寶來敬章：介護実習ルーブリック評価結果を用いた学生の実習分析、高田短期大学紀要、第38号、pp. 23-34、2020年

[巻末資料]

資料 1. 保育実習 I の旧実習評価票 (5 段階評価)

実習学生	学籍番号		学生氏名		
実習保育所					
実習期間	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 () (合計 日間)				
勤務状況	出勤 日	欠勤 日	遅刻 回	早退 回	備考

※下記の項目について、A~E の 5 段階で評価願います (該当するところに丸印を付けてください)
【 A: 非常によい B: よい C: 普通 (特に問題なし) D: やや不十分 E: 非常に不十分 】

① 事前の課題の整理など、実習の準備をして臨んだか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
② 健康への配慮・自己管理はできていたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
③ 子どもの気持ちを受けとめながら、個人差に配慮しつつかわっていたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
④ 子どもの生活を捉え、その環境への関心を示していたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
⑤ 保育の展開 (子どもの活動と保育者のかかわり) に関心を示していたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
⑥ 実習録は、適切に記録され、十分に活用されるものであったか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
⑦ 問題意識をもちつつ、保育者に積極的に質問をしていたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
⑧ 保育所ならびに保育士の役割とその意義を理解しようと努めていたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】
⑨ 実習を終える時点で、今後の学習に向けた課題を自覚しようと努めていたか	【 A ・ B ・ C ・ D ・ E 】

総合評価 (該当するものに丸印を付けてください)
 実習生として
A: 非常に優れている B: 優れている C: 特に問題なし D: 不十分である E: 非常に不十分である

総合所見

上記のとおり評価致します 平成 年 月 日
※この評価票は学生の事後指導に活用させていただきます

保育所長 ㊟
 実習担当職員 ㊟

* 学校名が記載された上部は、削除しています。

[巻末資料]

資料2. 保育実習Ⅰの仮ルーブリック（たたき台）

評価観点		3	2	1	小計
職業人としての基本的姿勢	[勤怠状況]	遅刻・早退・欠勤等がなく所定の日数を勤務できた。	おおむね勤務状況は良好であったが、遅刻・早退・欠勤等があった。	遅刻・早退・欠勤等が2回以上あり、実習が万全とは言えなかった。	
	[健康管理]	遅刻や欠勤もなく、体調も万全で実習にのぞんだ。	体調がすぐれないこともあったが、遅刻や欠勤はなかった。	体調がすぐれず、遅刻や欠勤が2回以上あった。	
	[対人関係]	社会人として、あいさつや礼儀正しい振る舞いをする事ができ、職員と協調することができた。	あいさつや礼儀正しい振る舞いほできるが、職員に声をかけ、協調する行為は見られなかった。	あいさつや礼儀正しい振る舞いほできず、職員に声をかけられてから行動することが多く見られた。	
	[実習意欲]	積極的に質問できる、すすんでやれることを見つけて取り組むことができる、など実習への意欲が高かった。	実習1週目は、なかなか質問することができず、指示されてから動くことも多かったが、徐々にできるようになった。	積極的に質問できず、指示を待ってから行動に移すことが多かった。	
	[提出物]	提出期限を厳守できた。	提出期限を厳守できなかったが、2日以内に提出することができた。	提出期限を厳守できず、3日以上経ってから提出した。	
保育の専門性	[発達理解]	子どもの発達過程を理解し、個人差へ配慮して関わる姿が見られた。	発達の知識を保育に活用することができないが、保育に参加する中で発達を理解することができた。	発達の知識を保育に活用することができず、保育に参加しても発達を読み取ることができなかった。	
	[保育技術の実践]	子どもの状況に合わせて、保育技術を臨機応変に実践することができた。	保育技術を実践できた。	保育技術を実践するには、準備・練習不足であった。	
保育者としての働く意識	[環境構成理解]	保育者がおこなう環境構成について理解し、自らの実践にも取り入れることができた。	保育者がおこなう環境構成について理解できた。	保育者がおこなう環境構成について理解できなかった。	
	[援助理解]	保育者の援助・関わりの意図を理解し、自らの実践に取り入れることができた。	保育者の援助・関わりの意図を理解できた。	保育者の援助・関わりの意図を理解できなかった。	
	[チーム意識]	チーム意識を持ち、報告・連絡・相談ができた。	保育者が促すことによって、チームで仕事をするという意識ができた。	チーム意識が持てず、報告・連絡・相談もできなかった。	
重点目標の到達度	[日誌の記録と活用]	実習日誌に過不足なく記録し、しっかりと振り返ることができ、それをもとに翌日の実習に活用していた。	実習した内容を実習日誌に過不足なく記録することができた。	実習日誌に記録する内容が不十分であった。	
	[子育て支援理解]	保護者支援・子育て支援の状況を保育に結びつけて理解することができた。	保護者対応を見聞きし、子育てひろばなどの場で実習できたが、保育と結びつけて理解することができなかった。	保護者支援・子育て支援の状況を理解することができなかった。	
	[保育所の機能・役割]	実習を総合的に振り返り、保育所の機能・役割を理解することができた。	総合感覚等に保育所の機能・役割に関する認識はあるが、自らの実習と結びつけて考察できていなかった。	総合感覚等に保育所の機能・役割に関する認識もなく、自らの実習と結びつけて考察できていなかった。	
		27~39...優	14~26...良	1~13...可	総計

資料3. 保育実習Ⅱの仮ルーブリック（たたき台）

評価観点		3	2	1	小計
職業人としての基本的姿勢	[勤怠状況]	遅刻・早退・欠勤等がなく所定の日数を勤務できた。	おおむね勤務状況は良好であったが、遅刻・早退・欠勤等があった。	遅刻・早退・欠勤等が2回以上あり、実習が万全とは言えなかった。	
	[健康管理]	遅刻や欠勤もなく、体調も万全で実習にのぞんだ。	体調がすぐれないこともあったが、遅刻や欠勤はなかった。	体調がすぐれず、遅刻や欠勤が2回以上あった。	
	[対人関係]	社会人として、あいさつや礼儀正しい振る舞いをする事ができ、職員と協調することができた。	あいさつや礼儀正しい振る舞いほできるが、職員に声をかけ、協調する行為は見られなかった。	あいさつや礼儀正しい振る舞いほできず、職員に声をかけられてから行動することが多く見られた。	
	[実習意欲]	2に加え、前回の実習課題に挑戦し、クリアできた。	積極的に質問できる、すすんでやれることを見つけて取り組むことができる、など実習への意欲が高かった。	実習1週目は、なかなか質問することができず、指示されてから動くことも多かったが、徐々にできるようになった。	
	[提出物]	／	提出期限を厳守できた。	提出期限を厳守できなかったが、2日以内に提出することができた。	
保育の専門性	[発達理解]	発達過程や個人差を理解したうえで、指導計画立案に活用することができた。	子どもの発達過程を理解し、個人差へ配慮して関わる姿が見られた。	発達の知識を保育に活用することができないが、保育に参加する中で発達を理解することができた。	
	[保育技術の実践]	指導案を実践する上で、適切に保育技術を活用することができた。	子どもの状況に合わせて、保育技術を臨機応変に実践することができた。	保育技術を実践できた。	
保育者としての働く意識	[環境構成理解]	指導計画立案の際、実態に即した環境構成を考えることができた。	保育者がおこなう環境構成について理解し、自らの実践にも取り入れることができた。	保育者がおこなう環境構成について理解できた。	
	[援助理解]	指導計画立案の際、実態に即した援助や配慮を考えることができた。	保育者の援助・関わりの意図を理解し、自らの実践に取り入れることができた。	保育者の援助・関わりの意図を理解できなかった。	
	[チーム意識]	保育実践の際に、チーム意識を持ち、周りの保育者に働きかけることができた。	チーム意識を持ち、報告・連絡・相談ができた。	保育者が促すことによって、チームで仕事をするという意識ができた。	
重点目標の到達度	[実習指導案の立案]	2に加えて、そこで学んだ枠組みから現実の保育をとらえる視点に活用することができた。	立案した指導案において、子どもの実態や援助、留意事項等の想定と現状からの差異から振り返り、学ぶことができた。	立案した指導案において、子どもの実態や援助、留意事項等の想定があまり考えられておらず、振り返りも不十分であった。	
	[部分実習・責任実習]	指導計画案に基づいて実践でき、今後の課題について振り返ることができた。	自分なりの準備や工夫をして、指導案に基づいて実践をおこなった。	十分な準備・工夫がなく、指導案を実践することが難しかった。	
	[子育て支援理解]	2に加えて、保護者支援や子育て支援について、大学での学びをもとにテーマを持って取り組むことができた。	保護者支援・子育て支援の状況を保育と結びつけて理解することができた。	保護者対応を見聞きし、子育てひろばなどの場で実習できたが、保育と結びつけて理解することができなかった。	
		27~38...優	14~26...良	1~13...可	総計

[巻末資料]

資料4. 実習用ルーブリック（保育所実習Ⅰ用）

保育実習Ⅰで経験してほしい内容（評価票）				
[実習生]	(クラス 組 学籍番号)	[欠勤・・・回、遅刻・・・回、日誌未提出・・・回]		
評価観点	すばらしい	がんばった	次はクリアだね	
保育の専門性	発達の理解	子どもの姿を記録し、事前学習した発達の知識に関連づけることができる。	発達過程を意識しながら、子どもの姿を記録することができる。	子どもの姿を行動の羅列として記録するが、発達過程と関連づけることができない。
	援助の理解	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉えることができる。	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方に興味を持つことができない。
	保護者支援の理解	保護者向けの子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	保護者向けの子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけることができる。	保護者向けの子育て支援の実例を聞いても、関心を持つことができない。
	質問による理解の促進	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問し、実践に結びつけることができる。	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問することができる。	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問することができない。
コミュニケーション	あいさつ・所作	進んであいさつができ、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。	進んであいさつはできるが、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。	進んであいさつができず、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。
	情報の共有（報告）	保育者に伝えなければならないことを適切なタイミングで報告できる。	時々、報告を忘れることもあるが、保育者に伝えなければならないことを報告できる。	保育者に伝えなければならないことを報告できない。
	情報の共有（相談）	保育者と相談しながら、すすめることができる。	適切なタイミングで相談できないこともあるが、おおむね相談してすすめることができる。	自分の判断のみでおこない、保育者に相談できない。
	実習指導を受ける態度	言われたことや助言を素直に受け止め、実行することができる。	言われたことや助言を素直に受け止めることはできるが、なかなか実行することができない。	言われたことや助言を素直に受け止めることができない。
子どもへの関心	子どもへの関心	他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録し、保育の魅力を発見することができる。	他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録することができる。	他者に伝えたいような子どもの姿を日々の保育の中に発見できない。
	子どもの世界の尊重	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程を尊重し見守ることができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程を尊重し見守ることができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程に関心を持つことができない。
	生活の連続性への理解	日々の出来事や生活と子どもの姿とのつながりに関心を持ち、関連づけて考えることができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿とのつながりに関心を持つことができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿とのつながりに関心を持つことができない。
子どもとの関わり	遊びの理解	子どもと一緒に遊ぶことができ、子どもが感じる遊びの魅力を理解することができる。	子どもと一緒に遊ぶことはできるが、子どもが感じる遊びの魅力を伝えることができない。	子どもと一緒に遊ぶことができず、子どもが感じる遊びの魅力を伝えることができない。
	関わる準備と実践	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備し、丁寧に関わる。	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備できているが、丁寧に関わる。	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備できず、丁寧に関わる。
	関わる魅力の発見	子どもとの関わりを通して気づき、発見できたことから、自分の考えをまとめることができる。	子どもとの関わりを通して、気づきや発見をすることはできるが、そこから自分の考えをまとめることができない。	子どもとの関わりを通して、気づきや発見をすることができない。
[保育所]	[実習期間] 年 月 日～ 年 月 日（日間）	[実習担当者]	印	

資料5. 実習用ルーブリック（保育所実習Ⅱ用）

保育実習Ⅱで経験してほしい内容（評価票）				
[実習生]	(クラス 組 学籍番号)	[欠勤・・・回、遅刻・・・回、日誌未提出・・・回]		
評価観点	すばらしい	がんばった	次はクリアだね	
保育の専門性	発達の理解	発達過程を意識した上で、関わった子どもの個々の特性を考えることができる。	子どもの姿を記録し、事前学習した発達の知識に関連づけることができる。	発達過程を意識しながら、子どもの姿を記録することができる。
	援助の理解	状況に応じた役割をし、実際に即した援助や計画、配慮を考えることができる。	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉えることができる。
	子育て支援の理解	子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけることができる。	子育て支援の実例を聞いても、関心を持つことができない。
	質問による理解の促進	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問し、実践に結びつけることができる。	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問することができる。	子どもの気持ちやかかわり方(意図)、保育に関すること等を質問することができない。
コミュニケーション	あいさつ・所作	進んであいさつができ、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。	進んであいさつはできるが、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。	進んであいさつができず、丁寧な言葉づかいや礼儀正しい振る舞いをする。
	情報の共有（報告）	保育者に伝えなければならないことを適切なタイミングで報告できる。	時々、報告を忘れることもあるが、保育者に伝えなければならないことを報告できる。	保育者に伝えなければならないことを報告できない。
	情報の共有（相談）	保育者と相談しながら、すすめることができる。	適切なタイミングで相談できないこともあるが、おおむね相談してすすめることができる。	自分の判断のみでおこない、保育者に相談できない。
	実習指導を受ける態度	言われたことや助言を素直に受け止め、実行することができる。	言われたことや助言を素直に受け止めることはできるが、なかなか実行することができない。	言われたことや助言を素直に受け止めることができない。
課題意識	課題意識の可視化	実習課題を整理して書き表わし、保育者との対話を通じて課題を明確化することができる。	実習課題を整理して書き表わし、保育者に説明することができる。	実習課題が整理・明確化されておらず、保育者に説明することもできない。
	日々の目標設定	明確な課題意識を持って、1日の目標を具体的に設定し、その達成に向けて取り組むことができる。	課題意識を持って、1日の目標を具体的に設定できるが、その達成に向けて取り組むことができない。	明確な課題意識を持って、1日の目標を具体的に設定できず、その達成に向けて取り組むことができない。
保育プロセスの体験的理解	立案と実践までの過程	実践までの間に、子どもの姿や題材、保育内容などを保育者に質問する・助言を受ける・修正するなどの準備をすることができる。	実践までの間に、子どもの姿や題材、保育内容などを保育者に質問する・助言を受けるなどはできるが、指摘された部分を修正することができない。	実践までの間に、子どもの姿や題材、保育内容などを保育者に質問する・助言を受ける・修正するなどの準備をすることができない。
	指導案の実践	作成した指導案に基づいて実践し、自分なりに工夫して対処することができる。	作成した指導案に基づいて実践をおこなうことができる。	準備不足や想定不足のため、作成した指導案に基づいて実践をおこなうことができない。
	実践の振り返り	立案から実践までの過程を振り返り、学びを整理し、改善点や課題を考えることができる。	立案から実践までの過程を振り返り、学びを整理することができる。	立案から実践までの過程を上手くいったか否かという視点でしか捉えることができない。
[保育所]	[実習期間] 年 月 日～ 年 月 日（日間）	[実習担当者]	印	

資料6. ルーブリックを活用した実習日誌（一部その1）

実習日誌の記入について

教科書「教育・保育実習のデザイン」には、何のために記録をするのかということについて、①自分自身に距離を置くこと、②指導保育者・職員との対話の手がかり、③部分実習・一日実習に備える、という3点があげられています。実習日誌の記録を通して振り返り、保育者や教員とコミュニケーションを取る。さらには、指導計画を体験的に理解するために、必要な情報を収集しておくということが大切なのです。実習日誌を書くことは、とても時間がかかり大変な作業となりますが、上記のことを意識し、要点を絞って書き、次の保育実践に役立てるようにしてください。

《課題別シート形式》

課題別シート形式になっていますので、課題を選択し、その形式に従って記入してください。

課題A	初めて、そのクラスに入る時など新しい環境に切り替わる時に使用してください。構成・項目は、実習目標に応じて自分で設定します。
課題B	時系列形式で、2枚以内で書くタイプです。エピソード記録と組み合わせて使用します。構成・項目は、実習目標に応じて自分で設定します。
課題C	エピソード記録形式です。課題A・Bと組み合わせて使用します。
課題D	評価指標（ルーブリック）にある「保育の専門性」について振り返る形式です。根拠となるエピソードを記録します。課題A・Bと組み合わせて使用します。
課題E	評価指標（ルーブリック）にある「子どもへの関心」について振り返る形式です。根拠となるエピソードを記録します。課題A・Bと組み合わせて使用します。
課題F	評価指標（ルーブリック）にある「子どもとの関わり」について振り返る形式です。根拠となるエピソードを記録します。課題A・Bと組み合わせて使用します。

《使用パターン例》

①新しいクラスに配属された日

課題A（時系列）＋課題C（エピソード記録）＋振り返り
もしくは課題D～F（エピソード記録）

*実習日誌の構成に関する説明

[巻末資料]

資料7. ルーブリックを活用した実習日誌（一部その2）

【課題E 評価指標による振り返り】 評価指標(ルーブリック)にある「子どもへの関心」について振り返り、現時点での自己評価をおこないます。次の3つの項目の中から1つ選び、根拠となるエピソードを記述してください。

評価観点	すばらしい	がんばったね	次はクリアだね
子どもへの関心	他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録し、保育の魅力を発見することができる。	他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録することができる。	他者に伝えたいような子どもの姿を日々の保育の中に発見できない。
子どもの世界への尊重	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程を尊重し見守ることができ、日誌などに記録することができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程を尊重し見守ることができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程に関心を持つことができない。
生活の連続性への理解	日々の出来事や生活と子どもの姿とのつながりに関心を持ち、関連づけて考えることができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿がつながっていることに関心を持つことができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿がつながっていることに関心を持つことができない。

評価観点の選択 [子どもへの関心 ・ 子どもの世界への尊重 ・ 生活の連続性への理解]
 現時点での自己評価 [すばらしい ・ がんばったね ・ 次はクリアだね]
 ◎その根拠となるエピソード(記入日:)

*ルーブリックの日々の課題部分

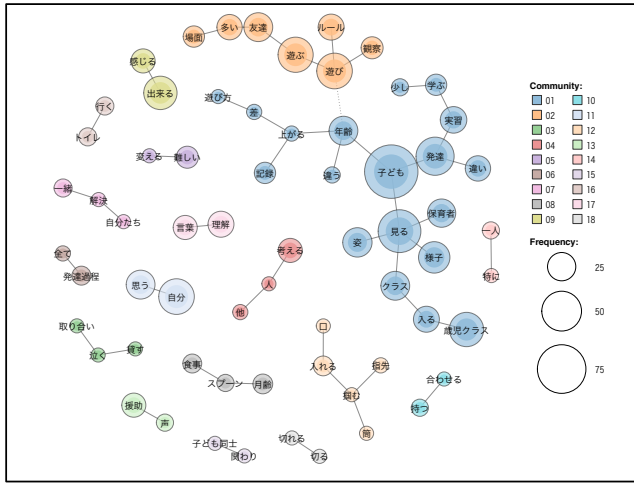
資料8. ルーブリックを活用した事後学習シート

<p>あなたの選んだ番号 (No.) _____ (7-ワークシート③)</p> <p>(STEP1) あなたの学習を振り返り、下記の3項目についての段階の自己評価をしてください。また、なぜそのような評価に丸をつけたかの根拠となるエピソードを具体的に記述してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">発達過程</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> 子どもの姿を記憶し、事前学習した発達知識に照準を当てることができ、発達段階を意識しながら、子どもの姿を記憶することができ、</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">がんばった！</td> <td style="width: 40%; padding: 5px;"> 子どもの姿や行動の観察として記録するが、発達段階と関係づけられることができない。実生活に結びつけることができない。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">理解の理解</td> <td style="padding: 5px;"> 子どもの行動にふれ、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。</td> <td style="padding: 5px;">実ほクリアだね！</td> <td style="padding: 5px;"> 子どもの姿や行動の観察にふれて、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">保護者支援の理解</td> <td style="padding: 5px;"> 保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。</td> <td style="padding: 5px;">実ほクリアだね！</td> <td style="padding: 5px;"> 保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。</td> </tr> </table>	発達過程	子どもの姿を記憶し、事前学習した発達知識に照準を当てることができ、発達段階を意識しながら、子どもの姿を記憶することができ、	がんばった！	子どもの姿や行動の観察として記録するが、発達段階と関係づけられることができない。実生活に結びつけることができない。	理解の理解	子どもの行動にふれ、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。	実ほクリアだね！	子どもの姿や行動の観察にふれて、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。	保護者支援の理解	保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	実ほクリアだね！	保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	<p>(STEP2) エピソードに対するコメント (所要時間4.5分)</p> <p>あなたのエピソードの要点を簡潔にサマツアップしてください。そして、あなたの学習にどのようなエピソードが記憶されています。そのエピソードの内容を振り返り、自分のエピソード (No.) を記入し、自分のエピソードの3つのエピソードについて以下のコメントを記入してください (150字)。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自分にも似たような経験があったか。そこから、何が学ばないことはあるか。 *記録されたエピソードから、その人がどのような学びをしたと推測されるか。 *自分が、この人の立場だったら、次にどのようなことに取り組むか。 *記入し終わったエピソードは再び自分の学習資料にサマツアップもされていいと思います。 <p>自分のエピソード (No.) _____ コメント (必要時間4.5分) _____</p> <p>コメント① (No.) _____</p> <p>コメント② (No.) _____</p> <p>コメント③ (No.) _____</p>
発達過程	子どもの姿を記憶し、事前学習した発達知識に照準を当てることができ、発達段階を意識しながら、子どもの姿を記憶することができ、	がんばった！	子どもの姿や行動の観察として記録するが、発達段階と関係づけられることができない。実生活に結びつけることができない。										
理解の理解	子どもの行動にふれ、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。	実ほクリアだね！	子どもの姿や行動の観察にふれて、姿勢やかわり方、考え方を捉え、実践に結びつけることができる。										
保護者支援の理解	保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	実ほクリアだね！	保護者向けの事例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。										
<p>(発達過程) エピソード</p>	<p>(STEP3) コメントを通しての感想と考察 (所要時間3.0分)</p> <p>あなたのエピソードが記憶されたら、お互いにコメントした感想を伝え、考察 (気づき・新たに学んだこと・自分の学習の特色) を記入し、300字以内で、自分のエピソード (クラス・番号など) ・名前を記入し、表紙に提出してください。</p> <p>①仲間の事例を読み、コメントしてみよう</p>												
<p>(保護者支援の理解) エピソード</p>	<p>②仲間からのコメントを読んで</p>												
<p>所属 _____ 名前 _____</p>													

資料9. テキストマイニング分析[頻出語] (尾崎、2019c)

▼表3. 頻出語 (発達の理解)

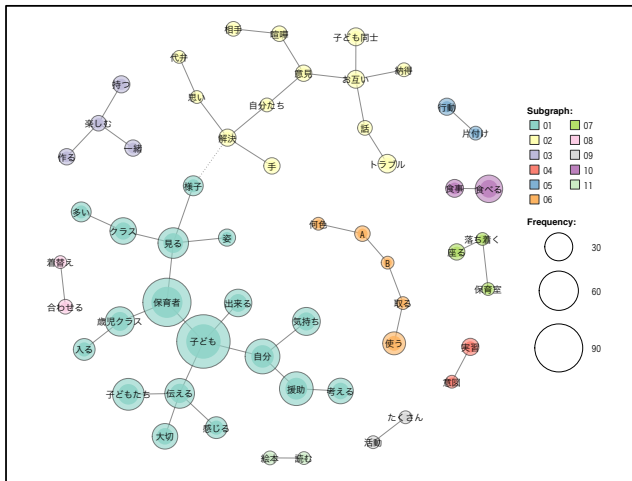
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	91	記録	14	子	7
見る	58	言う	14	上がる	7
発達	46	時間	14	食べる	7
自分	40	場面	14	全て	7
遊び	40	気持ち	13	他	7
遊ぶ	39	月齢	12	大人	7
歳児クラス	37	入れる	12	解決	6
出来る	35	行う	11	楽しい	6
子	33	食事	11	関わり	6
様子	31	大きい	11	泣く	6
姿	27	発達過程	11	強い	6
クラス	26	トイレ	10	教える	6
思う	26	一緒	10	口	6
年齢	26	行く	10	合わせる	6
友達	26	伝える	10	子ども同士	6
保育者	25	スプーン	9	思い	6
歳	23	一人	9	自分たち	6
実習	22	持つ	9	取り合い	6
ルール	21	少し	9	取る	6
入る	21	声	9	出る	6
理解	21	増える	9	人	6
多い	20	分かる	9	切る	6
多い	20	履く	9	切れる	6
援助	18	連う	8	貸す	6
感じる	18	楽しむ	8	脱ぐ	6
言葉	18	行動	8	掴む	6
考える	18	作る	8	前	6
使う	18	子ども達	8	特に	6
観察	15	先生	8	変える	6
子どもたち	15	片付ける	8	遊び方	6
難しい	15	差	7	様々	6
学ぶ	14	指先	7		



▲図1. 「発達の理解」の共起ネットワーク

▼表4. 頻出語 (援助の理解)

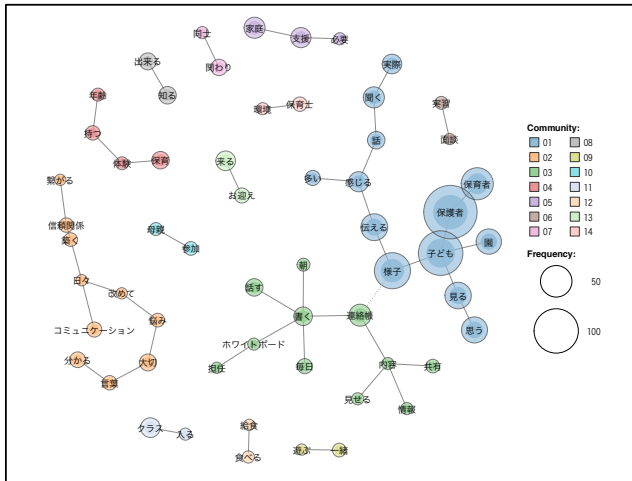
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	112	お互い	12	相手	8
保育者	91	意識	12	他	8
自分	47	関わる	12	友達	8
援助	44	子ども同士	12	話	8
子どもたち	39	場面	12	絵本	7
見る	36	年齢	12	決める	7
子	34	解決	12	自分たち	7
思う	34	解決	11	促す	7
伝える	34	行動	11	納得	7
歳児クラス	33	歳	11	片付け	7
気持ち	30	姿	11	褒める	7
出来る	29	持つ	11	良い	7
食べる	29	時間	11	話す	7
クラス	27	次	11	B	6
声	27	実習	11	たくさん	6
聞く	26	意見	10	意図	6
考える	25	一緒	10	一人一人	6
大切	25	関わり	10	何色	6
言葉	23	座る	10	楽しい	6
言う	21	作る	10	活動	6
使う	20	手	10	月齢	6
先生	19	声掛け	10	思い	6
遊び	18	難しい	10	実技	6
感じる	18	A	9	取る	6
声かけ	18	楽しむ	9	声かけ	6
入る	18	頑張る	9	対応	6
行う	17	喧嘩	9	代弁	6
遊ぶ	17	見守る	9	担任	6
学ぶ	16	知る	9	着替え	6
少し	15	必要	9	読む	6
多い	15	保育	9	分かる	6
様子	15	甘える	8	保育室	6
子ども達	14	教える	8	落ち着く	6
トラブル	13	合わせる	8	理由	6
理解	13	自ら	8		



▲図2. 「援助の理解」の共起ネットワーク

▼表5. 頻出語 (子育て支援の理解)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
保育者	146	相談	14	一日	7
子ども	101	大切	14	環境	7
様子	66	会話	13	関わる	7
保育者	52	関わり	13	機会	7
伝える	36	子	13	気	7
見る	35	歳児クラス	12	気持ち	7
思う	34	分かる	12	見せる	7
園	32	お迎え	11	作る	7
行う	24	コミュニケーション	11	仕事	7
連絡帳	24	安心	11	子ども達	7
家庭	22	先生	11	情報	7
時間	22	多い	11	食べる	7
聞く	22	毎日	11	親子	7
保育園	21	遊び	11	期	7
感じる	20	活動	11	送迎時	7
支援	20	言葉	10	同士	7
クラス	19	持つ	10	内容	7
実際	19	信頼関係	10	入る	7
来る	19	保育士	10	必要	7
子育て支援	18	お父さん	9	延長保育	6
子育て	17	一緒	9	改めて	6
書く	17	共有	9	観察	6
理解	17	参加	9	給食	6
学ぶ	15	笑く	9	集がる	6
子どもたち	15	悩み	9	好き	6
親	15	行なう	8	成長	6
知る	15	実習	8	生活	6
保育	15	体験	8	担任	6
話	15	朝	8	日々	6
話す	15	年齢	8	保育室	6
姿	14	母親	8	面談	6
出来る	14	ホワイトボード	7	遊ぶ	6

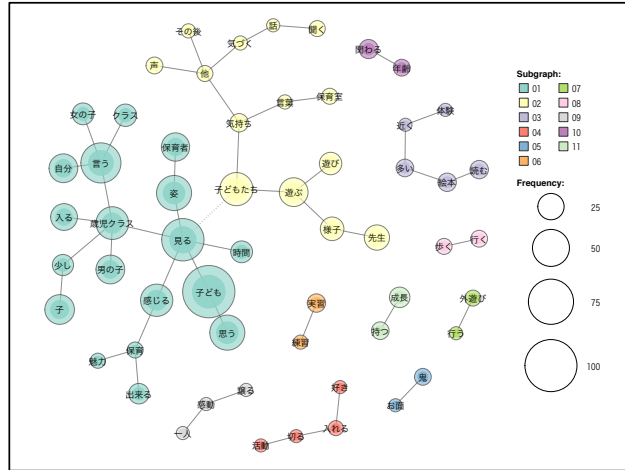


▲図3. 「子育て支援の理解」の共起ネットワーク

資料 10. テキストマイニング分析[頻出語] (尾崎、2019c)

▼表 6. 頻出語 (子どもへの関心)

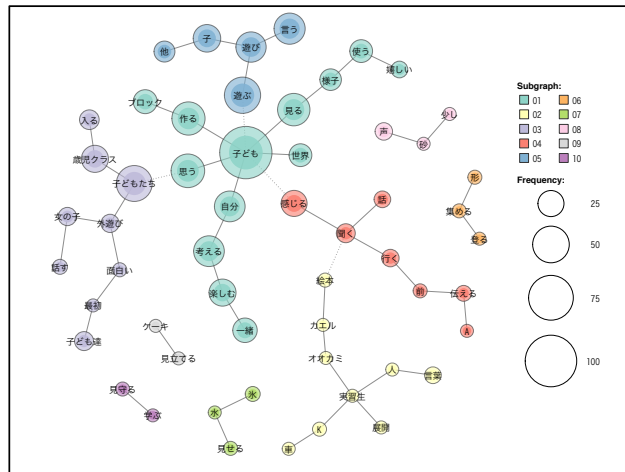
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	101	気持ち	12	考える	7
見る	66	実習	12	座る	7
言う	59	読む	12	前	6
姿	45	使う	11	練習	7
思う	45	子ども達	11	お通	6
子どもたち	40	持つ	11	たくさん	6
歳児クラス	39	多い	11	一人	6
感じる	38	水	11	援助	6
子	32	来る	11	活動	6
自分	30	鬼	10	感動	6
男の子	30	教える	10	近く	6
遊ぶ	30	行く	10	見守る	6
保育者	29	女児	10	好き	6
入る	26	声	10	行う	6
A	23	年齢	10	次	6
先生	23	ホール	9	譲る	6
作る	20	外遊び	9	切る	6
様子	20	見せる	9	体験	6
クラス	18	出る	9	担任	6
一緒	18	他	9	着替え	6
遊び	18	聞く	9	欲しい	6
時間	17	保育	9	話	6
女の子	17	保育室	9		
少し	16	歩く	9		
出来る	15	目	9		
成長	15	歳	8		
伝える	15	入れる	8		
嬉しい	14	魅力	8		
楽しい	13	友達	8		
関わる	13	その後	7		
食べる	13	気づく	7		
絵本	12	言葉	7		



▲図 4. 「子どもへの関心」の共起ネットワーク

▼表 7. 頻出語 (子どもの世界の尊重)

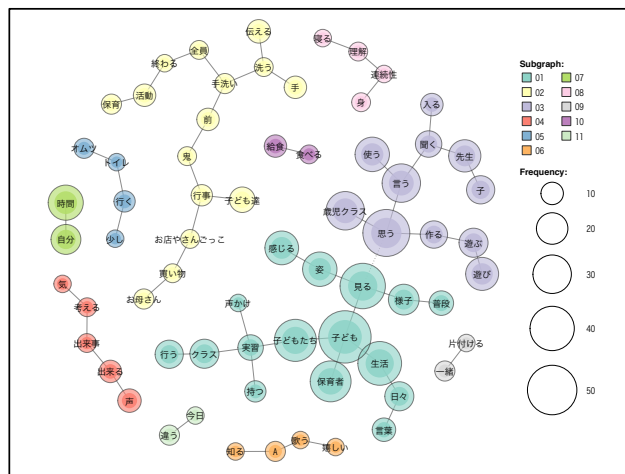
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	103	行く	11	集める	7
遊ぶ	49	持つ	11	出す	7
子どもたち	48	声	11	前	7
思う	42	男の子	11	多い	7
作る	41	嬉しい	10	面白い	7
見る	39	言葉	10	料理	7
言う	36	時間	10	A	6
考える	35	実習	10	おまごご	6
自分	34	話	9	オオカミ	6
遊び	34	食べる	9	カエル	6
子	28	伝える	9	ケーキ	6
楽しむ	27	B	9	ボール	6
歳児クラス	27	ゼリー	8	学ぶ	6
感じる	25	違う	8	見立てる	6
一緒	22	気持ち	8	行う	6
ブロック	21	書く	8	砂	6
楽しい	19	人形	8	最初	6
使う	19	大切	8	参加	6
世界	19	水	8	始める	6
様子	17	分かる	8	次	6
様子	16	友達	8	実習生	6
姿	15	話す	8	車	6
保育者	15	K	7	出る	6
先生	14	園庭	7	少し	6
入る	14	絵本	7	人	6
子ども達	13	鬼	7	水	6
出来る	13	興味	7	展開	6
聞く	13	形	7	登る	6
外遊び	12	見せる	7	様々	6
女の子	12	見守る	7		
色	12	歳	7		



▲図 5. 「子どもの世界の尊重」の共起ネットワーク

▼表 8. 頻出語 (生活の連続性)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	56	学ぶ	10	買い物	7
思う	45	活動	10	理解	7
見る	42	給食	10	心	6
生活	39	手	10	その後	6
子どもたち	36	出来る	10	トイレ	6
保育者	34	前	10	歌う	6
言う	30	入る	10	嬉しい	6
歳児クラス	30	行く	9	気	6
時間	25	行事	9	今日	6
使う	24	持つ	9	自分たち	6
姿	24	A	8	実習生	6
感じる	23	お母さん	8	終わる	6
遊び	22	オムツ	8	女の子	6
先生	21	違う	8	少し	6
様子	19	一緒	8	座る	6
自分	18	園	8	真似	6
クラス	17	手洗い	8	声かけ	6
日々	17	食器	8	大切	6
遊ぶ	17	多い	8	知る	6
行う	16	保育	8	片付ける	6
子	16	お店やさん	7	流れ	6
作る	15	楽しむ	7	連続性	6
聞く	14	鬼	7		
子ども達	13	経験	7		
実習	13	考える	7		
行動	12	出来る事	7		
音程	12	食べる	7		
言葉	11	身	7		
伝える	11	洗う	7		
練習	11	全員	7		
		年齢	7		

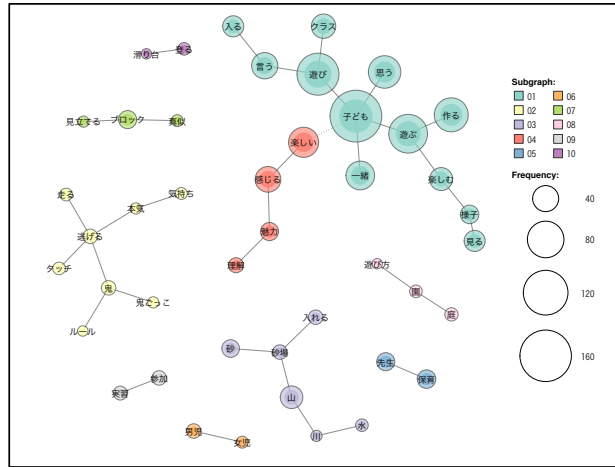


▲図 6. 「生活の連続性」の共起ネットワーク

資料 11. テキストマイニング分析[頻出語] (尾崎、2019c)

▼表 9. 頻出語 (遊びの理解)

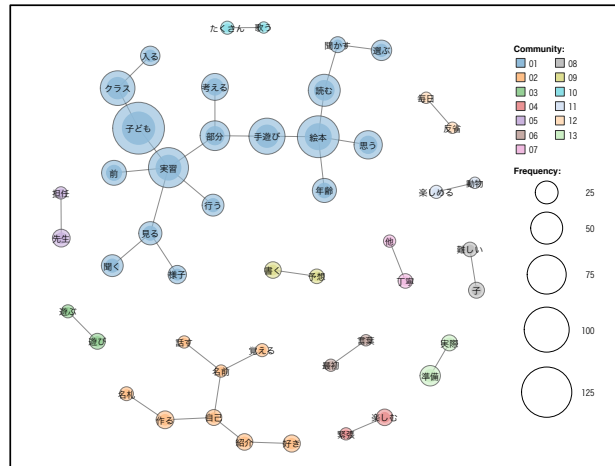
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	162	男児	12	行う	7
遊び	106	遊げる	12	出る	7
遊ぶ	90	入れる	12	大	7
作る	69	実習	11	川	7
思う	63	水	11	多い	7
楽しい	54	繰り返す	10	男の子	7
一緒	49	声	10	途中	7
言う	41	庭	10	買い物	7
感じる	39	転がす	10	分かる	7
クラス	35	タッチ	9	変わる	7
楽しむ	31	箱	9	本気	7
山	30	考える	9	様々	7
見る	26	最初	9	たくさん	6
入る	26	自由	9	トンネル	6
子	24	水	9	ルール	6
自分	21	走る	9	家	6
保育	20	登る	9	回す	6
様子	20	同士	9	滑り台	6
ブロック	19	ホール	8	形つける	6
使う	19	壊す	8	見つける	6
先生	19	気持ち	8	行く	6
魅力	19	共有	8	歳	6
砂	18	型	8	三輪車	6
女の子	18	手	8	始まる	6
A	17	周り	8	時間	6
姿	14	女児	8	大切	6
友達	13	真似	8	展開	6
理解	13	他	8	難しい	6
鬼	12	お母さん	7	発想	6
砂場	12	外	7	壁	6
参加	12	嬉しい	7	遊び方	6
持つ	12	鬼ごっこ	7		
出来る	12	見立てる	7		



▲図 7. 「遊びの理解」の共起ネットワーク

▼表 10. 頻出語 (関わる準備と実践)

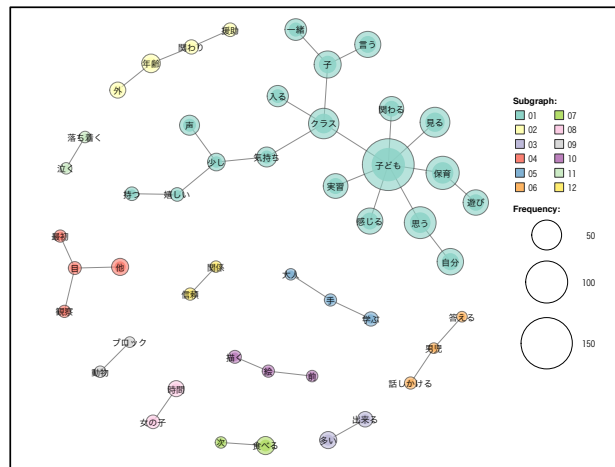
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	133	次	13	導入	8
絵本	86	書く	13	遊ぶ	8
実習	79	紹介	13	臨む	8
手遊び	64	用意	12	家様	7
クラス	59	子	12	行く	7
読む	50	自己	12	最初	7
部分	43	実際	12	他	7
思う	39	聞かす	12	担任	7
考える	35	遊び	12	名前	7
関わる	32	一緒	10	理解	7
前	30	合わせる	10	話す	7
年齢	28	歳	10	運う	6
見る	26	持つ	10	家	6
保育	24	時間	10	歌う	6
行う	23	丁寧	10	確認	6
聞く	23	難しい	10	言葉	6
声	21	予想	10	姿	6
出来る	20	楽しい	9	少し	6
準備	20	実践	9	調べる	6
遊ぶ	20	多い	9	伝える	6
言う	18	発達	9	動物	6
入る	18	反応	9	内容	6
感じる	17	名札	9	反省	6
事前	17	たくさん	8	変える	6
様子	16	意識	8	毎日	6
作る	15	援助	8	良い	6
自分	15	覚える	8		
先生	15	楽しめる	8		
練習	15	興味	8		
好き	14	繋げる	8		
楽しむ	13	紙芝居	8		



▲図 8. 「関わる準備と実践」の共起ネットワーク

▼表 11. 頻出語 (関わる魅力の発見)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
子ども	133	様子	14	関係	7
保育	82	楽しい	13	遊ぶ	7
思う	57	気づく	13	近く	7
クラス	52	歳	13	考え	7
見る	50	出来る	13	今	7
子	41	行く	12	今日	7
自分	39	学ぶ	11	次	7
感じる	38	関わり	11	前	7
言う	38	A	10	大人	7
遊び	36	B	10	動物	7
実習	34	オムツ	10	難しい	7
関わる	33	援助	10	落ち着く	7
遊ぶ	33	嬉しい	10	R	6
一緒	26	考える	10	お母さん	6
入る	25	持つ	10	ブロック	6
気持ち	22	女の子	10	ルール	6
声	22	教える	9	気	6
年齢	19	成長	9	鬼	6
言葉	18	描く	9	見せる	6
変える	18	目	9	見守る	6
大切	18	来る	9	行う	6
少し	17	絵	8	合わせる	6
先生	17	観察	8	手遊び	6
他	16	最初	8	初めて	6
多い	16	手	8	笑顔	6
姿	15	信頼	8	心	6
聞く	15	人見知り	8	男の子	6
外	14	着替え	8	男児	6
作る	14	伝える	8	答える	6
時間	14	発見	8	理解	6
出る	14	話しかける	8		
人	14	話す	8		



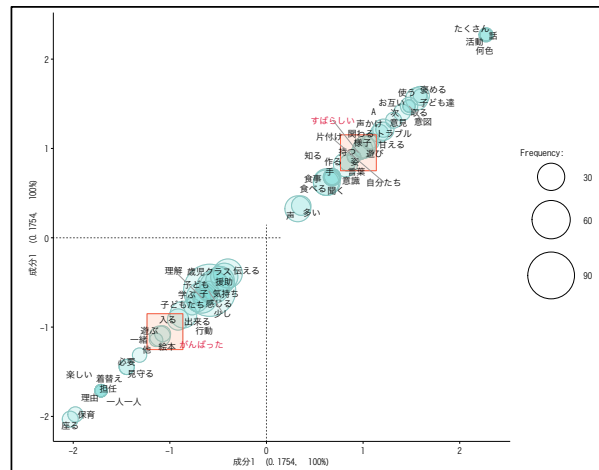
▲図 9. 「関わる魅力の発見」の共起ネットワーク

[巻末資料]

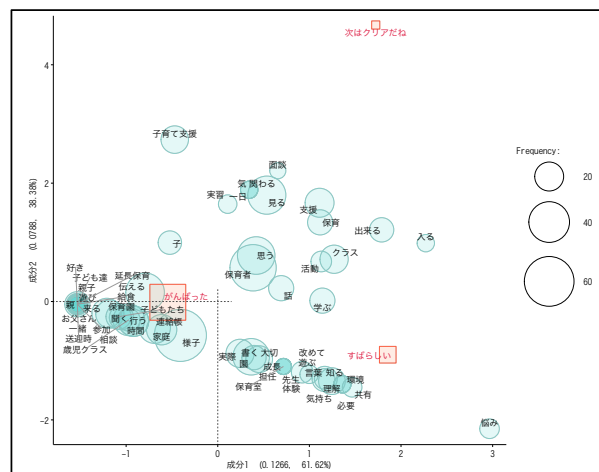
資料 12. テキストマイニング分析[スコア別] (尾崎、2019c)



▲図 10. 発達の理解 (自己評価)



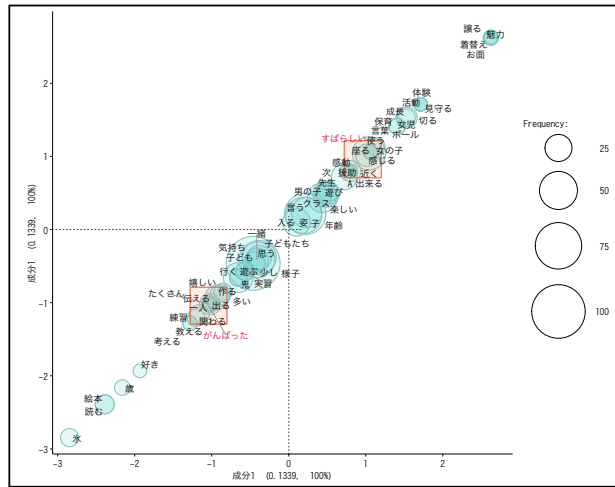
▲図 11. 援助の理解 (自己評価)



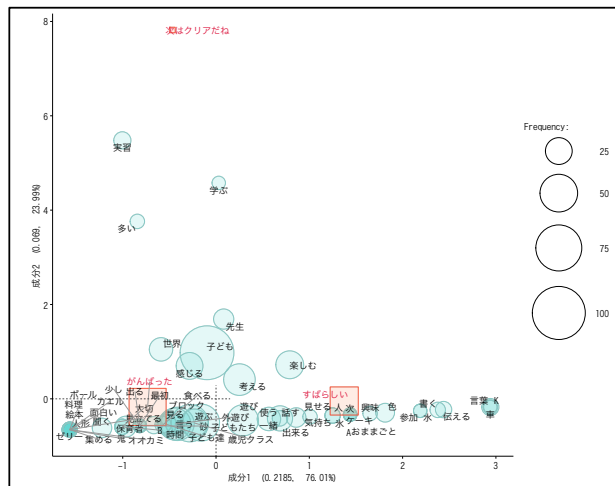
▲図 12. 子育て支援の理解 (自己評価)

[巻末資料]

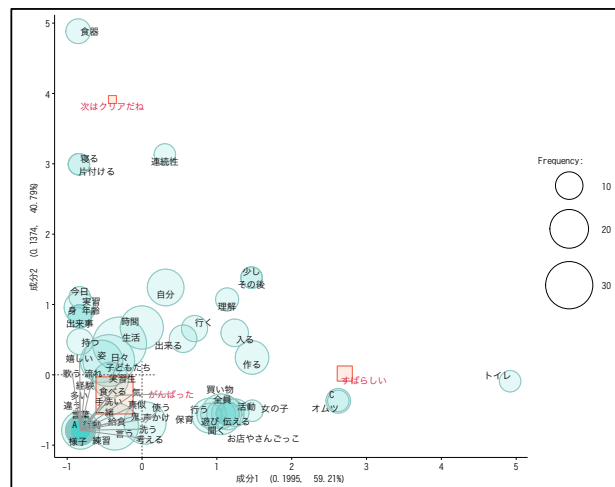
資料 13. テキストマイニング分析[スコア別] (尾崎、2019c)



▲図 13. 子どもへの関心(自己評価)

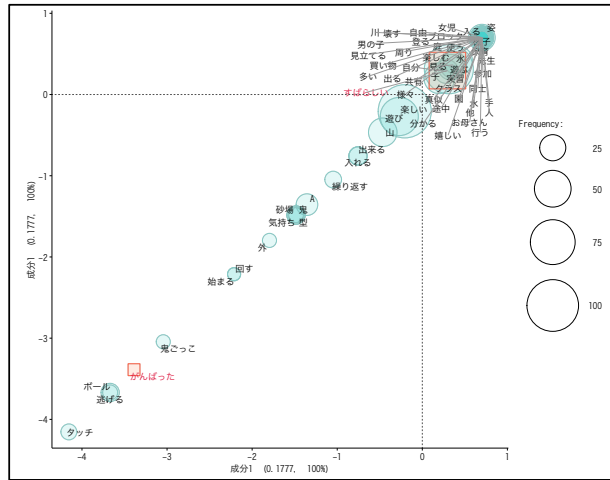


▲図 14. 子どもの世界の尊重(自己評価)

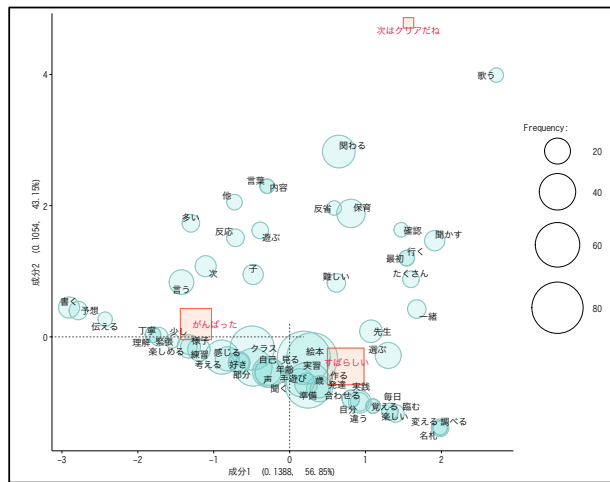


▲図 15. 生活の連続性(自己評価)

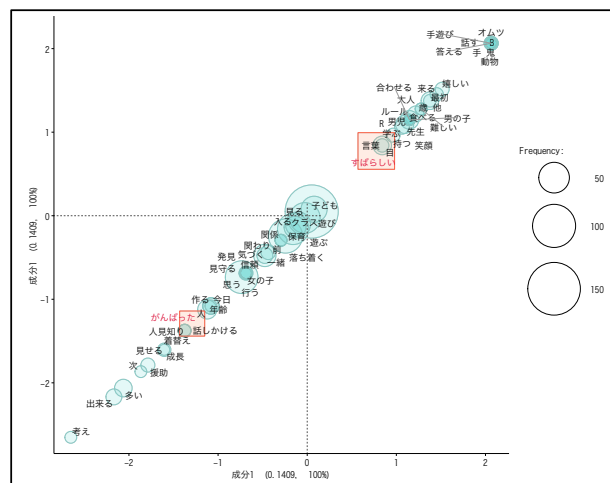
資料 14. テキストマイニング分析[スコア別] (尾崎、2019c)



▲図 16. 遊びの理解 (自己評価)

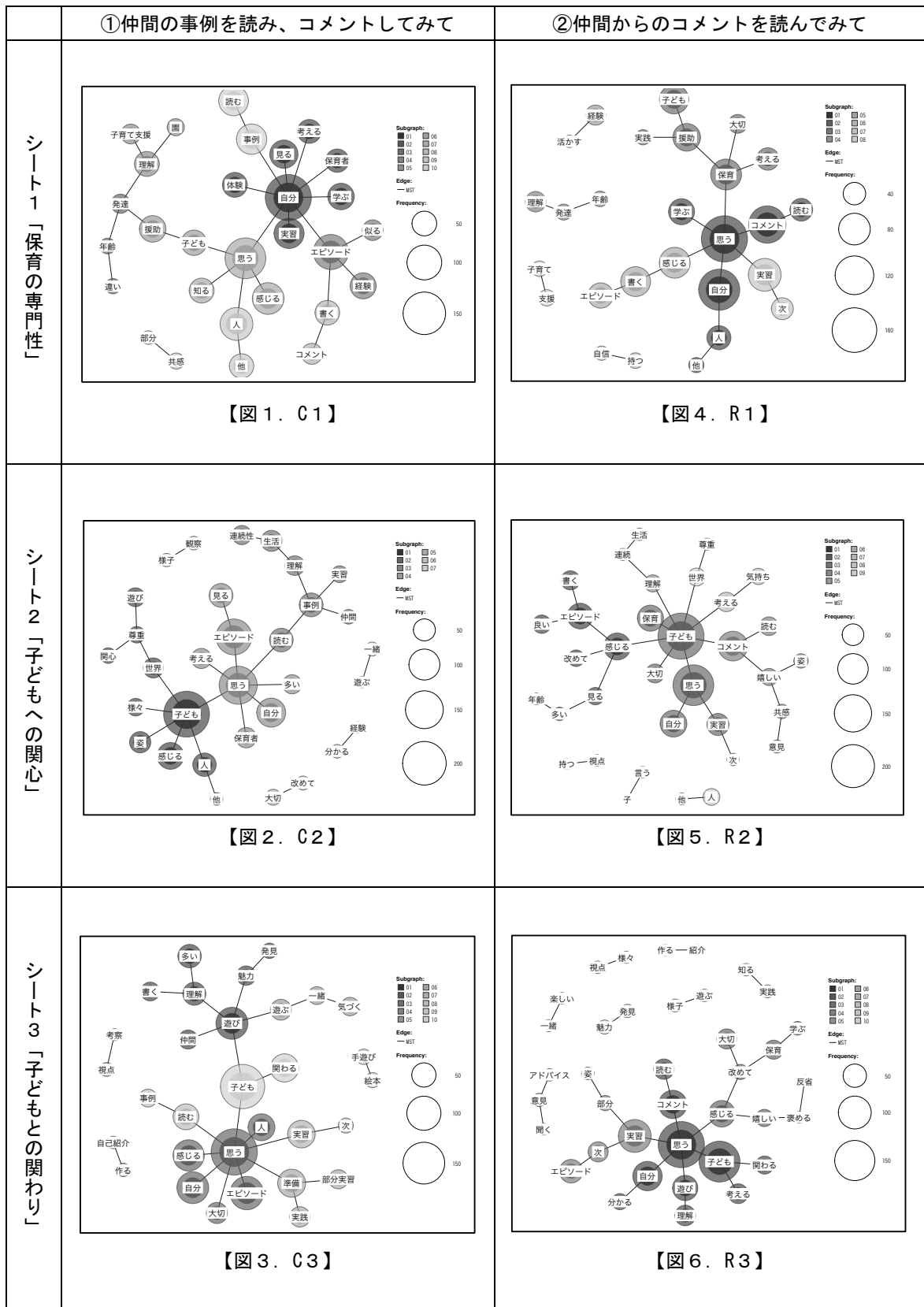


▲図 17. 関わる準備と実践 (自己評価)



▲図 18. 関わる魅力の発見 (自己評価)

資料 15. テキストマイニング分析[コメント／共起ネットワーク一覧表] (尾崎、2020b)



[巻末資料]

資料 16. テキストマイニング分析[コメント／頻出語一覧表] (尾崎、2020b)

	① 仲間の事例を読み、コメントしてみても	② 仲間からのコメントを読んでみる																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
シート1「保育の専門性」	【表 3. C1】	【表 6. R1】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>自分</td><td>177</td><td>共感</td><td>21</td><td>関わり方</td><td>10</td></tr> <tr><td>思う</td><td>138</td><td>対応</td><td>21</td><td>機会</td><td>10</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>102</td><td>年齢</td><td>20</td><td>行う</td><td>10</td></tr> <tr><td>人</td><td>89</td><td>保育</td><td>20</td><td>行動</td><td>10</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>83</td><td>違い</td><td>19</td><td>観察</td><td>9</td></tr> <tr><td>事例</td><td>76</td><td>様子</td><td>19</td><td>実践</td><td>9</td></tr> <tr><td>実習</td><td>75</td><td>良い</td><td>18</td><td>色々</td><td>9</td></tr> <tr><td>読む</td><td>73</td><td>次</td><td>17</td><td>大切</td><td>9</td></tr> <tr><td>見る</td><td>66</td><td>深い</td><td>17</td><td>伝わる</td><td>9</td></tr> <tr><td>援助</td><td>58</td><td>仕方</td><td>16</td><td>発見</td><td>9</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>58</td><td>それぞれ</td><td>15</td><td>次回</td><td>8</td></tr> <tr><td>経験</td><td>56</td><td>考え</td><td>15</td><td>新しい</td><td>8</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>53</td><td>深める</td><td>15</td><td>深まる</td><td>8</td></tr> <tr><td>体験</td><td>51</td><td>部分</td><td>15</td><td>遊び</td><td>8</td></tr> <tr><td>知る</td><td>51</td><td>保護者</td><td>15</td><td>参考</td><td>7</td></tr> <tr><td>理解</td><td>51</td><td>改めて</td><td>14</td><td>姿</td><td>7</td></tr> <tr><td>書く</td><td>50</td><td>考え方</td><td>14</td><td>持つ</td><td>7</td></tr> <tr><td>他</td><td>49</td><td>支援</td><td>14</td><td>相手</td><td>7</td></tr> <tr><td>考える</td><td>47</td><td>新たな</td><td>14</td><td>特に</td><td>7</td></tr> <tr><td>多い</td><td>45</td><td>得る</td><td>14</td><td>意見</td><td>6</td></tr> <tr><td>保育者</td><td>45</td><td>勉強</td><td>14</td><td>一人一人</td><td>6</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>41</td><td>異なる</td><td>13</td><td>過程</td><td>6</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>40</td><td>関わる</td><td>13</td><td>活かす</td><td>6</td></tr> <tr><td>違う</td><td>38</td><td>考察</td><td>13</td><td>感じ方</td><td>6</td></tr> <tr><td>コメント</td><td>36</td><td>方法</td><td>13</td><td>頑張る</td><td>6</td></tr> <tr><td>似る</td><td>35</td><td>捉える</td><td>12</td><td>吸収</td><td>6</td></tr> <tr><td>子育て支援</td><td>32</td><td>内容</td><td>12</td><td>共有</td><td>6</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>31</td><td>気持ち</td><td>11</td><td>繋げる</td><td>6</td></tr> <tr><td>発達</td><td>30</td><td>言葉</td><td>11</td><td>言う</td><td>6</td></tr> <tr><td>学び</td><td>29</td><td>実際</td><td>11</td><td>個人差</td><td>6</td></tr> <tr><td>様々</td><td>29</td><td>難しい</td><td>11</td><td>今回</td><td>6</td></tr> <tr><td>場面</td><td>26</td><td>聞く</td><td>11</td><td>思い出す</td><td>6</td></tr> <tr><td>視点</td><td>25</td><td>クラス</td><td>10</td><td>自分自身</td><td>6</td></tr> <tr><td>園</td><td>24</td><td>意図</td><td>10</td><td>詳しい</td><td>6</td></tr> <tr><td>たくさん</td><td>22</td><td>関わり</td><td>10</td><td>振り返る</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	自分	177	共感	21	関わり方	10	思う	138	対応	21	機会	10	エピソード	102	年齢	20	行う	10	人	89	保育	20	行動	10	感じる	83	違い	19	観察	9	事例	76	様子	19	実践	9	実習	75	良い	18	色々	9	読む	73	次	17	大切	9	見る	66	深い	17	伝わる	9	援助	58	仕方	16	発見	9	学ぶ	58	それぞれ	15	次回	8	経験	56	考え	15	新しい	8	子ども	53	深める	15	深まる	8	体験	51	部分	15	遊び	8	知る	51	保護者	15	参考	7	理解	51	改めて	14	姿	7	書く	50	考え方	14	持つ	7	他	49	支援	14	相手	7	考える	47	新たな	14	特に	7	多い	45	得る	14	意見	6	保育者	45	勉強	14	一人一人	6	出来る	41	異なる	13	過程	6	気づく	40	関わる	13	活かす	6	違う	38	考察	13	感じ方	6	コメント	36	方法	13	頑張る	6	似る	35	捉える	12	吸収	6	子育て支援	32	内容	12	共有	6	仲間	31	気持ち	11	繋げる	6	発達	30	言葉	11	言う	6	学び	29	実際	11	個人差	6	様々	29	難しい	11	今回	6	場面	26	聞く	11	思い出す	6	視点	25	クラス	10	自分自身	6	園	24	意図	10	詳しい	6	たくさん	22	関わり	10	振り返る	6	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>思う</td><td>172</td><td>事例</td><td>19</td><td>得る</td><td>9</td></tr> <tr><td>自分</td><td>136</td><td>持つ</td><td>19</td><td>褒める</td><td>9</td></tr> <tr><td>コメント</td><td>112</td><td>年齢</td><td>19</td><td>それぞれ</td><td>8</td></tr> <tr><td>実習</td><td>86</td><td>実践</td><td>18</td><td>頑張る</td><td>8</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>76</td><td>他</td><td>18</td><td>姿</td><td>8</td></tr> <tr><td>保育</td><td>76</td><td>視点</td><td>17</td><td>新たな</td><td>8</td></tr> <tr><td>書く</td><td>71</td><td>アドバイス</td><td>16</td><td>深める</td><td>8</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>68</td><td>関わる</td><td>16</td><td>伝わる</td><td>8</td></tr> <tr><td>援助</td><td>61</td><td>自信</td><td>16</td><td>内容</td><td>8</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>54</td><td>分かる</td><td>16</td><td>必要</td><td>8</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>51</td><td>今回</td><td>15</td><td>勉強</td><td>8</td></tr> <tr><td>人</td><td>46</td><td>声</td><td>15</td><td>遊び</td><td>8</td></tr> <tr><td>読む</td><td>41</td><td>意見</td><td>14</td><td>クラス</td><td>7</td></tr> <tr><td>考える</td><td>40</td><td>具体</td><td>14</td><td>意図</td><td>7</td></tr> <tr><td>次</td><td>38</td><td>自身</td><td>14</td><td>違い</td><td>7</td></tr> <tr><td>学び</td><td>35</td><td>意識</td><td>13</td><td>関わり</td><td>7</td></tr> <tr><td>理解</td><td>33</td><td>課題</td><td>13</td><td>共有</td><td>7</td></tr> <tr><td>経験</td><td>32</td><td>今後</td><td>13</td><td>見つける</td><td>7</td></tr> <tr><td>見る</td><td>30</td><td>活かす</td><td>12</td><td>工夫</td><td>7</td></tr> <tr><td>大切</td><td>28</td><td>観察</td><td>12</td><td>行動</td><td>7</td></tr> <tr><td>知る</td><td>28</td><td>次回</td><td>12</td><td>質問</td><td>7</td></tr> <tr><td>嬉しい</td><td>26</td><td>安心</td><td>11</td><td>生かす</td><td>7</td></tr> <tr><td>良い</td><td>26</td><td>園</td><td>11</td><td>捉える</td><td>7</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>25</td><td>繋がる</td><td>11</td><td>難しい</td><td>7</td></tr> <tr><td>体験</td><td>24</td><td>仕方</td><td>11</td><td>評価</td><td>7</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>23</td><td>深い</td><td>11</td><td>聞く</td><td>7</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>23</td><td>反省</td><td>11</td><td>たくさん</td><td>6</td></tr> <tr><td>違う</td><td>21</td><td>活動</td><td>10</td><td>気持ち</td><td>6</td></tr> <tr><td>共感</td><td>21</td><td>言葉</td><td>10</td><td>繋げる</td><td>6</td></tr> <tr><td>支援</td><td>21</td><td>行う</td><td>10</td><td>参考</td><td>6</td></tr> <tr><td>多い</td><td>21</td><td>様々</td><td>10</td><td>取り入れる</td><td>6</td></tr> <tr><td>改めて</td><td>20</td><td>様子</td><td>10</td><td>発見</td><td>6</td></tr> <tr><td>発達</td><td>20</td><td>似る</td><td>9</td><td>部分</td><td>6</td></tr> <tr><td>考え</td><td>19</td><td>場面</td><td>9</td><td>保護</td><td>6</td></tr> <tr><td>子育て</td><td>19</td><td>振り返る</td><td>9</td><td>目標</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	思う	172	事例	19	得る	9	自分	136	持つ	19	褒める	9	コメント	112	年齢	19	それぞれ	8	実習	86	実践	18	頑張る	8	感じる	76	他	18	姿	8	保育	76	視点	17	新たな	8	書く	71	アドバイス	16	深める	8	子ども	68	関わる	16	伝わる	8	援助	61	自信	16	内容	8	学ぶ	54	分かる	16	必要	8	エピソード	51	今回	15	勉強	8	人	46	声	15	遊び	8	読む	41	意見	14	クラス	7	考える	40	具体	14	意図	7	次	38	自身	14	違い	7	学び	35	意識	13	関わり	7	理解	33	課題	13	共有	7	経験	32	今後	13	見つける	7	見る	30	活かす	12	工夫	7	大切	28	観察	12	行動	7	知る	28	次回	12	質問	7	嬉しい	26	安心	11	生かす	7	良い	26	園	11	捉える	7	出来る	25	繋がる	11	難しい	7	体験	24	仕方	11	評価	7	気づく	23	深い	11	聞く	7	仲間	23	反省	11	たくさん	6	違う	21	活動	10	気持ち	6	共感	21	言葉	10	繋げる	6	支援	21	行う	10	参考	6	多い	21	様々	10	取り入れる	6	改めて	20	様子	10	発見	6	発達	20	似る	9	部分	6	考え	19	場面	9	保護	6	子育て	19	振り返る	9	目標	6																																									
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
自分	177	共感	21	関わり方	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
思う	138	対応	21	機会	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エピソード	102	年齢	20	行う	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
人	89	保育	20	行動	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
感じる	83	違い	19	観察	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
事例	76	様子	19	実践	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
実習	75	良い	18	色々	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
読む	73	次	17	大切	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
見る	66	深い	17	伝わる	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
援助	58	仕方	16	発見	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学ぶ	58	それぞれ	15	次回	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
経験	56	考え	15	新しい	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子ども	53	深める	15	深まる	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
体験	51	部分	15	遊び	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
知る	51	保護者	15	参考	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
理解	51	改めて	14	姿	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
書く	50	考え方	14	持つ	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
他	49	支援	14	相手	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
考える	47	新たな	14	特に	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
多い	45	得る	14	意見	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
保育者	45	勉強	14	一人一人	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
出来る	41	異なる	13	過程	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気づく	40	関わる	13	活かす	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
違う	38	考察	13	感じ方	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
コメント	36	方法	13	頑張る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
似る	35	捉える	12	吸収	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子育て支援	32	内容	12	共有	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仲間	31	気持ち	11	繋げる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
発達	30	言葉	11	言う	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学び	29	実際	11	個人差	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
様々	29	難しい	11	今回	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
場面	26	聞く	11	思い出す	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
視点	25	クラス	10	自分自身	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
園	24	意図	10	詳しい	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
たくさん	22	関わり	10	振り返る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
思う	172	事例	19	得る	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
自分	136	持つ	19	褒める	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
コメント	112	年齢	19	それぞれ	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
実習	86	実践	18	頑張る	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
感じる	76	他	18	姿	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
保育	76	視点	17	新たな	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
書く	71	アドバイス	16	深める	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子ども	68	関わる	16	伝わる	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
援助	61	自信	16	内容	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学ぶ	54	分かる	16	必要	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エピソード	51	今回	15	勉強	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
人	46	声	15	遊び	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
読む	41	意見	14	クラス	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
考える	40	具体	14	意図	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
次	38	自身	14	違い	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学び	35	意識	13	関わり	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
理解	33	課題	13	共有	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
経験	32	今後	13	見つける	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
見る	30	活かす	12	工夫	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
大切	28	観察	12	行動	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
知る	28	次回	12	質問	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
嬉しい	26	安心	11	生かす	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
良い	26	園	11	捉える	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
出来る	25	繋がる	11	難しい	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
体験	24	仕方	11	評価	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気づく	23	深い	11	聞く	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仲間	23	反省	11	たくさん	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
違う	21	活動	10	気持ち	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
共感	21	言葉	10	繋げる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
支援	21	行う	10	参考	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
多い	21	様々	10	取り入れる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
改めて	20	様子	10	発見	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
発達	20	似る	9	部分	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
考え	19	場面	9	保護	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子育て	19	振り返る	9	目標	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
シート2「子どもへの関心」	【表 4. C2】	【表 7. R2】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>子ども</td><td>222</td><td>分かる</td><td>19</td><td>今回</td><td>8</td></tr> <tr><td>思う</td><td>152</td><td>面白い</td><td>18</td><td>場</td><td>8</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>135</td><td>様子</td><td>18</td><td>沢山</td><td>8</td></tr> <tr><td>自分</td><td>88</td><td>関わる</td><td>17</td><td>部分</td><td>8</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>75</td><td>言葉</td><td>17</td><td>印象</td><td>7</td></tr> <tr><td>見る</td><td>59</td><td>良い</td><td>17</td><td>具体的</td><td>7</td></tr> <tr><td>事例</td><td>59</td><td>他</td><td>16</td><td>言動</td><td>7</td></tr> <tr><td>読む</td><td>58</td><td>体験</td><td>16</td><td>行う</td><td>7</td></tr> <tr><td>人</td><td>57</td><td>コメント</td><td>15</td><td>細かい</td><td>7</td></tr> <tr><td>姿</td><td>47</td><td>共感</td><td>14</td><td>視野</td><td>7</td></tr> <tr><td>生活</td><td>46</td><td>園</td><td>13</td><td>実習中</td><td>7</td></tr> <tr><td>書く</td><td>44</td><td>行動</td><td>13</td><td>出会う</td><td>7</td></tr> <tr><td>保育者</td><td>43</td><td>伝える</td><td>13</td><td>少し</td><td>7</td></tr> <tr><td>考える</td><td>42</td><td>目線</td><td>13</td><td>心</td><td>7</td></tr> <tr><td>世界</td><td>42</td><td>遊ぶ</td><td>13</td><td>振り返る</td><td>7</td></tr> <tr><td>理解</td><td>40</td><td>それぞれ</td><td>12</td><td>深い</td><td>7</td></tr> <tr><td>多い</td><td>38</td><td>経験</td><td>12</td><td>成長</td><td>7</td></tr> <tr><td>連続性</td><td>38</td><td>視点</td><td>12</td><td>声掛け</td><td>7</td></tr> <tr><td>遊び</td><td>37</td><td>色々</td><td>12</td><td>素晴らしい</td><td>7</td></tr> <tr><td>援助</td><td>35</td><td>世界観</td><td>12</td><td>内容</td><td>7</td></tr> <tr><td>子どもたち</td><td>35</td><td>考察</td><td>11</td><td>発見</td><td>7</td></tr> <tr><td>様々</td><td>32</td><td>持つ</td><td>11</td><td>浮かぶ</td><td>7</td></tr> <tr><td>実習</td><td>29</td><td>大人</td><td>11</td><td>エピソード記録</td><td>6</td></tr> <tr><td>違う</td><td>28</td><td>勉強</td><td>11</td><td>クラス</td><td>6</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>28</td><td>関わり方</td><td>10</td><td>気</td><td>6</td></tr> <tr><td>尊重</td><td>28</td><td>想像</td><td>10</td><td>疑問</td><td>6</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>26</td><td>捉える</td><td>10</td><td>共有</td><td>6</td></tr> <tr><td>大切</td><td>26</td><td>日々</td><td>10</td><td>行事</td><td>6</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>25</td><td>楽しい</td><td>9</td><td>参考</td><td>6</td></tr> <tr><td>関心</td><td>25</td><td>繋がる</td><td>9</td><td>仕方</td><td>6</td></tr> <tr><td>知る</td><td>25</td><td>見守る</td><td>9</td><td>子</td><td>6</td></tr> <tr><td>場面</td><td>24</td><td>考え</td><td>9</td><td>実習生</td><td>6</td></tr> <tr><td>保育</td><td>24</td><td>魅力</td><td>9</td><td>想像力</td><td>6</td></tr> <tr><td>たくさん</td><td>22</td><td>立つ</td><td>9</td><td>大切さ</td><td>6</td></tr> <tr><td>気持ち</td><td>22</td><td>学び</td><td>8</td><td>難しい</td><td>6</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>22</td><td>楽しむ</td><td>8</td><td>日常</td><td>6</td></tr> <tr><td>一輪</td><td>20</td><td>活動</td><td>8</td><td>普段</td><td>6</td></tr> <tr><td>改めて</td><td>20</td><td>関わり</td><td>8</td><td>聞く</td><td>6</td></tr> <tr><td>観察</td><td>19</td><td>記録</td><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>素敵</td><td>19</td><td>広がる</td><td>8</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	子ども	222	分かる	19	今回	8	思う	152	面白い	18	場	8	エピソード	135	様子	18	沢山	8	自分	88	関わる	17	部分	8	感じる	75	言葉	17	印象	7	見る	59	良い	17	具体的	7	事例	59	他	16	言動	7	読む	58	体験	16	行う	7	人	57	コメント	15	細かい	7	姿	47	共感	14	視野	7	生活	46	園	13	実習中	7	書く	44	行動	13	出会う	7	保育者	43	伝える	13	少し	7	考える	42	目線	13	心	7	世界	42	遊ぶ	13	振り返る	7	理解	40	それぞれ	12	深い	7	多い	38	経験	12	成長	7	連続性	38	視点	12	声掛け	7	遊び	37	色々	12	素晴らしい	7	援助	35	世界観	12	内容	7	子どもたち	35	考察	11	発見	7	様々	32	持つ	11	浮かぶ	7	実習	29	大人	11	エピソード記録	6	違う	28	勉強	11	クラス	6	出来る	28	関わり方	10	気	6	尊重	28	想像	10	疑問	6	気づく	26	捉える	10	共有	6	大切	26	日々	10	行事	6	学ぶ	25	楽しい	9	参考	6	関心	25	繋がる	9	仕方	6	知る	25	見守る	9	子	6	場面	24	考え	9	実習生	6	保育	24	魅力	9	想像力	6	たくさん	22	立つ	9	大切さ	6	気持ち	22	学び	8	難しい	6	仲間	22	楽しむ	8	日常	6	一輪	20	活動	8	普段	6	改めて	20	関わり	8	聞く	6	観察	19	記録	8			素敵	19	広がる	8			<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th><th>抽出語</th><th>出現回数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>子ども</td><td>230</td><td>声</td><td>16</td><td>遊ぶ</td><td>8</td></tr> <tr><td>思う</td><td>180</td><td>観察</td><td>15</td><td>立つ</td><td>8</td></tr> <tr><td>コメント</td><td>95</td><td>尊重</td><td>15</td><td>今後</td><td>7</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>78</td><td>他</td><td>15</td><td>質問</td><td>7</td></tr> <tr><td>自分</td><td>77</td><td>連続</td><td>15</td><td>心</td><td>7</td></tr> <tr><td>保育</td><td>73</td><td>言う</td><td>14</td><td>新たな</td><td>7</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>71</td><td>行動</td><td>14</td><td>深い</td><td>7</td></tr> <tr><td>実習</td><td>52</td><td>視点</td><td>14</td><td>積極</td><td>7</td></tr> <tr><td>考える</td><td>40</td><td>場面</td><td>14</td><td>先生</td><td>7</td></tr> <tr><td>書く</td><td>39</td><td>年齢</td><td>14</td><td>特に</td><td>7</td></tr> <tr><td>大切</td><td>38</td><td>考察</td><td>13</td><td>発見</td><td>7</td></tr> <tr><td>読む</td><td>37</td><td>園</td><td>12</td><td>部分</td><td>7</td></tr> <tr><td>良い</td><td>36</td><td>繋がる</td><td>12</td><td>聞く</td><td>7</td></tr> <tr><td>世界</td><td>34</td><td>持つ</td><td>12</td><td>保育園</td><td>7</td></tr> <tr><td>見る</td><td>32</td><td>体験</td><td>12</td><td>方法</td><td>7</td></tr> <tr><td>嬉しい</td><td>31</td><td>分かる</td><td>12</td><td>褒める</td><td>7</td></tr> <tr><td>理解</td><td>31</td><td>違う</td><td>11</td><td>頑張る</td><td>6</td></tr> <tr><td>人</td><td>30</td><td>楽しい</td><td>11</td><td>機会</td><td>6</td></tr> <tr><td>改めて</td><td>29</td><td>共有</td><td>11</td><td>教える</td><td>6</td></tr> <tr><td>気持ち</td><td>28</td><td>難しい</td><td>11</td><td>見守る</td><td>6</td></tr> <tr><td>援助</td><td>26</td><td>様子</td><td>11</td><td>向ける</td><td>6</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>24</td><td>経験</td><td>10</td><td>今回</td><td>6</td></tr> <tr><td>言葉</td><td>24</td><td>子</td><td>10</td><td>作る</td><td>6</td></tr> <tr><td>共感</td><td>22</td><td>事例</td><td>10</td><td>仕方</td><td>6</td></tr> <tr><td>姿</td><td>22</td><td>深める</td><td>10</td><td>自信</td><td>6</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>21</td><td>捉える</td><td>10</td><td>重要</td><td>6</td></tr> <tr><td>知る</td><td>21</td><td>伝わる</td><td>10</td><td>少し</td><td>6</td></tr> <tr><td>関わり</td><td>20</td><td>勉強</td><td>10</td><td>想像</td><td>6</td></tr> <tr><td>多い</td><td>19</td><td>たくさん</td><td>9</td><td>大人</td><td>6</td></tr> <tr><td>意見</td><td>18</td><td>意識</td><td>9</td><td>丁寧</td><td>6</td></tr> <tr><td>関心</td><td>18</td><td>活動</td><td>9</td><td>長い</td><td>6</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>18</td><td>考え</td><td>9</td><td>得る</td><td>6</td></tr> <tr><td>関わる</td><td>17</td><td>自身</td><td>9</td><td>反応</td><td>6</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>17</td><td>次回</td><td>8</td><td>必要</td><td>6</td></tr> <tr><td>遊び</td><td>17</td><td>詳しい</td><td>8</td><td>変わる</td><td>6</td></tr> <tr><td>次</td><td>16</td><td>伝える</td><td>8</td><td>目</td><td>6</td></tr> <tr><td>生活</td><td>16</td><td>表現</td><td>8</td><td>目線</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	子ども	230	声	16	遊ぶ	8	思う	180	観察	15	立つ	8	コメント	95	尊重	15	今後	7	感じる	78	他	15	質問	7	自分	77	連続	15	心	7	保育	73	言う	14	新たな	7	エピソード	71	行動	14	深い	7	実習	52	視点	14	積極	7	考える	40	場面	14	先生	7	書く	39	年齢	14	特に	7	大切	38	考察	13	発見	7	読む	37	園	12	部分	7	良い	36	繋がる	12	聞く	7	世界	34	持つ	12	保育園	7	見る	32	体験	12	方法	7	嬉しい	31	分かる	12	褒める	7	理解	31	違う	11	頑張る	6	人	30	楽しい	11	機会	6	改めて	29	共有	11	教える	6	気持ち	28	難しい	11	見守る	6	援助	26	様子	11	向ける	6	気づく	24	経験	10	今回	6	言葉	24	子	10	作る	6	共感	22	事例	10	仕方	6	姿	22	深める	10	自信	6	学ぶ	21	捉える	10	重要	6	知る	21	伝わる	10	少し	6	関わり	20	勉強	10	想像	6	多い	19	たくさん	9	大人	6	意見	18	意識	9	丁寧	6	関心	18	活動	9	長い	6	出来る	18	考え	9	得る	6	関わる	17	自身	9	反応	6	仲間	17	次回	8	必要	6	遊び	17	詳しい	8	変わる	6	次	16	伝える	8	目	6	生活	16	表現	8	目線
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子ども	222	分かる	19	今回	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
思う	152	面白い	18	場	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エピソード	135	様子	18	沢山	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
自分	88	関わる	17	部分	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
感じる	75	言葉	17	印象	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
見る	59	良い	17	具体的	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
事例	59	他	16	言動	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
読む	58	体験	16	行う	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
人	57	コメント	15	細かい	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
姿	47	共感	14	視野	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
生活	46	園	13	実習中	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
書く	44	行動	13	出会う	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
保育者	43	伝える	13	少し	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
考える	42	目線	13	心	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
世界	42	遊ぶ	13	振り返る	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
理解	40	それぞれ	12	深い	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
多い	38	経験	12	成長	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
連続性	38	視点	12	声掛け	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
遊び	37	色々	12	素晴らしい	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
援助	35	世界観	12	内容	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子どもたち	35	考察	11	発見	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
様々	32	持つ	11	浮かぶ	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
実習	29	大人	11	エピソード記録	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
違う	28	勉強	11	クラス	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
出来る	28	関わり方	10	気	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
尊重	28	想像	10	疑問	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気づく	26	捉える	10	共有	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
大切	26	日々	10	行事	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学ぶ	25	楽しい	9	参考	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
関心	25	繋がる	9	仕方	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
知る	25	見守る	9	子	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
場面	24	考え	9	実習生	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
保育	24	魅力	9	想像力	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
たくさん	22	立つ	9	大切さ	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気持ち	22	学び	8	難しい	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仲間	22	楽しむ	8	日常	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
一輪	20	活動	8	普段	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
改めて	20	関わり	8	聞く	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
観察	19	記録	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
素敵	19	広がる	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
子ども	230	声	16	遊ぶ	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
思う	180	観察	15	立つ	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
コメント	95	尊重	15	今後	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
感じる	78	他	15	質問	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
自分	77	連続	15	心	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
保育	73	言う	14	新たな	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エピソード	71	行動	14	深い	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
実習	52	視点	14	積極	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
考える	40	場面	14	先生	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
書く	39	年齢	14	特に	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
大切	38	考察	13	発見	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
読む	37	園	12	部分	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
良い	36	繋がる	12	聞く	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
世界	34	持つ	12	保育園	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
見る	32	体験	12	方法	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
嬉しい	31	分かる	12	褒める	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
理解	31	違う	11	頑張る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
人	30	楽しい	11	機会	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
改めて	29	共有	11	教える	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気持ち	28	難しい	11	見守る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
援助	26	様子	11	向ける	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
気づく	24	経験	10	今回	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
言葉	24	子	10	作る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
共感	22	事例	10	仕方	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
姿	22	深める	10	自信	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
学ぶ	21	捉える	10	重要	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
知る	21	伝わる	10	少し	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
関わり	20	勉強	10	想像	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
多い	19	たくさん	9	大人	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
意見	18	意識	9	丁寧	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
関心	18	活動	9	長い	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
出来る	18	考え	9	得る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
関わる	17	自身	9	反応	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
仲間	17	次回	8	必要	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
遊び	17	詳しい	8	変わる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
次	16	伝える	8	目	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
生活	16	表現	8	目線	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

[巻末資料]

資料 17. テキストマイニング分析[コメント／頻出語一覧表] (尾崎、2020b)

	① 仲間の事例を読み、コメントしてみても	② 仲間からのコメントを読んでみる																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
シート3 「子どもとの関わり」	【表 5. C3】	【表 8. R3】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>思う</td><td>185</td><td>コメント</td><td>17</td><td>繋がる</td><td>9</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>169</td><td>関わり</td><td>17</td><td>深い</td><td>9</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>96</td><td>気持ち</td><td>17</td><td>対応</td><td>9</td></tr> <tr><td>遊び</td><td>88</td><td>子</td><td>17</td><td>伝える</td><td>9</td></tr> <tr><td>自分</td><td>87</td><td>前</td><td>17</td><td>保育</td><td>9</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>84</td><td>他</td><td>17</td><td>立つ</td><td>9</td></tr> <tr><td>関わる</td><td>68</td><td>保育者</td><td>17</td><td>意見</td><td>8</td></tr> <tr><td>準備</td><td>67</td><td>様子</td><td>17</td><td>関わり方</td><td>8</td></tr> <tr><td>実習</td><td>65</td><td>観察</td><td>16</td><td>言う</td><td>8</td></tr> <tr><td>人</td><td>62</td><td>経験</td><td>16</td><td>今後</td><td>8</td></tr> <tr><td>読む</td><td>57</td><td>視点</td><td>16</td><td>似る</td><td>8</td></tr> <tr><td>見る</td><td>48</td><td>共感</td><td>15</td><td>失敗</td><td>8</td></tr> <tr><td>子どもたち</td><td>47</td><td>作る</td><td>15</td><td>実習生</td><td>8</td></tr> <tr><td>多い</td><td>47</td><td>反省</td><td>14</td><td>色々</td><td>8</td></tr> <tr><td>理解</td><td>45</td><td>名札</td><td>14</td><td>予想</td><td>8</td></tr> <tr><td>考える</td><td>43</td><td>違う</td><td>13</td><td>機会</td><td>7</td></tr> <tr><td>大切</td><td>38</td><td>自己紹介</td><td>13</td><td>気付き</td><td>7</td></tr> <tr><td>遊ぶ</td><td>37</td><td>面白い</td><td>13</td><td>工夫</td><td>7</td></tr> <tr><td>実践</td><td>35</td><td>楽しむ</td><td>12</td><td>今回</td><td>7</td></tr> <tr><td>魅力</td><td>32</td><td>考え</td><td>12</td><td>子ども達</td><td>7</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>31</td><td>考察</td><td>12</td><td>事前準備</td><td>7</td></tr> <tr><td>部分実習</td><td>31</td><td>行動</td><td>12</td><td>状況</td><td>7</td></tr> <tr><td>書く</td><td>30</td><td>参考</td><td>12</td><td>新しい</td><td>7</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>29</td><td>持つ</td><td>12</td><td>大人</td><td>7</td></tr> <tr><td>一緒</td><td>27</td><td>実際</td><td>12</td><td>入る</td><td>7</td></tr> <tr><td>事例</td><td>27</td><td>難しい</td><td>12</td><td>部分</td><td>7</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>27</td><td>それぞれ</td><td>11</td><td>勉強</td><td>7</td></tr> <tr><td>知る</td><td>27</td><td>行う</td><td>11</td><td>異なる</td><td>6</td></tr> <tr><td>様々</td><td>25</td><td>事前</td><td>11</td><td>学べる</td><td>6</td></tr> <tr><td>良い</td><td>25</td><td>場面</td><td>11</td><td>頑張る</td><td>6</td></tr> <tr><td>分かる</td><td>24</td><td>想像</td><td>11</td><td>緊張</td><td>6</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>23</td><td>気</td><td>10</td><td>合わせる</td><td>6</td></tr> <tr><td>たくさん</td><td>21</td><td>世界</td><td>10</td><td>参加</td><td>6</td></tr> <tr><td>姿</td><td>20</td><td>積極的</td><td>10</td><td>少し</td><td>6</td></tr> <tr><td>手遊び</td><td>20</td><td>体験</td><td>10</td><td>振り返る</td><td>6</td></tr> <tr><td>発見</td><td>20</td><td>年齢</td><td>10</td><td>深める</td><td>6</td></tr> <tr><td>絵本</td><td>19</td><td>目線</td><td>10</td><td>声掛け</td><td>6</td></tr> <tr><td>楽しい</td><td>19</td><td>園</td><td>9</td><td>沢山</td><td>6</td></tr> <tr><td>次</td><td>19</td><td>援助</td><td>9</td><td>内容</td><td>6</td></tr> <tr><td>改めて</td><td>18</td><td>学び</td><td>9</td><td>発想</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	思う	185	コメント	17	繋がる	9	子ども	169	関わり	17	深い	9	エピソード	96	気持ち	17	対応	9	遊び	88	子	17	伝える	9	自分	87	前	17	保育	9	感じる	84	他	17	立つ	9	関わる	68	保育者	17	意見	8	準備	67	様子	17	関わり方	8	実習	65	観察	16	言う	8	人	62	経験	16	今後	8	読む	57	視点	16	似る	8	見る	48	共感	15	失敗	8	子どもたち	47	作る	15	実習生	8	多い	47	反省	14	色々	8	理解	45	名札	14	予想	8	考える	43	違う	13	機会	7	大切	38	自己紹介	13	気付き	7	遊ぶ	37	面白い	13	工夫	7	実践	35	楽しむ	12	今回	7	魅力	32	考え	12	子ども達	7	仲間	31	考察	12	事前準備	7	部分実習	31	行動	12	状況	7	書く	30	参考	12	新しい	7	気づく	29	持つ	12	大人	7	一緒	27	実際	12	入る	7	事例	27	難しい	12	部分	7	出来る	27	それぞれ	11	勉強	7	知る	27	行う	11	異なる	6	様々	25	事前	11	学べる	6	良い	25	場面	11	頑張る	6	分かる	24	想像	11	緊張	6	学ぶ	23	気	10	合わせる	6	たくさん	21	世界	10	参加	6	姿	20	積極的	10	少し	6	手遊び	20	体験	10	振り返る	6	発見	20	年齢	10	深める	6	絵本	19	目線	10	声掛け	6	楽しい	19	園	9	沢山	6	次	19	援助	9	内容	6	改めて	18	学び	9	発想	6	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> <th>抽出語</th> <th>出現回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>思う</td><td>199</td><td>実践</td><td>15</td><td>深める</td><td>8</td></tr> <tr><td>子ども</td><td>156</td><td>様子</td><td>15</td><td>声</td><td>8</td></tr> <tr><td>実習</td><td>100</td><td>アドバイス</td><td>14</td><td>捉える</td><td>8</td></tr> <tr><td>自分</td><td>80</td><td>絵本</td><td>14</td><td>対応</td><td>8</td></tr> <tr><td>コメント</td><td>74</td><td>姿</td><td>14</td><td>保育園</td><td>8</td></tr> <tr><td>感じる</td><td>65</td><td>視点</td><td>14</td><td>方法</td><td>8</td></tr> <tr><td>遊び</td><td>59</td><td>他</td><td>14</td><td>活かす</td><td>7</td></tr> <tr><td>エピソード</td><td>51</td><td>体験</td><td>14</td><td>観察</td><td>7</td></tr> <tr><td>理解</td><td>39</td><td>知る</td><td>14</td><td>繋がる</td><td>7</td></tr> <tr><td>読む</td><td>38</td><td>遊ぶ</td><td>14</td><td>考え</td><td>7</td></tr> <tr><td>次</td><td>37</td><td>違う</td><td>13</td><td>自身</td><td>7</td></tr> <tr><td>大切</td><td>37</td><td>一緒</td><td>13</td><td>失敗</td><td>7</td></tr> <tr><td>考える</td><td>36</td><td>頑張る</td><td>13</td><td>振り返る</td><td>7</td></tr> <tr><td>保育</td><td>33</td><td>持つ</td><td>13</td><td>想像</td><td>7</td></tr> <tr><td>援助</td><td>31</td><td>様々</td><td>13</td><td>目線</td><td>7</td></tr> <tr><td>気持ち</td><td>31</td><td>楽しい</td><td>12</td><td>立つ</td><td>7</td></tr> <tr><td>関わる</td><td>30</td><td>言う</td><td>12</td><td>臨む</td><td>7</td></tr> <tr><td>見る</td><td>29</td><td>聞く</td><td>12</td><td>課題</td><td>6</td></tr> <tr><td>多い</td><td>28</td><td>褒める</td><td>12</td><td>学び</td><td>6</td></tr> <tr><td>嬉しい</td><td>27</td><td>クラス</td><td>11</td><td>緊張</td><td>6</td></tr> <tr><td>準備</td><td>26</td><td>作る</td><td>11</td><td>考察</td><td>6</td></tr> <tr><td>良い</td><td>26</td><td>自信</td><td>11</td><td>合わせる</td><td>6</td></tr> <tr><td>分かる</td><td>24</td><td>少し</td><td>11</td><td>参加</td><td>6</td></tr> <tr><td>書く</td><td>23</td><td>今回</td><td>10</td><td>使う</td><td>6</td></tr> <tr><td>出来る</td><td>22</td><td>紹介</td><td>10</td><td>指導</td><td>6</td></tr> <tr><td>改めて</td><td>21</td><td>難しい</td><td>10</td><td>事例</td><td>6</td></tr> <tr><td>関わり</td><td>21</td><td>反省</td><td>10</td><td>次回</td><td>6</td></tr> <tr><td>部分</td><td>21</td><td>楽しむ</td><td>9</td><td>実感</td><td>6</td></tr> <tr><td>年齢</td><td>20</td><td>言葉</td><td>9</td><td>取り組む</td><td>6</td></tr> <tr><td>人</td><td>19</td><td>行う</td><td>9</td><td>重要</td><td>6</td></tr> <tr><td>仲間</td><td>18</td><td>今後</td><td>9</td><td>心</td><td>6</td></tr> <tr><td>魅力</td><td>18</td><td>手遊び</td><td>9</td><td>先生</td><td>6</td></tr> <tr><td>学ぶ</td><td>17</td><td>展開</td><td>9</td><td>伝える</td><td>6</td></tr> <tr><td>経験</td><td>17</td><td>評価</td><td>9</td><td>内容</td><td>6</td></tr> <tr><td>意見</td><td>16</td><td>ルール</td><td>8</td><td>発達</td><td>6</td></tr> <tr><td>気づく</td><td>16</td><td>行動</td><td>8</td><td>必要</td><td>6</td></tr> <tr><td>発見</td><td>16</td><td>子</td><td>8</td><td>名札</td><td>6</td></tr> <tr><td>たくさん</td><td>15</td><td>自己</td><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>共感</td><td>15</td><td>場面</td><td>8</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	思う	199	実践	15	深める	8	子ども	156	様子	15	声	8	実習	100	アドバイス	14	捉える	8	自分	80	絵本	14	対応	8	コメント	74	姿	14	保育園	8	感じる	65	視点	14	方法	8	遊び	59	他	14	活かす	7	エピソード	51	体験	14	観察	7	理解	39	知る	14	繋がる	7	読む	38	遊ぶ	14	考え	7	次	37	違う	13	自身	7	大切	37	一緒	13	失敗	7	考える	36	頑張る	13	振り返る	7	保育	33	持つ	13	想像	7	援助	31	様々	13	目線	7	気持ち	31	楽しい	12	立つ	7	関わる	30	言う	12	臨む	7	見る	29	聞く	12	課題	6	多い	28	褒める	12	学び	6	嬉しい	27	クラス	11	緊張	6	準備	26	作る	11	考察	6	良い	26	自信	11	合わせる	6	分かる	24	少し	11	参加	6	書く	23	今回	10	使う	6	出来る	22	紹介	10	指導	6	改めて	21	難しい	10	事例	6	関わり	21	反省	10	次回	6	部分	21	楽しむ	9	実感	6	年齢	20	言葉	9	取り組む	6	人	19	行う	9	重要	6	仲間	18	今後	9	心	6	魅力	18	手遊び	9	先生	6	学ぶ	17	展開	9	伝える	6	経験	17	評価	9	内容	6	意見	16	ルール	8	発達	6	気づく	16	行動	8	必要	6	発見	16	子	8	名札	6	たくさん	15	自己	8			共感	15	場面	8	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
思う	185	コメント	17	繋がる	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
子ども	169	関わり	17	深い	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エピソード	96	気持ち	17	対応	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
遊び	88	子	17	伝える	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
自分	87	前	17	保育	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
感じる	84	他	17	立つ	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
関わる	68	保育者	17	意見	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
準備	67	様子	17	関わり方	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
実習	65	観察	16	言う	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
人	62	経験	16	今後	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
読む	57	視点	16	似る	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
見る	48	共感	15	失敗	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
子どもたち	47	作る	15	実習生	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
多い	47	反省	14	色々	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
理解	45	名札	14	予想	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
考える	43	違う	13	機会	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
大切	38	自己紹介	13	気付き	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
遊ぶ	37	面白い	13	工夫	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
実践	35	楽しむ	12	今回	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
魅力	32	考え	12	子ども達	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
仲間	31	考察	12	事前準備	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
部分実習	31	行動	12	状況	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
書く	30	参考	12	新しい	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
気づく	29	持つ	12	大人	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
一緒	27	実際	12	入る	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
事例	27	難しい	12	部分	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
出来る	27	それぞれ	11	勉強	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
知る	27	行う	11	異なる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
様々	25	事前	11	学べる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
良い	25	場面	11	頑張る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
分かる	24	想像	11	緊張	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
学ぶ	23	気	10	合わせる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
たくさん	21	世界	10	参加	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
姿	20	積極的	10	少し	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
手遊び	20	体験	10	振り返る	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
発見	20	年齢	10	深める	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
絵本	19	目線	10	声掛け	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
楽しい	19	園	9	沢山	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
次	19	援助	9	内容	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
改めて	18	学び	9	発想	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
思う	199	実践	15	深める	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
子ども	156	様子	15	声	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
実習	100	アドバイス	14	捉える	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
自分	80	絵本	14	対応	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
コメント	74	姿	14	保育園	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
感じる	65	視点	14	方法	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
遊び	59	他	14	活かす	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
エピソード	51	体験	14	観察	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
理解	39	知る	14	繋がる	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
読む	38	遊ぶ	14	考え	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
次	37	違う	13	自身	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
大切	37	一緒	13	失敗	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
考える	36	頑張る	13	振り返る	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
保育	33	持つ	13	想像	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
援助	31	様々	13	目線	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
気持ち	31	楽しい	12	立つ	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
関わる	30	言う	12	臨む	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
見る	29	聞く	12	課題	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
多い	28	褒める	12	学び	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
嬉しい	27	クラス	11	緊張	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
準備	26	作る	11	考察	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
良い	26	自信	11	合わせる	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
分かる	24	少し	11	参加	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
書く	23	今回	10	使う	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
出来る	22	紹介	10	指導	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
改めて	21	難しい	10	事例	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
関わり	21	反省	10	次回	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
部分	21	楽しむ	9	実感	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
年齢	20	言葉	9	取り組む	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
人	19	行う	9	重要	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
仲間	18	今後	9	心	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
魅力	18	手遊び	9	先生	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
学ぶ	17	展開	9	伝える	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
経験	17	評価	9	内容	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
意見	16	ルール	8	発達	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
気づく	16	行動	8	必要	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
発見	16	子	8	名札	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
たくさん	15	自己	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
共感	15	場面	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

謝 辞

本研究は、アクションリサーチという研究デザインの性格上、多くの人々との関わりの中から貴重な研究成果を得ることができました。まず、実習用ルーブリック作成にあたっては、東京家政大学保育実習担当の先生方、公立・私立保育園の園長先生方、大学生・大学院生の方々、佐藤浩章先生（大阪大学）に感謝申し上げます。年間を通して行われた5回のワークショップとシンポジウムは、非常に刺激的で「今まさに、これまでにないものが創造されていくワクワク感」に満ちていました。また、学生の実習中の思いを初めて聴く機会となり、何度も「ハッとさせられる瞬間」がありました。インタビューに関しても、「実習中の学びを把握するとはこういうことか」と気づかされる瞬間が多々ありました。この研究の一部は、平成29年度と平成30年度の東京家政大学教育改革推進（学長裁量）経費予算による助成を受けたものであり、この助成のおかげでルーブリック作成や授業研究を教育改革・FD（Faculty Development）に位置付けて考えることができました。この場を借りて、御礼申し上げます。

諸々の論文を執筆するにあたり、平山祐一郎先生、中村教子先生、川添敏弘先生には、多岐にわたるご支援を賜りました。平山祐一郎先生は、ご多忙にも関わらず、「鉱脈を見つけたね」と本研究のテーマについて関心を寄せてくださいました。拙稿を執筆する度に、コメントをくださり、教育評価や心理学の観点からご助言もいただきました。研究を進める中でその価値が少しずつ分かるようになり、自信を持って前に進むことができました。ありがとうございます。中村教子先生は、本学着任の前職が東京都北区の保育園園長でいらしたため、着任当初、実習用ルーブリックの構想をお話ししたところ、園長の側からこのテーマに期待を寄せてくださいました。また、研究プロジェクトを立ち上げる際には、北区保育課長や北区立保育園園長にもつないでくださいました。このようなことがなければ、研究プロジェクトがここまでしっかりしたものになることはなかったと考えると、中村先生の存在が無ければ成立し得ないと言っても過言ではありません。常に側で共に研究を進めてくださいましたこと、感謝申し上げます。川添敏弘先生は、研究仲間であり安藤研究室の先輩にあたり、学位論文を書き続け提出するよう常に檄を飛ばし、叱咤激励してくれました。本務が忙しく日々忙殺されそうになる中、志を失わず作業できたのも、川添先生のおかげです。感謝いたします。

ご指導いただきました安藤孝敏先生には、学位論文のみならず、研究発表や論文投稿に関しても、お忙しい中、いつも丁寧にも何度もご助言いただきました。急遽、本来のテーマから変更するかどうか決断に迷い多少の不安を持って相談したところ、背中を押していただき、方向性を決めることができました。進路指導なども気兼ねなく相談に乗っていただき、論文指導だけでなく精神的な安心感のもと、学位論文執筆に専念できました。感謝と共に、今後、しっかり活躍できるよう精進して参ります。学内副査では、長谷部英一先生、周佐喜和先生、志田基与師先生に大変お世話になりました。副査の先生方に中間発表・公聴会で質問をいただき、論文構成の軸を確認することができました。また、論文作成・題目設定にあたってのポイントや考え方を今更ながら学ぶことができました。先生方から学んだことを今後活かしていきたいと思っております。本当に、ありがとうございました。

最後に、社会人としての大学院生活を快く承認し支えてくれた、妻と2人の息子たちに心から感謝いたします。

令和3年3月3日
尾崎 司